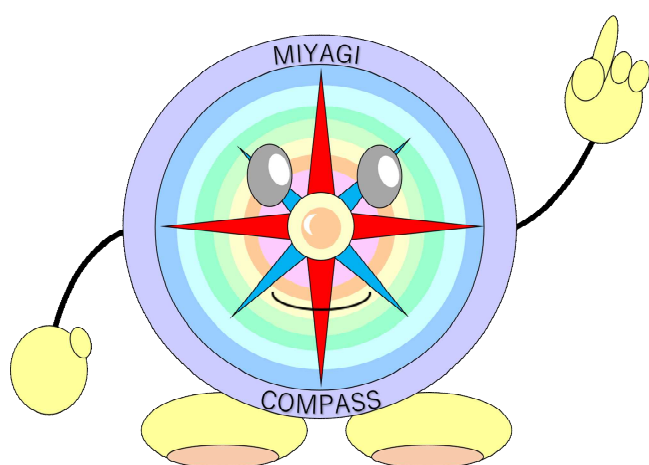


特別支援学校，特別支援学級

知的障害教育のための

みやぎ授業づくり ガイド



宮城県総合教育センター

令和3年度 専門研究

特別支援教育研究グループ



はじめに

「みやぎ授業づくりガイド」は、知的障害教育に携わる先生方に、気軽に手に取り、知的障害教育の授業づくりの楽しさに触れていただくことを目指して作成しました。

特別支援教育の中でも、特に知的障害教育は、児童生徒の実態に合わせて、指導内容・方法を調整・見直しをして授業を行います。そのため、初めて知的障害教育の授業づくりを行うことになった先生方は、戸惑いを感じることもと思われます。しかし、児童生徒一人一人を思い浮かべ、試行錯誤しながらつくった授業を通して、児童生徒が楽しく学び、分かったことやできたことが増え、成長していく姿を見ることは、とてもうれしいものです。

また、学習指導要領が示している「育成を目指す資質・能力」を踏まえた学習指導と学習評価を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を目指していく必要があります。これは、今まで知的障害教育の現場で積み重ねられた実践を新たな視点で整理し、よりよい授業をつくっていかうとするものです。

このガイドでは、一緒に日々の授業づくりについて考えていくという構成にしています。第1章では、学習指導要領や法令を基に知的障害教育の知識となる部分を説明しています。第2章では、特別支援教育の指導形態の内、「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの考え方を提案しています。第3章では、学習指導案のつくり方や、年間指導計画の例など、より細かく授業づくりを行う上での参考資料を掲載しています。

授業づくりの考え方、方法はいろいろあります。「みやぎ授業づくりガイド」はその一つを示したものです。授業をしていてふと立ち止まったとき、疑問が湧いてきたときなどに、気軽に使ってみてください。「みやぎ授業づくりガイド」の活用が、先生方の授業づくりが充実する一つのきっかけになれば幸いです。

「みやぎ授業づくりガイド」の構成と使い方について

研究主題

知的障害教育における「育成を目指す資質・能力」を踏まえた学習指導と学習評価

第1章 「み」につけよう！

知的障害教育の知識（理論編）

- ・ Q&Aで進みます。
- ・ 知りたいところのみ選んで読むことができます。

第2章 「や」ってみよう！授業づくり（実践編）

- ・ 授業づくりの手順をStep0からStep5として、1つの授業づくりと一緒に考えていく形で掲載しています。
- ・ 目標の設定の仕方、評価規準の考え方、主体的・対話的で深い学びの授業改善についての考え方などを提案しています。

第3章 「ぎ」んみしよう！明日からの授業（資料編）

- ・ より良い授業をつくっていくための参考資料です。

知的障害教育について

授業づくりについて

知りたいことを、知りたいときに、使いやすい方法で

【全編使いたい場合】

- ・ タブレット端末にダウンロードして使う。
- ・ PDFを印刷して、冊子にして使う。

【必要なところだけ使いたい場合】

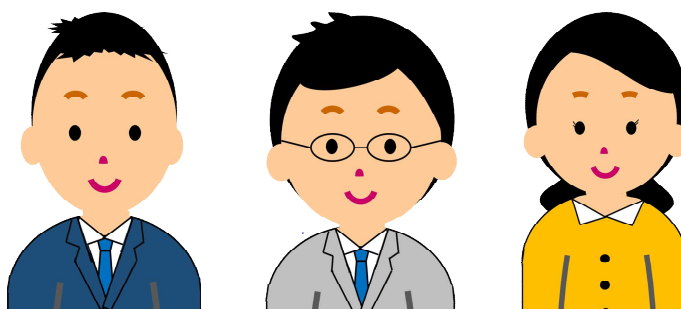
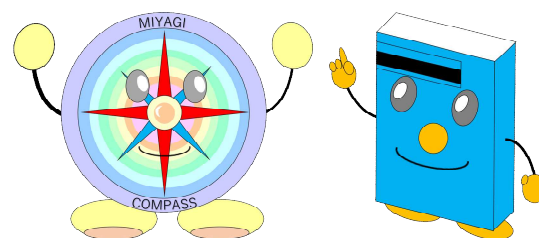
- ・ Webサイト上で必要なところのみ使う。
- ・ 必要なページのみ印刷して使う。

（ガイドの最後に、目的に合わせた活用の仕方を記載しています。）

みやぎ授業づくりガイド（目次）

第1章 **み**につけよう！知的障害教育の知識（理論編）

Q 知的障害とは？	1- 1
Q 知的障害のある児童生徒の学習上の特性とは？	1- 2
Q 特別支援学校（知的障害）における各教科等の教育課程とは？	1- 3
Q 特別支援学級（知的障害）における各教科等の教育課程とは？	1- 4
Q 連続性のある「多様な学びの場」とは？	1- 5
Q 特別支援学校（知的障害）の各教科の目標及び内容の段階とは？	1- 6
Q 各教科等を合わせた指導とは？	1- 8
Q 日常生活の指導，遊びの指導，生活単元学習，作業学習とは？	1- 9
Q 自立活動の指導とは？	1-10
Q 個別の教育支援計画とは？	1-12
Q 個別の指導計画とは？	1-13
Q 学校における合理的配慮とは？	1-14
Q 学校における基礎的環境整備とは？	1-16
Q 育成を目指す資質・能力とは？	1-17
Q 学習評価とは？	1-18
Q 主体的・対話的で深い学びとは？	1-19
Q 見方・考え方とは？	1-20
参考 各教科の「見方・考え方」	1-21
Q カリキュラム・マネジメントとは？	1-24

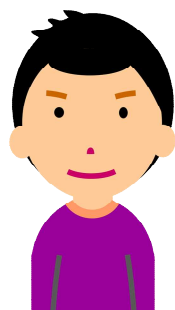
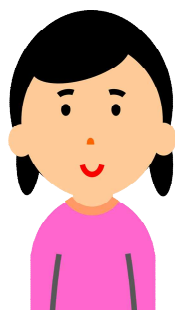
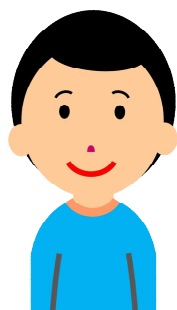
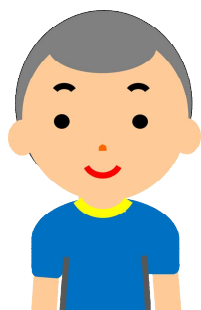


第2章 やってみよう！授業づくり（実践編）

知的障害教育の授業づくりを始めるに当たって	2- 1	
授業の構成図	2- 3	
授業づくりのStep	2- 4	
	教科別の指導	各教科等を合わせた指導
授業づくりをやってみよう	2- 6	2-15
授業の構成図	2- 7	2-16
Step 0 事前に確認する	2- 8	2-17
Step 1 実態を把握する	2- 9	2-18
Step 2 単元（題材）の構想を練る	2-10	2-19
単元（題材）の目標を考える	2-10	2-19
単元（題材）の評価規準を考える	2-11	2-20
設定した単元（題材）の目標と評価規準の整理をする	2-12	2-21
単元（題材）の個別の目標を考える	2-13	2-22
単元（題材）の個別の評価規準を考える	2-13	2-22
単元（題材）計画を考える	2-14	2-23
Step 3 1 単位時間ごとの授業の構想を練る	2-24	
① 本時の目標及び評価規準を考える	2-24	
② 本時の個別の目標及び評価規準を考える	2-24	
③ 本時の指導過程を考える	2-26	2-28
④ 本時の具体的な個別の支援を考える	2-28	
Step 4 授業を実践する		
Step 5 授業を振り返る	2-29	
参考 「各教科」における学習評価の進め方の例（小学校、中学校、高等学校）	2-31	
授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）	2-32	
各教科の学習評価	2-36	
目標及び評価規準について	2-37	
目標及び評価規準の設定ポイント ④知識及び技能 ⑤知識・技能	2-38	
目標及び評価規準の設定ポイント ⑥思考力、判断力、表現力等 ⑦思考・判断・表現	2-40	
目標及び評価規準の設定ポイント ⑧学びに向かう力、人間性等 ⑨主体的に学習に取り組む態度	2-43	
目標・評価規準設定シート	2-46	
単元構想シート	2-47	
略案シート	2-48	
授業づくりチェックシート	2-49	

第3章 ぎんみしよう！明日からの授業（資料編）

1 学習指導案をつくってみよう	3- 1
・小・中学校等との学習指導案の違い	3- 1
・学習指導案の形式の違い（細案，略案）	3- 2
・学習指導案づくりの20の視点	3- 4
・学習指導案例（教科別の指導）	
小学校 特別支援学級（知的障害）「算数」	3- 5
・学習指導案例（各教科等を合わせた指導）	
特別支援学校（知的障害） 小学部「生活単元学習」	3-11
・学習指導案様式例（教科別の指導）【解説ナビ】	3-19
・ 〃 （各教科等を合わせた指導）【解説ナビ】	3-22
2 年間指導計画を見直そう	
(1) 各教科の内容表	3-25
(2) 指導内容確認表	3-26
(3) 年間指導計画の一例	3-29
3 もっと知識を広げよう	
・I C Fについて	3-30
・ユニバーサルデザインについて	3-31
・教室環境の整備について	3-32
・教材・教具の準備について	3-33
・特別支援教育の教材・教具について	3-34
・特別支援教育のI C T活用について	3-35
・T・T（ティーム・ティーチング）について	3-37
みやぎ授業づくりガイド 活用の仕方	4- 1
参考になるWebサイト	4- 3



参考文献資料の表記（略称）について

本ガイドは、主として以下の資料を基に解説しています。参考文献資料の該当部分を示す際に、【 】に示した略称を用いて表記しています。

【特支小中学学習指導要領】

- ・ 文部科学省（2017）「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」平成 29 年 4 月告示

【特支高学習指導要領】

- ・ 文部科学省（2019）「特別支援学校 高等部学習指導要領」平成 31 年 2 月告示

【特支小中学学習指導要領解説総則編】

- ・ 文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」平成 30 年 3 月

【特支高学習指導要領解説総則等編】

- ・ 文部科学省（2019）「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」平成 31 年 2 月

【特支小中学学習指導要領解説各教科等編】

- ・ 文部科学省（2018）「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」平成 30 年 3 月

【特支高学習指導要領解説知的教科等編（上）】

- ・ 文部科学省（2019）「特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）（高等部）」平成 31 年 2 月

【特支高学習指導要領解説知的教科等編（下）】

- ・ 文部科学省（2019）「特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）（高等部）」平成 31 年 2 月

【特支学習指導要領解説自立活動編】

- ・ 文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」平成 30 年 3 月

【小学校学習指導要領解説〇〇編】

- ・ 文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 〇〇編」平成 29 年 7 月

【中学校学習指導要領解説〇〇編】

- ・ 文部科学省（2017）「中学校学習指導要領解説 〇〇編」平成 29 年 7 月

【学習評価に関する参考資料】

- ・ 国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編）（中学校編）（高等学校編）」

※ 引用部分内の文字色やフォント等の変更、下線、番号、太文字については、作成者で行っています。

第 1 章

⑦につけよう！

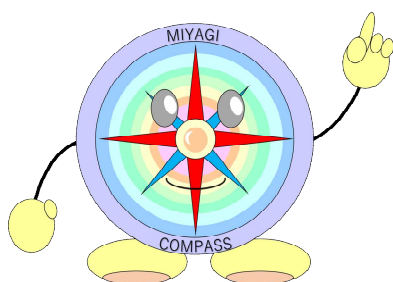
知的障害教育の知識

(理論編)

わたしは、

らしーん！

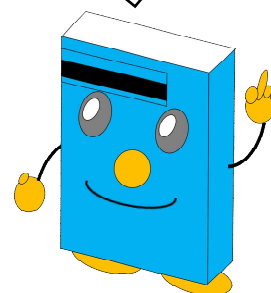
先生方に分かりやすいようガイド
します。



わたしは、

まなぶん！

学習指導要領について説明します。



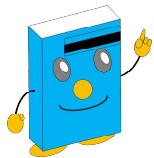
Q 知的障害とは？

A **知的機能の発達に明らかな遅れ①と、適応行動の困難性②を伴う状態③が、発達期に起こるもの④を言う。**

- ① 認知や言語などに関わる精神機能のうち、情緒面とは区別される知的面に、同年齢の児童生徒と比較して平均的水準より有意な遅れが明らかな状態。
- ② 他人との意思の疎通、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについて、その年齢段階に標準的に要求されるまでには至っていないことであり、適応行動の習得や習熟に困難があるために、実際の生活において支障をきたしている状態。
- ③ 「知的機能の発達に明らかな遅れ」と「適応行動の困難性」の両方が同時に存在する状態。
- ④ この障害の多くは、胎児期、出生時及び出生後の比較的早期に起こることを表している。発達期の規定の仕方は、必ずしも一定しないが、成長期（おおむね18歳）までとすることが一般的。

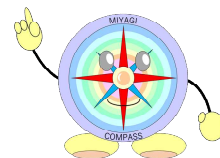
適応行動の面では、次のような困難さが生じやすい。

- **概念的スキルの困難性**
言語発達：言語理解、言語表出能力 等
学習技能：読字、書字、計算、推論 等
- **社会的スキルの困難性**
対人スキル：友達関係 等
社会的行動：社会的ルールを理解、集団行動 等
- **実用的スキルの困難性**
日常生活習慣行動：食事、排せつ、衣服の着脱、清潔行動 等
ライフスキル：買い物、乗り物の利用、公共機関の利用 等
運動機能：協調運動、運動動作技能、持久力 等



（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第1節1，
特支高学習指導要領解説知的教科等編（上） 第2編第2部第5章第1節1）を基に作成

適切な支援があることで、困難さは軽減されます。
まずは、目の前の児童生徒の状態を把握しましょう。

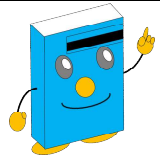


Q 知的障害のある児童生徒の学習上の特性とは？

A **学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しい**ことが挙げられる。そのため、**実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習**することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする**継続的、段階的な指導**が重要となる。児童生徒が一度身に付けた知識や技能等は、着実に実行されることが多い。

また、**成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。**そのため、学習の過程では、児童生徒が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすることで、児童生徒の**自信や主体的に取り組む意欲を育むことが重要**となる。

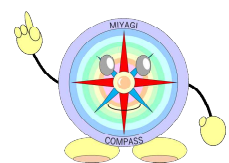
更に、抽象的な内容の指導よりも、**実際の生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導**が効果的である。



（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第2節1、
特支高学習指導要領解説知的教科等編（上） 第2編第2部第5章第2節1）

授業づくりでは、教師が実際の場面を設定したり、児童生徒が実物を使って具体的に学習したりと、「実際」「実物」というところが重要です。

また、教育的対応や学習環境の工夫が大切になってきます。「学校における合理的配慮とは？（p. 1-14）」「ユニバーサルデザインについて（p. 3-31）」「教室環境の整備について（p. 3-32）」「教材・教具の準備について（p. 3-33）」を参考にしてみてください。



Q 特別支援学校（知的障害）における各教科等の教育課程とは？

A **知的障害者である児童生徒を教育する場合は、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育の各教科、特別の教科である道徳、特別活動並びに自立活動によって編成するものとする。**ただし、必要がある場合には、外国語活動を加えて教育課程を編成することができる。

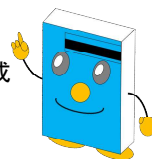
（学校教育法施行規則 第126条第2項）

※ 中学部、高等部は、同規則第127条第2項、第128条第2項においてほぼ同様に規定されている。

○ 「重複障害」の指導について

重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、**各教科、道徳科、外国語科、若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部または各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主として指導することができるものとする。**

（特支小中学学習指導要領 第1章第8節4）を基に作成

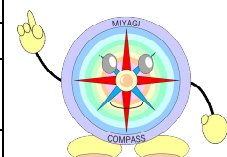


	小学部	中学部	高等部
各教科	生活	○	○
	国語	○	○
	算数／数学	○	○
	音楽	○	○
	図画工作／美術	○	○
	体育／保健体育	○	○
	社会	○	○
	理科	○	○
	職業・家庭 （高等部は職業と家庭に分かれる）	○	○
	道徳科	○	○
各教科	総合的な学習の時間 （高等部は総合的な探究の時間）	○	○
	特別活動	○	○
	自立活動	○	○
	外国語活動（小学部3学年以上）	必要がある場合	○
	外国語	必要がある場合	必要がある場合
	情報	○	○
	専門教科 （家政、農業、工業、流通・サービス、福祉）	○	○
各教科	学校設定教科	○	○
		○	○

「○」のあるものは、全ての児童生徒が履修することになります。

「／」のある教科は左側が小学部、右側が中学部・高等部を示します。

「必要がある場合」とは、「児童生徒や学校の実態を考慮し、必要に応じて」ということです。



Q 特別支援学級（知的障害）における各教科等の教育課程とは？

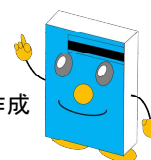
A 小学校、中学校若しくは義務教育学校又は中等教育学校の前期課程における特別支援学級に係る教育課程については、特に必要がある場合は、(略) **特別の教育課程** によることができる。

（学校教育法施行規則 第138条）

○ 特別支援学級における **特別の教育課程**

児童（生徒）の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、**各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたり**するなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

（小学校学習指導要領 平成29年3月告示 第1章第4の2(1)イ(イ) 及び
中学校学習指導要領 平成29年3月告示 第1章第4の2(1)イ(イ)を基に作成



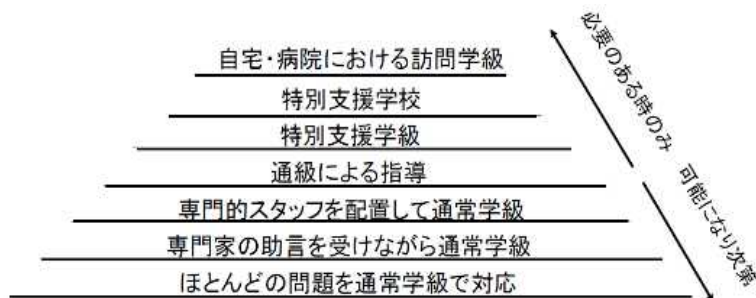
○ 特別支援学級（知的障害）の教育課程の編成例

	自立活動のみを取り入れる場合	各教科の目標を下学年の目標に替える場合	特別支援学校(知的障害)の各教科の目標に替える場合	各教科等を合わせた指導を取り入れる場合
各教科	○	○	○	全部又は一部を合わせることができる
道徳科	○	○	○	
特別活動	○	○	○	
外国語活動／外国語	○	○	必要がある場合	
自立活動	○	○	○	
総合的な学習の時間	○	○	○	○

Q 連続性のある「多様な学びの場」とは？

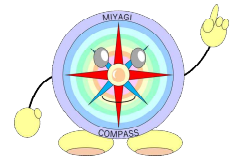
A インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。**小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要**である。

日本の義務教育段階の多様な学びの場の連続性



（中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」（報告）H24）を基に作成

高等学校でも通級による指導が始まり、同様に連続性のある「多様な学びの場」が整備されています。



学びの連続性を重視した対応（学習指導要領改訂の基本方針）

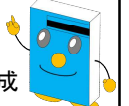
○「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の基本的な考え方の明確化

- ・ 各教科及び外国語活動の目標及び内容に関する事項の一部を取り扱わないことができることを規定
- ・ 各教科の各学年の目標及び内容の一部又は全部を、当該各学年より前の各学年の目標及び内容の一部又は全部によって替えることができること、道徳科の内容についても同様であることを規定

○ 知的障害者である子供のための各教科等の目標や内容について、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理

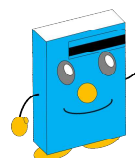
- ・ 小・中学部の各段階に目標を設定
- ・ 中学部に2段階を新設し、段階ごとの内容を充実
- ・ 小学部の教育課程に外国語活動を設けることができることを規定
- ・ 小学部の子供のうち小学部の3段階に示す各教科又は外国語活動の内容を習得し目標を達成している者、また、中学部の子供のうち中学部の2段階に示す各教科の内容を習得し目標を達成している者については、子供が就学する学部に対応する学校段階までの小学校学習指導要領又は中学校学習指導要領における各教科等の目標及び内容の一部を取り入れることができるよう規定

（特支小中学学習指導要領解説総則編 第1編第1章第2節2ア）を基に作成



Q 特別支援学校（知的障害）の各教科の目標及び内容の段階とは？

A 学年ではなく、段階別に（各教科の）内容を示している理由は、（略）発達期における知的機能の障害が、同一学年であっても、個人差が大きく、学力や学習状況も異なるからである。そのため、**段階を設けて示す**ことにより、個々の児童生徒の実態等に即して、各教科の内容を精選して、効果的な指導ができるようにしている。

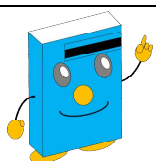


（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第1節5，
特支高学習指導要領解説知的教科等編（上） 第2編第2部 第5章第1節5）

○ 知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の段階の構成

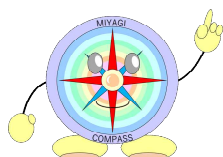
段階		内容の対象 等	ねらいとする内容 等
小学部	1段階	主として知的障害の程度は、比較的強く、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのにほぼ常時援助が必要である者を対象とした内容を示している。	知的発達が極めて未分化であり、認知面での発達も十分でないことや、生活経験の積み重ねが少ないことなどから、主として教師の直接的な援助を受けながら、児童が体験し、事物に気付き注意を向けたり、関心や興味を持ったりすることや、基本的な行動の一つ一つを着実に身に付けたりすることをねらいとする内容を示している。
	2段階	知的障害の程度は、1段階ほどではないが、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする者を対象とした内容を示している。	1段階を踏まえ、主として教師からの言葉掛けによる援助を受けながら、教師が示した動作や動きを模倣したりするなどして、目的をもった遊びや行動をとったり、児童が基本的な行動を身に付けることをねらいとする内容を示している。
	3段階	知的障害の程度は、他人との意思の疎通や日常生活を営む際に困難さが見られる。適宜援助を必要とする者を対象とした内容を示している。	2段階を踏まえ、主として児童が自ら場面や順序などの様子に気付いたり、主体的に活動に取り組んだりしながら、社会生活につながる行動を身に付けることをねらいとする内容を示している。

段階		内容の対象 等	ねらいとする内容 等
中学部	1 段階	小学部3段階を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として経験の積み重ねを重視するとともに、他人との意思の疎通や日常生活への適応に困難が大きい生徒にも配慮した内容を示している。	主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、経験したことを活用したり、順番を考えたりして、日常生活や社会生活の基礎を育てることをねらいとする内容を示している。
	2 段階	中学部1段階を踏まえ、生徒の日常生活や社会生活及び将来の職業生活の基礎を育てることをねらいとする内容を示している。	主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、目的に応じて選択したり、処理したりするなど工夫し、将来の職業生活を見据えた力を身に付けられるようにしていくことをねらいとする内容を示している。
高等部	1 段階	中学部2段階やそれまでの経験を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などに関連を考慮した、基礎的な内容を示している。	主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の生活を見据えた基本的な生活習慣、社会性及び職業能力等を身に付けられるようにしていくことをねらいとする内容を示している。
	2 段階	高等部1段階を踏まえ、比較的障害の程度が軽度である生徒を対象として、卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などとの関連を考慮した、発展的な内容を示している。	主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の実際の生活に必要な生活習慣、社会性、及び職業能力等を習得することをねらいとする実用的かつ発展的な内容を示している。



（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第1節5、

特支高学習指導要領解説知的教科等編（上） 第2編第2部第5章第1節5）を基に作成



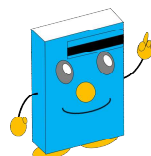
今回の改訂では、各段階における育成を目指す資質・能力を明確にすることから、段階ごとに目標を新設しました。小学部は3つの段階、中学部は段階も新設し、2つの段階により目標が示されました。また、高等部も段階ごとの目標を新設して示されました。

Q 各教科等を合わせた指導とは？

A 特別支援学校の小学部，中学部又は高等部においては，知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは，各教科，特別の教科である道徳，外国語活動，特別活動及び自立活動の全部又は一部について，合わせて授業を行うことができる。

（学校教育法施行規則 第130条第2項）

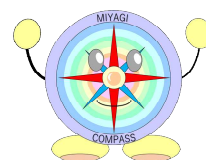
知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては，児童生徒の学校での生活を基盤として，学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的であることから，従前から，日常生活の指導，遊びの指導，生活単元学習，作業学習などとして実践されてきており，それらは「各教科等を合わせた指導」と呼ばれている。



（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第2節3(3)，
特支高学習指導要領解説知的教科等編(上) 第2編第2部第5章第2節3(3)）

知的障害のある児童生徒の学習上の特性として，

- (1) 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい。
 - (2) 実際の生活の場で応用されにくい。
 - (3) 成功経験が少なく，主体的に取り組む意欲が育ちにくい。
 - (4) 抽象的な内容より，実際の・具体的な内容の指導が効果的。
- 等が挙げられます。



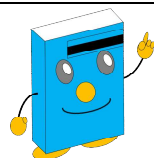
そこで，知的障害のある児童生徒が学習内容を身に付けていく際の学び方として，「各教科等を合わせた指導」により，実際の生活に即した学びを行うことで，知的障害のある児童生徒が主体的に学習に取り組みやすくなる等の効果が期待できます。

Q 日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習とは？

A 「各教科等を合わせた指導」と呼ばれる指導の形態です。

○ 各教科等を合わせた指導の特徴と各教科等の取扱い

各教科等を合わせた指導の特徴		各教科等の取扱い
日常生活の指導	○ 児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について計画的に指導するもの。 ・ 基本的な生活習慣の内容（衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄^{せつ}、食事、清潔など）。 ・ 日常生活や社会生活において必要で基本的な内容（あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなど）。	<u>生活科</u> を中心として、 <u>特別活動〔学級活動〕</u> など広範囲に各教科等の内容が扱われる。
遊びの指導	○ 主に小学部段階において、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動を育み、心身の発達を促していくもの。 ・ 児童が比較的自由に取り組むものから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件を設定し活動するといった比較的制約性が高い遊びまで連続的に設定される。	<u>生活科</u> の内容をはじめ、 <u>体育科</u> など各教科等に関わる広範囲の内容が扱われる。
生活単元学習	○ 児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するもの。 ・ 児童生徒の学習活動は、実際の生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織されることが大切である。 ・ 個々の児童生徒の自立と社会参加を視野に入れ、個別の指導計画に基づき、計画・実施することが大切である。	<u>広範囲に各教科等</u> の目標や内容が扱われる。
作業学習	○ 作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの。 ・ 作業学習で取り扱われる作業活動の種類 農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニング、販売、事務、清掃、接客等。	中学部では<u>職業・家庭科</u>の目標及び内容が中心となる。 高等部は<u>職業科</u>、<u>家庭科</u>及び<u>情報科</u>の目標及び内容や、主として専門学科において開設される各教科の目標及び内容を中心とした学習へとつながる。



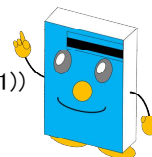
（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第2節3(3)。

特支高学習指導要領解説知的教科等編(上) 第2編第2部第5章第2節3(3))を基に作成

Q 自立活動の指導とは？

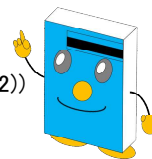
A 障害のある幼児児童生徒は、その障害によって、各教科等において育まれる資質・能力の育成につまずきなどが生じやすい。そのため、個々の実態把握によって導かれる「人間としての基礎的な行動を遂行するために必要な要素」及び「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」、いわゆる心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものが自立活動であり、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている。

（特支学習指導要領解説自立活動編 第3章1(1)）

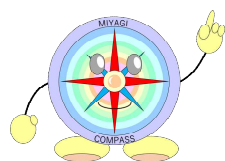


- ・ 自立活動は、特別支援学校の教育課程において特別に設けられた指導領域である。この自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。
- ・ 小・中学校等の特別支援学級や通級による指導においては、児童生徒の障害の状態等を考慮すると、小学校又は中学校の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当ではなく、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている自立活動等を取り入れた特別の教育課程を編成する必要性が生じる場合がある。

（特支学習指導要領解説自立活動編 第3章1(2)）



自立活動は、知的障害のある児童生徒に限らず、どの障害種においても指導が必要です。

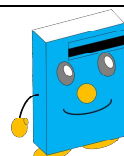


自立活動は、学校の教育活動全体を通じて指導します。これは、「自立活動の時間における指導」以外に、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導等）や各教科の時間の中でも、自立活動に関連した「各教科等における指導」を行うということです。その際、「自立活動の時間における指導」と「各教科等における指導」は、綿密な関連を保つことが必要になります。

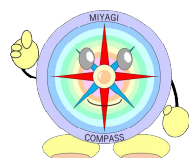
○自立活動の内容

自立活動の内容は6つの区分の下に27項目があります。

区分	項目
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事。
2 心理的な 安定	(1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の 形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
6 コミュニ ケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。



(特支小中学学習指導要領 第7章第2,
特支高学習指導要領 第6章第2款)を基に作成

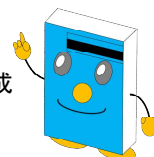


自立活動は、三つの柱から整理されていません。しかし、自立活動は心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものであり、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。

Q 個別の教育支援計画とは？

A 家庭及び地域並びに医療、福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、**長期的な視点で児童又は生徒への教育的支援を行うために作成する計画**のことである。

（特支小中学学習指導要領 第1章第5節1(5)、特支高学習指導要領 第1章第2節第5款1(7))を基に作成



個別の教育支援計画の活用について

個別の教育支援計画の活用に当たっては、例えば、就学前に作成される個別の支援計画を引き継ぎ、適切な支援の目的や教育的支援の内容を設定したり、進路先に在学中の支援の目的や教育的支援の内容を伝えたりするなど、**就学前から就学时、そして進学先まで、切れ目ない支援に生かすこと**が大切である。その際、個別の教育支援計画には、多くの関係者が関与することから、**保護者の同意を事前に得るなど個人情報の適切な取扱いに十分留意すること**が必要である。

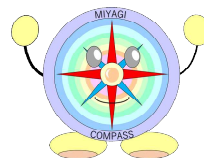
（小学校学習指導要領解説総則編 第3章第4節2(1)㉔、中学校学習指導要領解説総則編 第3章第4節2(1)㉔）を基に作成

作成の手順（例）

- ① 障害のある児童生徒などの生活の中で遭遇する制約や困難を把握する。
- ② 本人及び保護者の意向や将来の希望を確認する。
- ③ 在籍校のみならず、例えば、家庭、医療機関における療育事業及び福祉機関における児童発達支援事業において、実際にどのような支援が必要で可能であるか、支援の目標を立てる。
- ④ それぞれが提供する合理的配慮（p. 1-14）を含む支援の内容を具体的に記述し、整理したり、関連付けたりするなど関係機関の役割を明確にする。
- ⑤ 合理的配慮を含む支援の内容の提供等を適宜評価し、改善を図る。

具体的な活用場面

- ・ 保護者との連携〈相談、面談、家庭訪問〉
- ・ 校内における支援内容の話合い〈校内委員会〉
- ・ 関係機関を交えた会議〈支援会議〉
- ・ 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、進路先との引き継ぎ〈移行支援会議〉



個別の教育支援計画は、特別支援学校、特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受けている児童生徒全員に必ず作成します。通常の学級に在籍し、通級による指導を受けていない障害のある児童生徒については、作成・活用に努めることとされています。

様式については、各県や市町村、学校等で違うので、確認しましょう。

参考：文部科学省「個別の教育支援計画の参考様式について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00005.htm



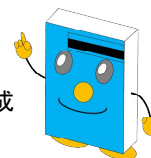
Q 個別の指導計画とは？

A 個々の児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために各学校で作成しなければならないものである。**障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成する計画**のことである。

個別の指導計画を活用について

個別の指導計画は、児童生徒の実態を把握した上で作成されたものであるが、児童生徒にとって適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものである。したがって、**計画（Plan）－実践（Do）－評価（Check）－改善（Action）のサイクルにおいて、適宜評価を行い**、指導目標や指導内容、指導方法を改善し、より効果的な指導を行う必要がある。

（特支小中学学習指導要領解説総則編 第3編第2章第3節3(3)イ、
特支高学習指導要領解説総則等編 第2編第2部第1章第3節3(5)イ）を基に作成

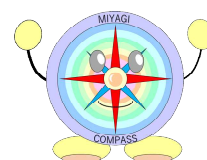


作成の手順（例）

- ① 本人や保護者のニーズ等の実態を把握する。
- ② 実態把握に基づいた指導目標（長期、短期）を設定する。
- ③ 目標を達成するために必要と思われる、具体的な指導内容・方法を設定する。
- ④ 計画に基づいて実際に指導し、その変容を記録する。
- ⑤ 指導目標に基づき、指導の成果について評価し、改善を図る。

具体的な活用場面

- ・ 授業の計画（指導目標、内容、方法）作成
- ・ 保護者との連携〈相談、面談、家庭訪問〉
- ・ 担任と教科担当などと各教科等の指導における情報交換〈計画的、継続的な指導〉
- ・ 次年度への引き継ぎ〈計画的、継続的な指導〉



個別の指導計画は、特別支援学校、特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受けている児童生徒全員に必ず作成します。通常の学級に在籍し、通級による指導を受けていない障害のある児童生徒については、作成・活用に努めることとされています。

様式については、各県や市町村、学校等で違うので、確認しましょう。

Q 学校における合理的配慮とは？

A 「障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」と定義した。なお、障害者の権利に関する条約において、「合理的配慮」の否定は、障害を理由とする差別に含まれるとされていることに留意する必要がある。

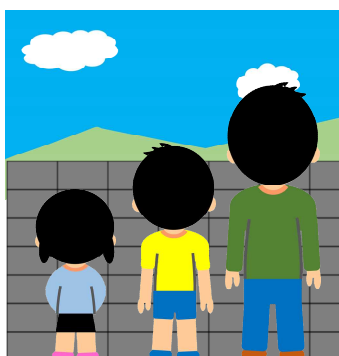
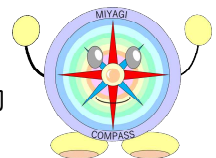
（中央教育審議会初等中等教育分科会（H24）

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」）

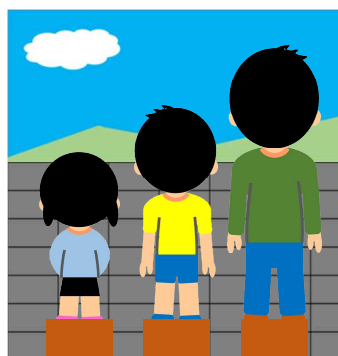
知的障害者に対する合理的な配慮の例としては、

- ・ 文字を大きく書いて、提示する。
- ・ 漢字に振り仮名を振る。
- ・ 言葉だけでなく、絵や写真などを一緒に提示する。 などがあります。

これまで行ってきた支援を、本人及び保護者、学校で3観点11項目の合理的配慮の観点（p. 1-15）で整理、捉え直すことが大切だと言われています。

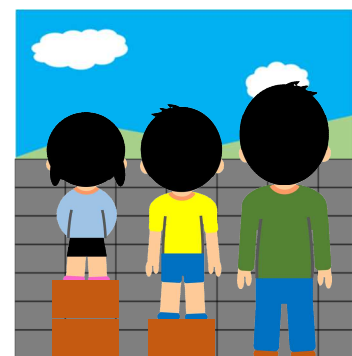


配慮が何もない状態



平等ではあるが左の子はまだ見えない

（対応を重視）



公正さが担保されて全員が見える

（結果を重視）

障害のある児童生徒の障壁を視覚化してみると、中央の絵は、全員に同じ高さの踏み台を用意することで、支援の平等さが生まれますが、全員が景色を見ることはできません。右の絵は、必要な人に必要な高さの踏み台を用意する、つまり必要な支援（**合理的配慮**）をすることで、全員が景色を見るという点で、公正さが担保されることになります。

○ 知的障害における「合理的配慮」の観点

観点	項目		指導
①教育内容・方法	①－1教育内容	①－1－1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	○ できるだけ実生活につながる技術や態度を身に付けられるようにするとともに、社会生活上の規範や、ルールの理解を促すための指導を行う。
		①－1－2 学習内容の変更・調整	○ 知的発達の遅れにより、全般的に学習内容の習得が困難な場合があることから、理解の程度に応じた学習内容の変更・調整を行う。 (焦点化を図ること、基礎的・基本的な学習内容を重視すること、生活上必要な言葉等の意味を確実に理解できるようにすること 等)
	①－2教育方法	①－2－1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	○ 知的発達の遅れに応じた分かりやすい指示や教材・教具を提供する。 (文字の拡大や読み仮名の付加、話し方の工夫、文の長さの調整、具体的な用語の使用、動作化や視覚化の活用、数量等の理解を促すための絵カードや文字カード、数え棒、パソコンの活用 等)
		①－2－2 学習機会や体験の確保	○ 知的発達の遅れにより、実際の生活に役立つ技術や態度の習得が困難であることから、調理実習や宿泊学習等の具体的な活動場面において、生活力が向上するように指導するとともに、学習活動が円滑に進むように、図や写真を活用した日課表や活動予定表等を活用し、自主的に判断し見通しをもって活動できるように指導を行う。
②支援体制	②支援体制	①－2－3 心理面・健康面の配慮	○ 知的発達の遅れ等によって、友人関係を十分には形成できないことや、年齢が高まるにつれて友人関係の維持が困難になることもあることから、集団の一員として帰属意識がもてるような機会を確保するとともに、自尊感情や自己肯定感、ストレス等の状態を踏まえた適切な対応を図る。
		②－1 専門性のある指導体制の整備	○ 知的障害の状態は外部からは分かりにくいことから、専門家からの支援や、特別支援学校（知的障害）のセンター的機能及び特別支援学級等の専門性を積極的に活用する。また、てんかん等への対応のために、必要に応じて医療機関との連携を図る。
		②－2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解推進を図るための配慮	○ 知的障害の状態は他者から分かりにくいこと、かつ、その特性としては、実体験による知識等の習得が必要であることから、それらの特性を踏まえた対応ができるように、周囲の児童生徒等や教職員、保護者への理解啓発に努める。
③施設・整備	③施設・設備	②－3 災害時等の支援体制の整備	○ 適切な避難等の行動の仕方が分からず、極度に心理状態が混乱することを想定した避難誘導のための校内体制を整備する。
		③－1 校内環境のバリアフリー化	○ 自主的な移動を促せるよう、動線や目的の場所が視覚的に理解できるようにするなどの校内環境を整備する。
		③－2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	○ 危険性を予測できないことによる高所からの落下やけが等が見られることから、安全性を確保した校内環境を整備する。また、必要に応じて、生活力の向上が必要であることから、生活体験を主とした活動を可能にする場を用意する。
③施設・整備	③施設・設備	③－3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	○ 災害等発生後における行動の仕方が分からないことによる混乱した心理状態に対応できるよう、簡潔な動線、分かりやすい設備の配置、明るさの確保等を考慮して施設・設備を整備する。

（中央教育審議会初等中等教育分科会（H24）

「共生社会に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進（報告）別表①～⑪」を基に作成

Q 学校における基礎的環境整備とは？

A 障害のある子どもに対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。

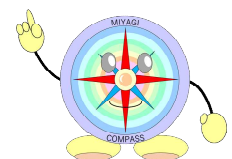
（中央教育審議会初等中等教育分科会（H24）

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」

基礎的環境整備は、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、障害のある児童生徒だけではなく、多くの児童生徒にとっても有益なものになります。その具体的内容は全部で8項目あり、国、都道府県、市町村が財源を確保し役割分担をして実施します。（項目は下の①～⑧）。

その際も、「合理的配慮」と同様に体制面、財政面を勘案し、均衡を失した又は過度の負担を課さないよう留意する必要があります。

- ① ネットワークの形成・連続性のある多様な学び場の活用
- ② 専門性のある指導体制の確保
- ③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- ④ 教材の確保
- ⑤ 施設・設備の整備
- ⑥ 専門性のある教員、支援員等の人的配置
- ⑦ 個に応じた指導や学び場の設定等による特別な指導
- ⑧ 交流及び共同学習の推進



Q 育成を目指す資質・能力とは？

A 「生きる力」をより具体化し，教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を，

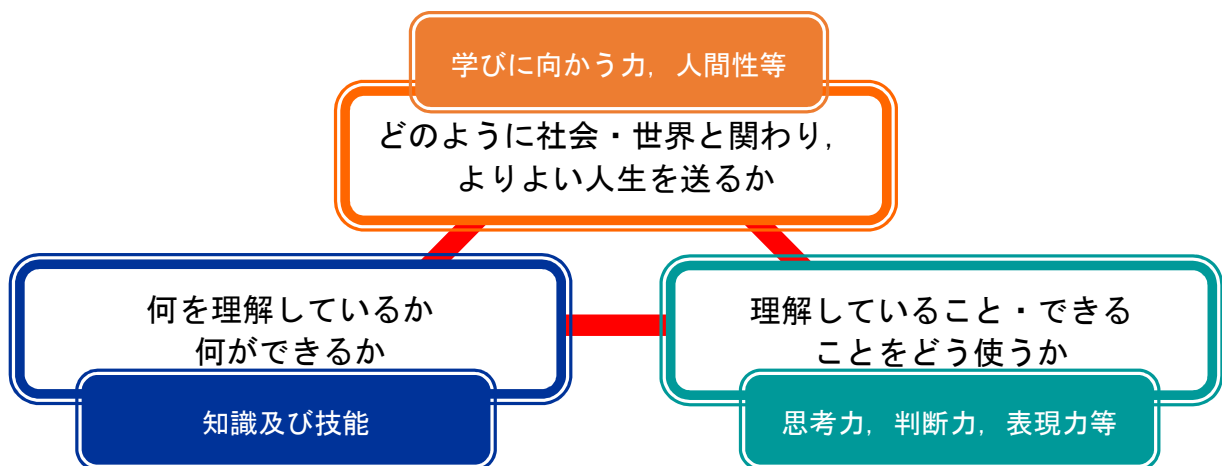
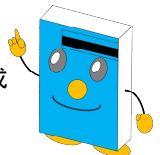
ア 何を理解しているか，何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）

イ 理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）

ウ どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

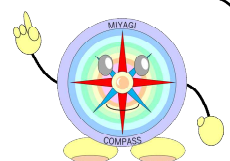
の三つの柱に整理するとともに，各教科等の目標や内容についても，この三つの柱に基づく再整理を図るように示された。

（特支小中学学習指導要領解説総則編 第1編第1章第2節1㉔）を基に作成



（文部科学省（令和2年4月）「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」第1編第1章3）

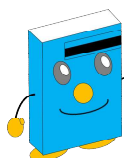
資質・能力の三つの柱の育成が，バランスよく実現できるよう留意する必要があります。各教科の具体的な資質・能力については，学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容を確認しましょう。



Q 学習評価とは？

A 学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。

「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。



（特支小中学学習指導要領解説総則編 第3編第2章第4節3(1)、
特支高学習指導要領解説総則編 第2編第2部第1章第4節3(1))を基に作成

障害のある児童生徒に係る学習評価については、一人一人の児童生徒の障害の状態等に応じた指導と配慮及び評価を適切に行うことを前提としつつ、特に以下のような観点から改善することが必要である。

- ・ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科においても、文章による記述という考え方を維持しつつ、観点別の学習状況を踏まえた評価を取り入れることとする。

（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（H31）「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）

観点別学習状況の評価の観点

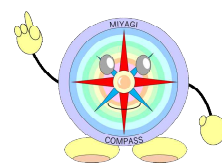
知識・技能

思考・判断・表現

主体的に
学習に取り組む態度

学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒の学習評価についても変わりません。個々の児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、その評価を適切に行うことが必要です。

特別の教科 道徳、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動についても、学習指導要領で示したそれぞれの目標や特質に応じ、適切に評価します。

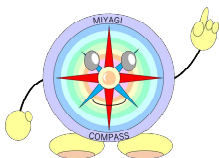
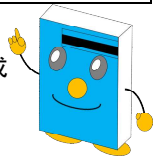


Q 主体的・対話的で深い学びとは？

A 「育成を目指す資質・能力」を踏まえた授業づくりの実現に向けて、取り組むべき授業改善の視点である。

主体的な学び 	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
対話的な学び 	子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
深い学び 	習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（特支小中学学習指導要領解説総則編 第3編第2章第4節1，
特支高学習指導要領解説総則等編 第2編第2部第1章第4節1）を基に作成



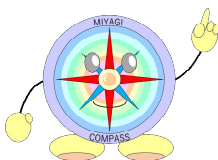
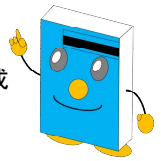
第2章で「**授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）**」（p. 2-32～p. 2-34）を提案しています。

授業づくりをしたり、授業改善をしたりするときに、目の前の児童生徒の実態に合わせてこの視点を活用してみてください。

Q 見方・考え方とは？

A 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、**各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」**である。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、**習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要**である。

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 各教科の解説等に記述）を基に作成



特支小中学学習指導要領解説各教科等編では、各教科等の「見方・考え方」について記載してあります。それを、次のページ以降にまとめました。（p. 1-21～p. 1-23）

「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を行う際に、参考にしてみてください。

参考

各教科等の「見方・考え方」

(知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校)

生活科「生活に関わる見方・考え方」

「生活に関わる見方・考え方を生かし」とは、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事

(特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第4節第1の2(1))

国語科「言葉による見方・考え方」

「言葉による見方・考え方を働かせ」とは、児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

(特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第4節第2の2, 第4章第5節第1の2,
特支高学習指導要領解説知的教科等編(上) 第2編第2部第5章第4節第1の2)

社会科「社会的な見方・考え方」

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」である

「社会的な見方・考え方を働かせ」ることは、視点や方法（考え方）を用いて、調べ、考え、表現して、理解したり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすること

(特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第5節第2の2,
特支高学習指導要領解説知的教科等編(上) 第2編第5章第4節第2の2)

算数・数学科「数学的な見方・考え方」

事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、総合的・発展的に考えること

(特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第5節第3の2①, 第4章第5節第3の2,
特支高学習指導要領解説知的教科等編(上) 第2編第2部第5章第4節第3の2①)

理科「理科の見方・考え方」

〔見方〕 「生命」を柱とした区分では、主として多様性と共通性の視点で捉えること

「地球・自然」を柱とした区分では、主として時間的・空間的な視点で捉えること

「物質・エネルギー」を柱とした区分では、主として質的・実体的な視点で捉えたり、量的・関係的な視点で捉えたりすること

〔考え方〕 生徒が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなど

(特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第5節第4の2,
特支高学習指導要領解説知的教科等編(上) 第2編第2部第5章第4節第4の2)

音楽科「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第4節第4の2、第4章第5節第5の2、
特支高学習指導要領解説知的教科等編（上） 第2編第2部第5章第4節第5の2）

図画工作科・美術科「造形的な見方・考え方」

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第4節第5の2）

表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じる力である感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第5節第6の2、
特支高学習指導要領解説知的教科等編（下） 第2編第2部第5章第4節第6の2（1））

体育科・保健体育科「体育の見方・考え方」

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自分の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第4節第6の2、第4章、第5節第7の2、
特支高学習指導要領解説知的教科等編（下） 第2編第2部第5章第4節第7の2（1））

体育科・保健体育科「保健の見方・考え方」

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第4節第6の2、第4章第5節第7の2、
特支高学習指導要領解説知的教科等編（下） 第2編第2部第5章第4節第7の2（1））

職業・家庭科「職業に係る見方・考え方」「生活の営みに係る見方・考え方」**高等部 職業科「職業に係る見方・考え方」 高等部 家庭「生活の営みに係る見方・考え方」**

職業に係る事象を、将来の生き方等の視点で捉え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うこと

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 中学部職業分野 第4章第5節第8の3（1）、
特支高学習指導要領解説知的教科等編（下） 第2編第2部第5章第4節第8の2）

家庭分野が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る事象を、健全で豊かな家庭生活を営む視点で捉え、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために、よりよい生活を工夫すること

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 中学部家庭分野 第4章第5節第8の3（1））

家庭科が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・共同、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること

（特支高学習指導要領解説知的教科等編（下） 第2編第2部第5章第4節第9の2）

外国語活動・外国語科「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第6章第2款2(1)）

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第5節第92(1)、
特支高学習指導要領解説知的教科等編(下) 第2編第2部第5章第4節第10の2）

情報「情報に関する科学的な見方・考え方」

事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミングやモデル化・シミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること

（特支高学習指導要領解説知的教科等編(下) 第2編第2部第5章第4節第11の2）

特別の教科・道徳「道徳科における見方・考え方」

※小学校又は中学校に準ずる。

「考え、議論する道徳」を目指す今回の小・中学校学習指導要領の改訂の趣旨に照らして考えると、道徳科における「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」は、今回の改訂で目標に示されている「『様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること』であると言える。」

（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)平成28年）

総合的な学習の時間「探究的な見方・考え方」

※中学校に準ずる

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方のこと

（中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 第2章第2節1(1)）

※ 高等部については、「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 第3章第2節1(1)」を参照

特別活動「集団や社会の形成者としての見方・考え方」

※小学校又は中学校、高等学校に準ずる

各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつけること

（学習指導要領解説 特別活動編 小学校第2章第1節1(2)、中学校第2章第1節1(2)、高等学校第2章第1節1(2)）

※ 高等部の「主として専門学科において開設される各教科」については、特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(下)参照

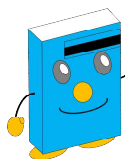
Q カリキュラム・マネジメントとは？

A 各学校においては、

- ① 児童又は生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，
- ② 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，
- ③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

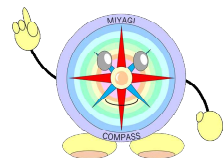
などを通して、**教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）**に努めるものとする。

- ④ **その際、児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、第3節の3の(3)のイに示す個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること。**



（特支小中学学習指導要領 第1章第2節4）（特支高学習指導要領 第1章第2節5）を基に作成
 ※上記「第3節の3(3)イ」は、特支高学習指導要領では「第2款の3(5)イ」となっている

①，②，③は，全ての学習指導要領に記載されています。④は，特別支援学校学習指導要領にのみ記載されています。「児童又は生徒に何が身に付いたか」というところがポイントです。



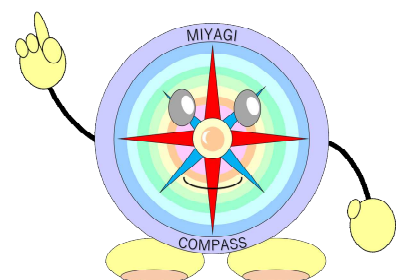
第 2 章

④ ってみよう！

授業づくり

（実践編）

理論編を踏まえての
提案です！



知的障害教育の授業づくりを始めるに当たって

知的障害教育に初めて関わる美田先生と園子先生が、授業づくりを始めるに当たって、特別支援学校のベテラン名取先生にいろいろ聞いています。名取先生は、特別支援教育の経験が長く、知見が豊かで、知的障害教育の授業づくりをサポートしてくれる頼りになる先輩です。



特別支援学級
1年目の美田先生

今回、初めて知的障害特別支援学級の担任になりました美田です。
どう授業づくりをしたらいいのかわかりません。何から始めたらよいですか？

知的障害教育では、児童生徒の実態把握から授業づくりを始めることが重要なポイントになります。

そして、児童生徒の実態によって、指導内容や方法、目標及び評価規準を常に調整・見直ししていくことが大切になりますよ。



特別支援学校
ベテランの名取先生



日々の実態把握からスタートすることが大切なのですね。では、児童生徒の実態から単元や題材は、どうやって考えたらよいでしょうか？

単元や題材を考えるときには、「児童生徒にどんな力を身に付けさせたいか？」を常に意識します。その際、学習指導要領に示されている「育成を目指す資質・能力」を踏まえて、単元や題材を考えましょう。

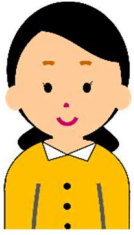


特別支援学校
1年目の園子先生

私は、初めて知的障害特別支援学校の勤務になりました園子です。
何だか難しそうですね……。
時間割に、「生活単元学習」や「遊びの指導」と書いてありますが、これはどういうものですか？

「生活単元学習」や「遊びの指導」は国語や算数のような教科ではなく、「各教科等を合わせた指導」という指導の形態の一つです。他にも、「作業学習」や「日常生活の指導」もありますよ。





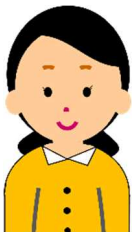
なぜ教科ごとではなく、「各教科等を合わせた指導」を行うのですか？

知的障害のある児童生徒の場合、学習上の特性として、

- ・ 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい。
- ・ 実際の生活の場で応用されにくい。
- ・ 実際的な生活経験が不足しがちである。

等があげられます。そのため、実際の・具体的な内容の指導がより効果的になります。

このような特性から、身に付けさせたい力を各教科等に分けて指導するのではなく、児童生徒の生活に即し、各教科・領域等を分けずに、これらの一部または全部を合わせて指導を行うことが効果的だからです。



知的障害のある児童生徒の学習上の特性を考えると、「各教科等を合わせた指導」が効果的な場合があるのですね。

「教科別の指導」との違いについて、もう少し詳しく教えてください。

児童生徒の実態を大切にすることは、どちらの指導でも変わりません。

ただし、「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」では、各教科の目標及び内容の扱い方が違います。

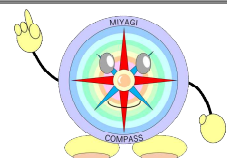
「教科別の指導」の場合、児童生徒の実態から、身に付けている力に見合う各教科の段階を重視して目標及び内容を調整・見直しすることが大切です。

「各教科等を合わせた指導」の場合、児童生徒の実態から、単元で扱う複数の教科の目標及び内容を意識するということが違いになります。



まだ不安なところはありますが、知的障害教育の授業づくりが、少し分かってきました。もっと具体的に知りたくなくなりました。

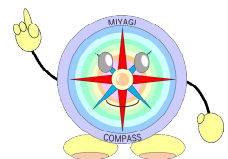
では、これから授業づくりについて一緒に考えていきましょう。



授業の構成図

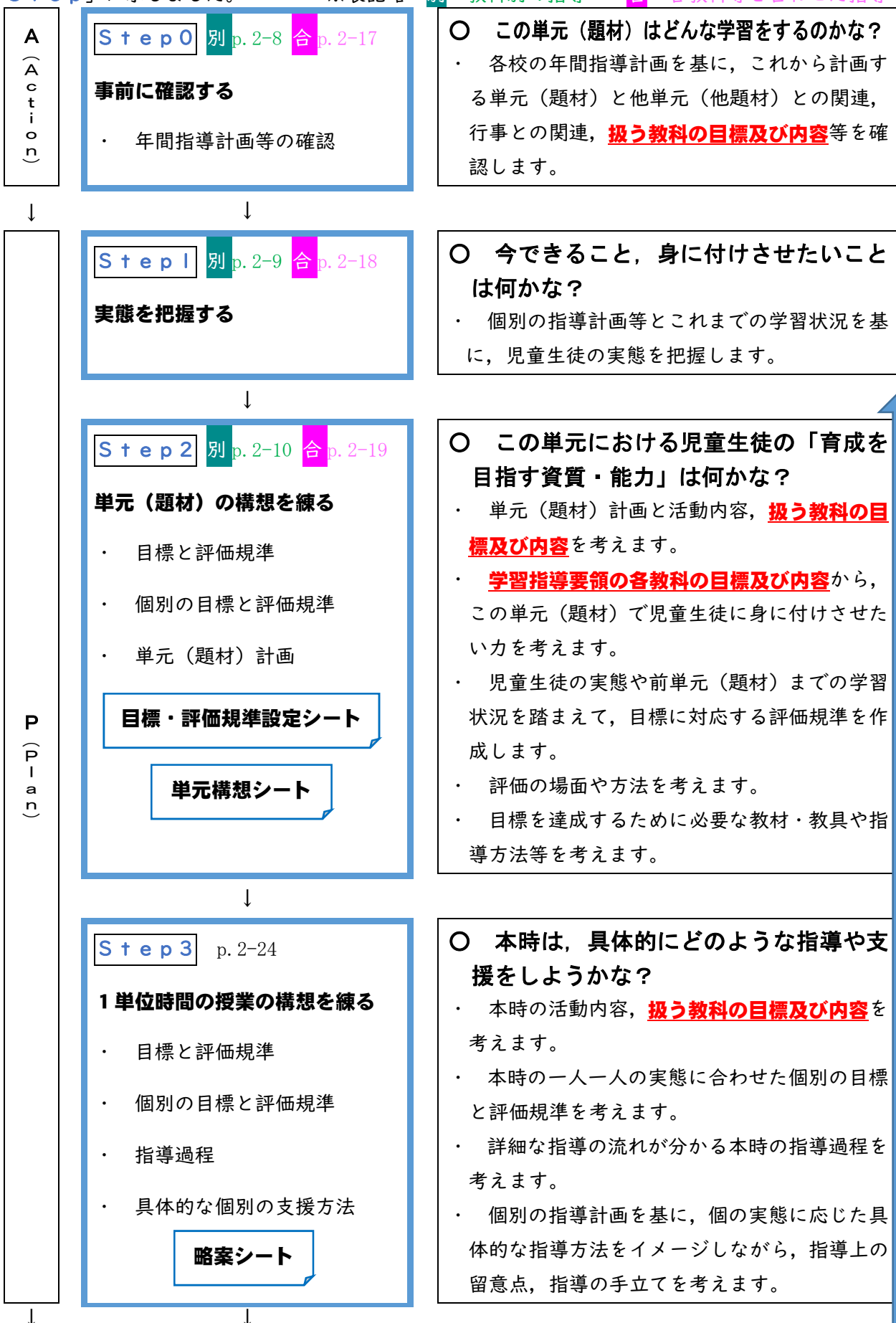


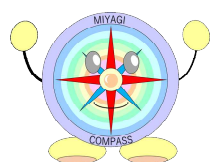
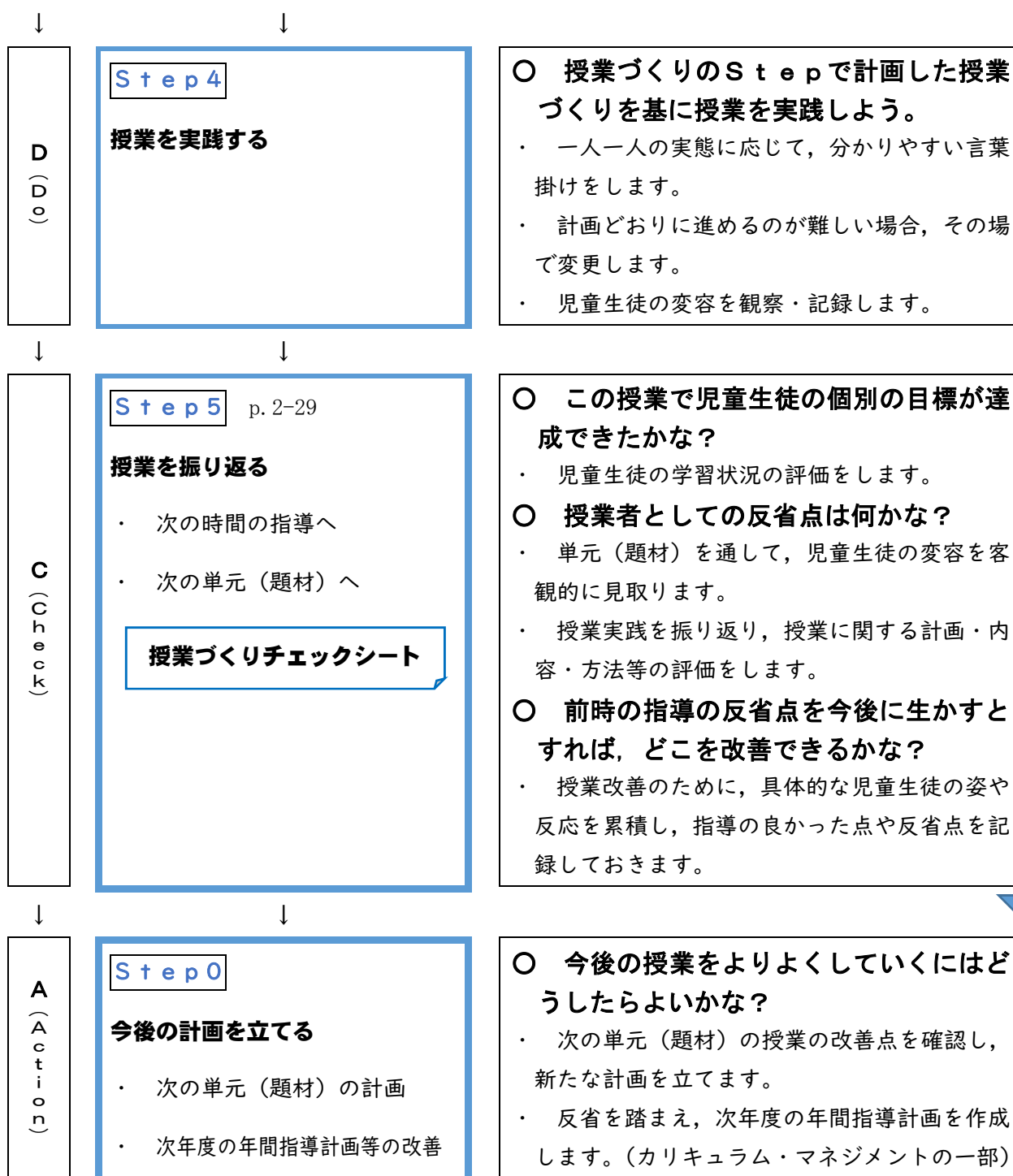
「教科別の指導」も「各教科等を合わせた指導」も、前年度に立てられた年間指導計画を、今年度の児童生徒の実態に合わせて調整・見直しをし、授業づくりを行います。また、その際には「授業改善の視点」（主体的・対話的で深い学び）（p. 2-32）の「主体的・対話的で深い学びをしている児童生徒の姿（例）」をイメージすることを提案します。



授業づくりのStep

授業づくりの基本的な流れに沿って、どんなことを考え、何をしていけばよいかを、「授業づくりのStep」に示しました。 ※表記略 別→教科別の指導 合→各教科等を合わせた指導





実際に単元（題材）計画や学習指導案を作成する際は、Stepの順番どおり進まなかったり、Stepを行ったり来たりすることもあります。各Stepの内容を参考に、**目標から評価までの一貫性を意識しながら**、自分の作成しやすい順番で授業づくりにチャレンジしてみてください。

授業づくりの際は、「**授業づくりチェックシート**」（p. 2-49）を活用して、Stepごとに授業改善に向けたチェックをしながら進めましょう。

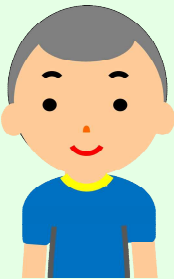
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をする際は、**授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）**（p. 2-32～p. 2-34）を参考にしてください。

授業づくりをやってみよう！ 教科別の指導（算数科編）



美田先生

- ・ 春から、小学校勤務。特別支援学級（知的障害）担任。
- ・ 今回は、「算数科」の授業づくりを行う。
- ・ 担当は1年生。在籍児童は3人。



Aさん

- ・ 知的障害
- ・ ダウン症



Bさん

- ・ 知的障害



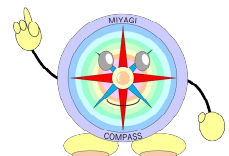
Cさん

- ・ 知的障害
- ・ ASD



Aさんに焦点を当て、一緒に授業づくりをしていきましょう。
らしーんもガイドよろしくお願いしますね。

次のページから（p. 2-7～p. 2-14）、教科別の指導「算数科」の授業づくりの一例を示しました。



授業の構成図（教科別の指導）

学習指導要領

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）

年間指導計画

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）（指導内容・方法）

児童生徒の実態

（身に付けている力、各教科の段階）
個別の教育支援計画、個別の指導計画

児童生徒の実態から、指導する教科の段階を重視して、調整・見直し

単元（題材）の目標

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）

個別の目標

（各教科の育成を目指す資質・能力）
（各教科の目標及び内容）

指導内容・方法

（各教科の目標及び内容）

単元（題材）の評価規準

（3観点）

個別の評価規準

（3観点）

授業実践

単元（題材）の評価

（3観点）

個別の評価

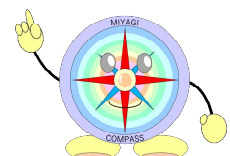
（3観点）

授業の評価・改善

次の授業実践へ

主体的・対話的で深い学びの視点

「教科別の指導」の授業づくりでは、児童生徒が身に付けている力に見合う各教科の段階を重視して目標及び内容を調整・見直しをします。その上で、具体的な単元（題材）の主な指導内容・方法を決めていきます。



Step 0 事前に確認する



事前の確認とは、どんなことをすればよいですか？

授業づくりは、この単元（題材）はどんな学習をするのかを事前に確認することから始めます。まずは、学校の年間指導計画を基に、これから計画する単元（題材）と他単元（題材）との関連、行事との関連等を確認しましょう。



〇〇小学校 〇〇学級（知的障害特別支援学級） 年間指導計画一覧

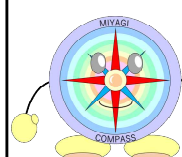
		4月	5月	6月
教科別の指導	国語	・音読 ・短文視写 ・言葉遊び（しりとり、なぞなぞ、かるた等）	・平仮名、片仮名の読み書き ・交換日記	
	算数	・なんにんいるかかぞえよう	・かぞえめいじんになろう	・いくつといくつかな？
	音楽 ※交流	・導入 ・リズムとなかよし		
	図工 ※交流	・すきな かたちや いろ なあに ・オリエンテーション	・かきたい もの なあに ・ちよきちよき かざり	・すなや つちと なかよし ・ひもひも ねんど
	体育 ※一部交流	・体ほ		
道徳		※日々		
自立活動		※児童		
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	・挨拶 ・身のこなし ・着替		
	生活単元学習	・みんなのクラス ・野菜 ・カレ		

算数科年間指導計画

単元名	2. かぞえめいじんになろう		教科書のページ	☆☆(1)p. 10～23
配当時間	7時間	活動時期	5月	学習指導要領の内容 A 数と計算 2段階 ア (ア) (イ)
単元の目標	知識及び技能	ものの集まりや数詞と対応して数字が理解できる。		
	思考力、判断力、表現力等	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。		
	学びに向かう力、人間性等	ものの集まりや数詞に関心をもち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味をもって学ぼうとする。		
単元の観点別評価基準	知識・技能	ものの集まりや数詞と対応して数字が分かっている。		
	思考・判断・表現	ものとの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学級の当番活動に生かしている。		
	主体的に学習に取り組む態度	ものを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心をもち、生活や学習に活用しようとしている。		

この学級の児童は、国語と算数は星本（☆本）を、音楽、図工は交流学級と同じ1年生の教科書を使っています。国語、算数においては授業の際、学習活動で星本（☆本）を使うと学習の効果があると思われる場面で使用していますよ。

※星本（☆本）…知的障害特別支援学校用 文部科学省著作教科書



「年間指導計画一覧」を見ると、他の単元（題材）や行事との関連が確認できます。次に、学習指導要領から「教科の目標及び内容」を確認し、児童生徒の実態（教科の段階）に合わせて、具体的な単元（題材）の主な指導内容・方法を考えます。この2つを踏まえて、学校の教育活動全体や生活場面に即しながら、繰り返し指導していくことにつなげていきましょう。

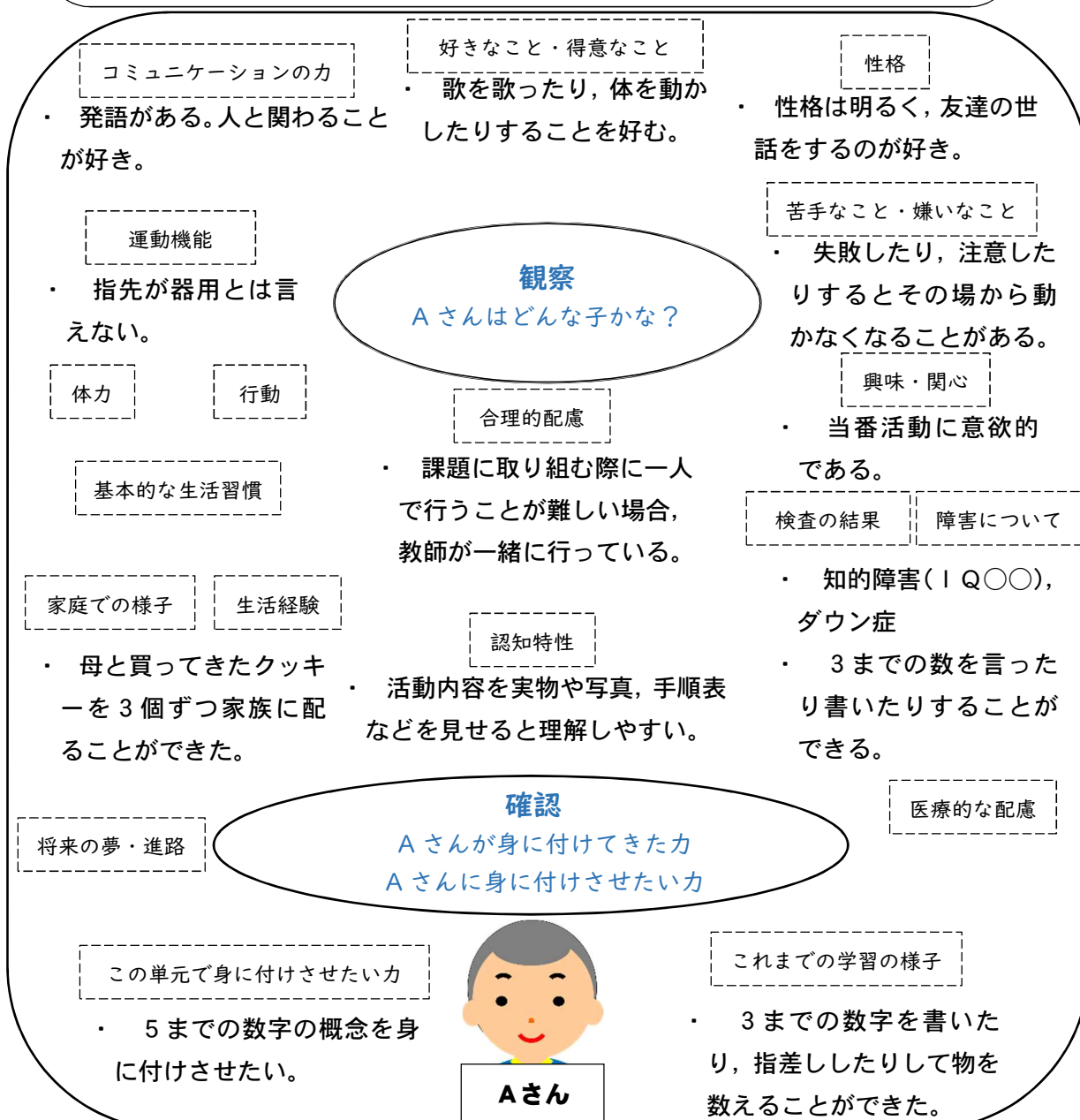
Step1 実態を把握する



どうやって実態を把握すればよいですか？

児童生徒の障害の状態や個性は、一人一人異なります。そのため、授業づくりにおいては、的確な実態把握が大切です。障害名や診断名を参考にしつつも、目の前の児童生徒一人一人の姿を見つめましょう。例えば、休み時間に一緒に遊んだり、話をしたりすることで、児童生徒の姿が見えてきますよね。

算数科「かぞえめいじんになろう」をするに当たって、Aさんの実態把握をし、単元と関わりのある部分を抜き出してみたのが以下のものです。



観察するとき… 一緒に関わりながら観察したり，少し離れたところから他の教員や友達と関わるところを観察したり，一人でいるときの過ごし方を観察したりします。

確認するとき… 「保護者からの聞き取り」「本人の言動」「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」「昨年からの引き継ぎ」「他の教員からの聞き取り」「検査の結果とその解釈」等を参考にします。

Step 2 単元（題材）の構想を練る



単元（題材）の構想を練るとは、何をすればよいですか？

単元（題材）の構想を練る際には、この単元における児童生徒の「育成を目指す資質・能力」は何かを考えながら、以下の内容を検討します。



- ・ 単元（題材）の目標を考える
- ・ 単元（題材）の評価規準を考える
- ・ 設定した単元（題材）の目標と評価規準の整理をする
- ・ 単元（題材）の個別の目標を考える
- ・ 単元（題材）の個別の評価規準を考える
- ・ 単元（題材）計画を考える

目標の設定では、「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」の各教科の各段階の目標及び内容を参考に設定します。外国語は教科の目標（英語を指導する場合は教科の目標及び内容）を参考に設定します。特別支援学級で、小学校（中学校）の内容を行っている場合は、小学校（中学校）学習指導要領の各教科の目標及び内容を参考に設定します。

目標と評価規準の設定について、もっと詳しく知りたい場合は、p. 2-36～p. 2-45 を是非読んでください。

単元（題材）の目標を考える

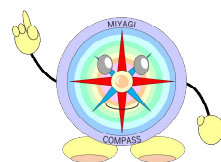
単元（題材）の目標は、育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。ただし、「学びに向かう力、人間性等」については学習指導要領に内容が示されていないものが多いので、その場合は、該当段階の「学びに向かう力、人間性等」の目標を参考に作成します。

単元（題材）の目標の表記

観点別目標	文末例
知識及び技能	～ができる。分かる。 理解する。身に付ける。 等
思考力、判断力、表現力等	～ができる。考える。 広げる。 等
学びに向かう力、人間性等	～しようとする。親しむ。 豊かにする。 等

〔参考〕文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」〕

特別支援学校、特別支援学級では、同じ学年であってもそれぞれの児童生徒に見合う教科の目標及び内容の段階が異なることがあります。単元の目標を設定する場合は、多くの児童生徒に対応できる目標を設定します。集団の平均になりそうな段階の指導内容を基に考えると、様々な段階の児童に対応しやすいです。



単元（題材）の評価規準を考える

指導目標が達成される**具体的な姿**を考え、学習評価を行うための評価規準を設定します。特別支援学級で、小学校（中学校）の内容を行っている場合は、小学校（中学校）学習指導要領の各教科の目標及び内容を参考に設定します。

評価規準の表記

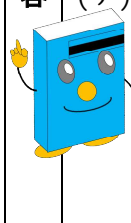
評価規準	文末
知識・技能	～している。
思考・判断・表現	～している。
主体的に学習に取り組む態度	～しようとしている。

※ 各教科の文末表記について、詳しくは「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」でご確認ください。

単元（題材）の目標及び評価規準の設定例

例：算数科 単元名「かぞえめいじんになろう」（さんすう☆☆(1) 文部科学省）2段階

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
内容	A 数と計算 (ア)⑦ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	A 数と計算 (イ)⑦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	(2段階の目標) A 数と計算 ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。



内容は学習指導要領に載っています！

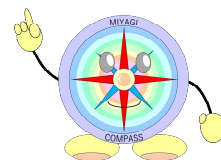
年間指導計画上の単元の目標 →

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の目標	ものの集まりや数詞と対応して数字が理解 <u>できる</u> 。	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かす <u>ことができる</u> 。	ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学 <u>ぼうとする</u> 。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	牛乳やストローの集まり、それぞれの数詞と対応した数字が分 <u>かっている</u> 。	牛乳とストローの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に <u>応じて考えている</u> 。	牛乳やストローを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心を持ち、生活や学習に活 <u>用しようとしている</u> 。

児童生徒の実態を踏まえつつ、単元（題材）の指導方法・内容をおおまかにイメージします。その上で、評価規準は、単元（題材）の最後にどのような姿が見られるかを想像して考えます。目標と評価規準は、単元（題材）を構想しているときに振り返り、適宜修正します。

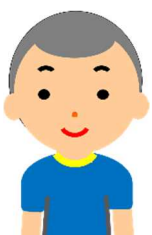
「学びに向かう力、人間性等」の評価規準を設定する際、観点が「主体的に学習に取り組む態度」に変わる理由については、p. 2-36 を見てください。



設定した **単元（題材）の目標と評価規準の整理** をする

単元（題材）の目標と評価規準を設定する際は、「**目標・評価規準設定シート**」（p. 2-46）を活用して整理しておくと、教員間で共通理解が図りやすくなります。

記入例	
学年	○○ 組 教科等： 算数
単元（題材）名	かぞえめいじんになろう 7 時間扱い
期 間	令和〇年〇月〇日（〇）～〇月〇日（〇） 場 所 教室
児童生徒の実態	・ 1 学級 3 名 ・ 集中できる時間は短い。興味のある活動は離席しないで行うことができる。 ・ 3 までの具体物を数えられる。感覚的に数の大小は分かる。数の比較は難しい。2 段階（A さん、B さん） ・ 20 までの具体物を間違えずに数えることや比べたりすることができる。3 段階（C さん）
目 標 ※ 年間指導計画の目標から児童生徒の実態に応じて、適宜修正	ものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。 [知識及び技能] 数詞と数字、ものともとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。 [思考力、判断力、表現力等] ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。 「学びに向かう力、人間性等」
扱う教科の内容	算数 A 数と計算（ア）㊦, (イ) ㊦, ウ 2 段階
評価規準	牛乳やストローの集まり、それぞれの数詞と対応した数字が分かっている。 (知識・技能) 牛乳とストローの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に応じて考えている。 (思考・判断・表現) 牛乳やストローを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心を持ち、生活や学習に活用しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)



A さん

- ・ 知的障害
- ・ ダウン症



B さん

- ・ 知的障害

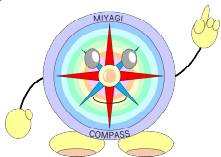


C さん

- ・ 知的障害
- ・ A S D

単元（題材）の個別の目標を考える

単元（題材）の個別の目標は育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。ただし、「学びに向かう力、人間性等」については学習指導要領に内容が示されていないものが多いです。その場合は、該当段階の「学びに向かう力、人間性等」の目標を参考に作成します。



単元の個別の目標や評価規準を設定する際にも、「**目標・評価規準設定シート**」（p. 2-46）を活用することができます。

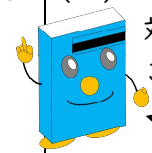
単元（題材）の個別の評価規準を考える

単元（題材）の個別の目標を踏まえて、単元（題材）の個別の評価規準を設定します。目標が達成される**具体的な姿**を考え、学習評価を行うための評価規準を設定します。

単元（題材）の個別の目標及び評価規準の設定例

例：算数科 単元名「かぞえめいじんになろう」（さんすう☆☆(1) 文部科学省）2段階

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
内 容	A 数と計算 (ア)⑦ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	A 数と計算 (イ)⑦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	(2段階の目標) A 数と計算 ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。

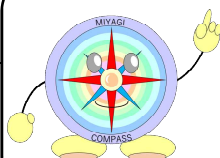


内容は学習指導要領に載っています！

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単 元 の 個 別 の 目 標	<u>5までの</u> ものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	<u>5までの</u> 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	<u>5までの</u> ものの集まりや数詞に関心をもち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。

単元の評価規準→

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単 元 の 個 別 の 評 価 規 準	牛乳やストローの集まり、 <u>それぞれの</u> 数詞と対応した5までの数字が分かっている。	牛乳とストローの関係において、 <u>5までの</u> 数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に応じて考えている。	牛乳やストローを数える活動において、 <u>5までの</u> ものの集まりや数詞に関心をもち、生活や学習に活用しようとしている。



学習指導要領では、2段階は10までの数について身に付くよう指導します。Aさんは3まで身に付けています。実態を考えると、この単元で10まで身に付けることが難しいと考え、5までの数を身に付けることをねらっています。

単元（題材）計画を考える

「単元（題材）の目標」と「単元（題材）の個別の目標」を踏まえて、単元（題材）計画を考えます。その際、「**単元構想シート**」（p.2-47）を活用し、考えやすい項目から、単元（題材）を計画していきます。

記入例

学年

〇〇 **組
学級**

教科等：

算数

単元構想シート

単元（題材）名

かぞえめいじんになろう

7

時間扱い

期 日

令和〇年〇月〇日～〇月〇日

場 所

教室

目 標

ものの集まりや数詞と対応した数字の意味を理解できる。

〔知識及び技能〕

数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

 メインの
学習活動

学級での当番活動である牛乳配りを想定した課題で、10まで数えられるようになる。

おおまかな活動の流れ

主な手立て

扱う教科の
内容

1次 既習事項の振り返り（3まで）（1時間）

・牛乳を数える（5まで）

2次 牛乳とストローを数える（5まで）（3時間）

・牛乳だけを数える
・ストローだけを数える
・牛乳とストローを組にして置く

3次 牛乳とストローを数える（10まで）（2時間）

・牛乳だけを数える
・ストローだけを数える
・牛乳とストローを組にして置く

4次 まとめと振り返り（1時間）

・実際の給食場面を想定し、牛乳とストローを数えて置く

○導入の工夫
・既習事項の確認
・ICTを活用して、学習課題を拡大提示
○意欲付け
・実際の生活場面に即した課題
・具体物を使用
・「数え名人カード」にシールを貼って賞賛

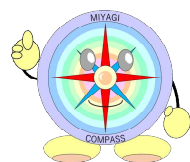
○振り返りの工夫
・活動の様子を振り返る映像の活用

算数 A 数と計算

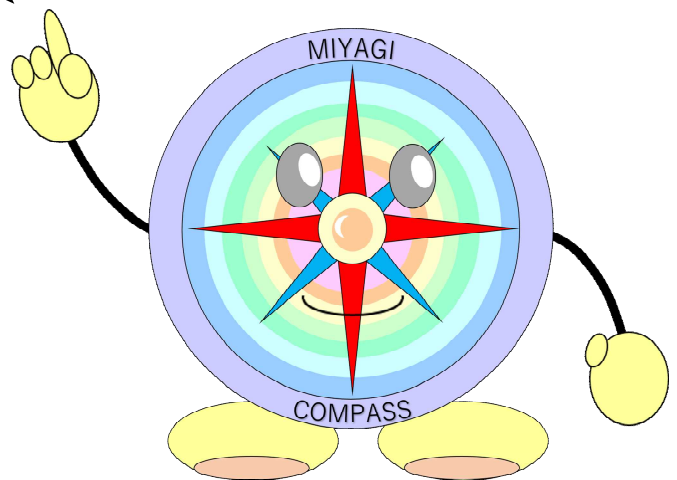
一人一人
の実態に合
わせて、ど
んな手立て
が必要？

目標を達成するには、どんな
学習活動を設定する？そして、
どんな教材を準備する？

単元計画を考える際は、「**授業改善の視点**」（**主体的・対話的で深い学び**）（p.2-32～p.2-34）にある「**授業改善に向けた教師の手立て（例）**」を活用して主な手立てを考えてみてください。



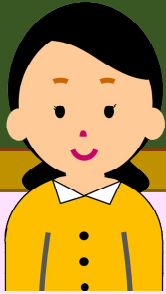
「Step3 1単位時間ごとの授業の構想を練る」は、
p. 2-24 からになります。



授業づくりをやってみよう！

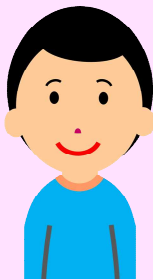
各教科等を合わせた指導

（生活単元学習編）



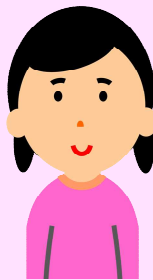
園子先生

- ・ 春から、特別支援学校（知的障害）勤務。小学部所属。
- ・ 今回、「生活単元学習」の授業づくりを行う。
- ・ 担当は4年生。在籍児童は4人。



Dさん

- ・ 知的障害
- ・ ASD



Eさん

- ・ 知的障害
- ・ ダウン症



Fさん

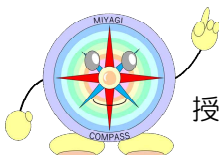
- ・ 知的障害
- ・ ASD



Gさん

- ・ 知的障害
- ・ ASD

Dさんに焦点を当て、一緒に授業づくりをしていきましょう。
らしーんもガイドよろしくお願いしますね。

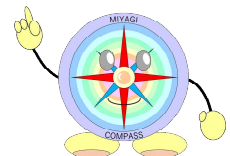


次のページから（p. 2-16～p. 2-23）、各教科等を合わせた指導「生活単元学習」の授業づくりの一例を示しました。

授業の構成図（各教科等を合わせた指導）



「各教科等を合わせた指導」の授業づくりでは、年間指導計画に記載されている単元（題材）で扱うことにしている複数の教科等について、目標及び内容を調整・見直しをする必要があります。その上で、児童生徒の実態に合わせて単元（題材）の目標を設定していきます。



Step 0 事前に確認する



事前の確認とは、どんなことをすればよいですか？

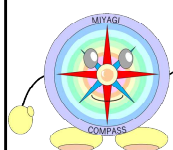
授業づくりは、この単元（題材）はどんな学習をするのかを事前に確認することから始めます。まずは、学校の年間指導計画を基に、これから計画する単元（題材）と他単元（題材）との関連、行事との関連等を確認しましょう。



〇〇支援学校 小学部中学年 生活単元学習 年間指導計画一覧

単元名 時期 時数	目標 知→〔知識及び技能〕、思→〔思考力・判断力・表現力等〕、 学→「学びに向かう力・人間性等」	主な学習活動	扱う教科の内容
目指せ！お買い物達人！ 5月 10時間	知 買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができる。 思 買い物に必要なやり取りを店員とすることができる。 学 買い物を通して、人と関わるよさに気づき、手順に沿って、自分なりの方法で買い物をしようとする。	・お金の計算 ・商品名を読む ・模擬買い物学習 ・スーパーマーケットで買い物	生活 キズ伝い・仕事 ク金銭の扱い 国語 A 聞くこと・話すこと 言葉の特徴や使い方 算数 A 数と計算
みんなで校外学習に行こう 6月 8時間	知 いつ、どこで、何をやるのか分かって行動することができる。 思 遊びたい遊具を選んだり、自分の思いを伝えたりして、施設内の活動を楽しむことができる。 学 教師や友達と関わり合いながら、マナーやルールを守って活動に取り組もうとする。 学 学校外の活動を通して、自分の興味・関心の幅を広げようとする。	・オリエンテーション （日時、場所、活動内容、 約束、荷物等の確認） ・しおり作り ・買い物学習 ・振り返り	生活 ウ日課・予定 ケきまり コ社会の仕組みと公 共施設 国語 B 書くこと C 読むこと 算数 A 数と計算
遠足に行こう 11月 8時間	知 いつ、どこで、何をやるのか分かって行動することができる。 思 見たい生き物を選んだり、自分の思いを伝えたりして、施設内の散策を楽しむことができる。 学 教師や友達と関わり合いながら、マナーやルールを守って活動に取り組もうとする。 学 学校外の活動を通して、自分の興味・関心の幅を広げようとする。	・オリエンテーション （日時、場所、活動内容、 約束、荷物等の確認） ・しおり作り ・買い物学習 ・振り返り	生活 ウ日課・予定 ケきまり コ社会の仕組みと公 共施設 国語 B 書くこと C 読むこと 算数 A 数と計算

上記のような「生活単元学習 年間指導計画」を作成している場合は、単元ごとに扱う教科とその内容が確認できます。実際に授業の計画を立てる際は、児童生徒の実態に合わせて、各教科の段階の内容を確認し、具体的な指導内容・方法を考えていきます。



また、年間指導計画を確認する際、5月の買い物学習が、6月「校外学習に行こう」や11月「遠足に行こう」の買い物学習に発展していく等の単元の系統も意識できるので、繰り返し指導していくことにつなげていきましょう。

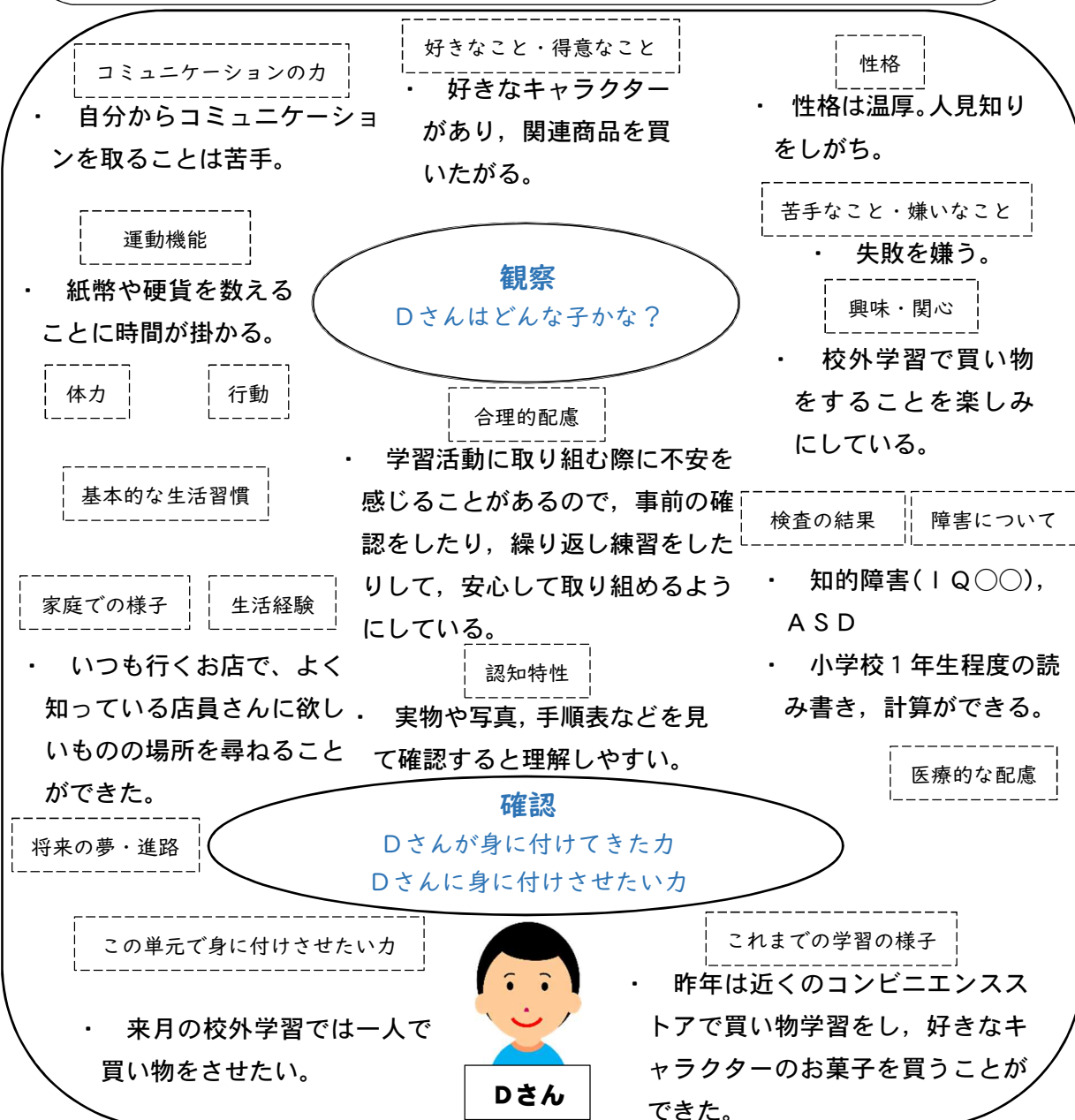
Step1 実態を把握する



どうやって実態を把握すればよいですか？

児童生徒の障害の状態や個性は、一人一人異なります。そのため、授業づくりにおいては、的確な実態把握が大切です。障害名や診断名を参考にしつつも、目の前の児童生徒一人一人の姿を見つめましょう。例えば、休み時間に一緒に遊んだり、話をしたりすることで、児童生徒の姿が見えてきますよね。

生活単元学習「目指せ！お買い物達人！（買い物学習）」をするにあたって、Dさんの実態把握をし、単元と関わりのある部分を抜き出してみたのが以下のものです。



観察するとき… 一緒に関わりながら観察したり、少し離れたところから他の教員や友達と関わるところを観察したり、一人での過ごし方を観察したりします。

確認するとき… 「保護者からの聞き取り」「本人の言動」「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」「昨年からの引き継ぎ」「他の教員からの聞き取り」「検査の結果とその解釈」等を参考にします。

Step 2 単元（題材）の構想を練る



単元（題材）の構想を練るとは、何をすればよいですか？

この単元（題材）における児童生徒の「育成を目指す資質・能力」は何かを考えながら、以下の内容を検討します。



- ・ 単元（題材）の目標を考える
- ・ 単元（題材）の評価規準を考える
- ・ 設定した単元（題材）の目標と評価規準の整理をする
- ・ 単元（題材）の個別の目標を考える
- ・ 単元（題材）の個別の評価規準を考える
- ・ 単元（題材）計画を考える

目標と評価規準の設定について、もっと詳しく知りたい場合は、 p. 2-36～p. 2-45 を読んでくださいね。

単元（題材）の目標を考える

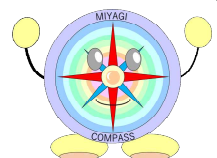
単元（題材）の目標は、育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。単元（題材）の目標が、年間指導計画に記載されている場合、昨年度の児童生徒の実態からそれぞれの単元（題材）の目標と指導内容・方法（学習活動）が設定されていることもあります。そこで、実際に授業を行う前には、今年度の指導する児童生徒の実態を踏まえ、昨年度に設定した単元（題材）の目標や指導内容・方法を適宜修正し、授業づくりを行います。

単元（題材）の目標の表記

観点別目標	文末例
知識及び技能	～ができる。分かる。 理解する。身に付ける。 等
思考力，判断力，表現力等	～ができる。考える。 広げる。 等
学びに向かう力，人間性等	～しようとする。親しむ。 豊かにする。 等

（文末例は各教科の表記（p. 2-10）を参考にしています）

単元（題材）の目標設定の際には、**「授業改善の視点」（主体的・対話的で深い学び）**（p. 2-32～p. 2-34）にある**「主体的・対話的で深い学びをしている知的障害のある児童生徒の具体の姿（例）」**を活用してみてください。



単元（題材）の評価規準を考える

児童生徒が、「設定した単元（題材）の目標を達成した姿」を具体的に考えて、学習評価を行うための評価規準を設定します。単元（題材）の評価規準は、観点別学習状況評価の3観点で設定します。

評価規準の表記

評価規準	文末例
知識・技能	～している。
思考・判断・表現	～している。
主体的に学習に取り組む態度	～しようとしている。

（文末例は各教科の表記（p. 2-11）を参考にしています）

単元（題材）の目標及び評価規準の設定例

例：小学部 生活単元学習「目指せ！お買い物達人！（買い物学習）」

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元 の 目 標	買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物を <u>することができる</u> 。	店員と買い物に必要なやり取りを <u>することができる</u> 。	買い物を通して、人と関わることのよさに気づき、手順に沿って、自分なりの方法で買い物を <u>しようとする</u> 。

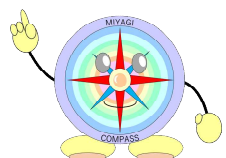


	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物を <u>している</u> 。	店員と買い物に必要なやり取りを <u>している</u> 。	手順に沿って、自分なりの方法で買い物を <u>しようとしている</u> 。

「学びに向かう力、人間性等」の評価規準を設定する際、観点が「主体的に学習に取り組む態度」に変わる理由については、p. 2-36 をご覧ください。

単元（題材）の目標について、「教科別の指導」では、教科の目標及び内容を基に設定します。「各教科等を合わせた指導」では、実際的な生活場面で発揮される具体的な姿を設定します。

「各教科等を合わせた指導」の場合、単元（題材）の目標が具体的にになれば、評価規準が目標と同じ内容になります。単元（題材）の目標を、更に具体的にした評価規準を設定するという考え方もあります。



設定した **単元（題材）の目標と評価規準の整理** をする

単元（題材）の目標と評価規準を設定する際は、「**目標・評価規準設定シート**」（p. 2-46）を活用して整理しておくと、T・Tの場合教員間で共通理解が図りやすくなります。

記入例		4 学年 組 学級	教科等	生活単元学習	目標・評価規準 設定シート
単元（題材）名		目指せ！お買い物達人！		10	時間扱い
期 日		令和〇年〇月〇日（〇）～〇月〇日（〇）		場 所	教室，スーパーマーケット
児童生徒の 実態	・ 1 学級 4 名 ・ 3 名が ASD ・ 発語に差が見られるなど，コミュニケーションや認知は多様。 ・ 同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。 ・ 指定された金額を異なる種類の硬貨を組み合わせることは難しい。 ・ これまで近くのコンビニエンスストアでジュースやお菓子を買う経験をしている。 ・ 買い物の活動は意欲的である。 ・ スーパーマーケットでは，一人で支払いができる児童と，保護者と一緒なら支払いができる児童など様々である。				
目 標 ※ 年間指導 計画の目標 から児童生 徒の実態に 応じて，適 宜修正	買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をすることができる。 〔知識及び技能〕 店員と買い物に必要なやり取りをすることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕 買い物を通して，人と関わることのよさに気づき，手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとする。 「学びに向かう力，人間性等」				
扱う教科の 内容	生活 キ 手伝い・仕事，ク 金銭の扱い 算数 A 数と計算 国語 ア 言葉の特徴や使い方，A 聞くこと・話すこと				
評価規準	買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をしている。（知識・技能） 店員と買い物に必要なやり取りをしている。（思考・判断・表現） 手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）				



D さん

- ・ 知的障害
- ・ ASD



E さん

- ・ 知的障害
- ・ ダウン症



F さん

- ・ 知的障害
- ・ ASD

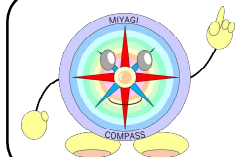


G さん

- ・ 知的障害
- ・ ASD

単元（題材）の個別の目標を考える

児童生徒の実態と関連する各教科等の目標及び内容、単元（題材）の目標を踏まえて、単元（題材）で達成させたい児童生徒の目標を設定します。



単元（題材）の個別の目標や評価規準を設定する際にも、**「目標・評価規準設定シート」**（p. 2-46）を活用することができます。

単元（題材）の個別の評価規準を考える

単元（題材）の個別の目標を踏まえて、単元（題材）の個別の評価規準を設定します。目標が達成される**具体的な姿**を考え、学習評価を行うための評価規準を設定します。

単元（題材）の個別の目標及び評価規準の設定例

例：小学部 生活単元学習「目指せ！お買い物達人！（買い物学習）」

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元 の 個 別 の 目 標	買い物の手順を理解し、金銭を用いて一人で買い物を <u>することができる</u> 。	レジで店員と買い物に必要なやり取りを一人です <u>ることができる</u> 。	普段関わりの少ない人と関わることの緊張を乗り越え、教師の促しがなくても進んで買い物を <u>しようとする</u> 。

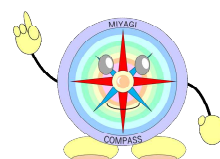
単元の評価規準→



	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 個 別 の 評 価 規 準	買い物の手順を理解し、金銭を用いて一人で買い物を <u>している</u> 。	レジで店員と買い物に必要なやり取りを一人で <u>している</u> 。	教師の促しがなくても進んで買い物を <u>しようとしている</u> 。

単元（題材）を終了した際には、扱う教科等の評価も行います。単元（題材）を通して、児童生徒が身に付けた力について、扱う教科の目標及び内容で分析し、評価することが大切です。 **Step 5**（p. 2-29）を参考にしてください。

p. 2-10 から紹介している「教科別の指導」の目標や評価規準の設定を参考にし、教科等の評価も行うことができるようにしましょう。



単元（題材）計画を考える

「単元（題材）の目標」を踏まえて、単元（題材）計画や扱う教科の内容を考えます。その際、「**単元構想シート**」（p. 2-47）を活用し、考えやすい項目から、単元（題材）を計画していきます。

記入例

4 **学年** | **組** 学級 教科等： 生活単元学習

単元構想シート

単元（題材）名 目指せ！お買い物達人！ 10 時間扱い

期 間 令和〇年〇月〇日～〇月〇日 場 所 教室，スーパーマーケット

目 標 買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができる。〔知識及び技能〕
 店員と買い物に必要なやり取りをすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
 買い物を通して、人と関わることのよさに気づき、手順に沿って、自分なりの方法で買い物をしようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

メインの学習活動 スーパーマーケットに行って、家族に頼まれたものを買う。

おおまかな活動の流れ

主な手立て

扱う教科の内容

1次 お買い物の計画（3時間）

- ・家族から頼まれたものを買うに行く経験
- ・買い物に必要な学習
→店員とのやり取り
→お金の学習

目標を達成するには、
どんな学習活動を設
定する？

- 意欲付け
- ・品物の写真
- ・家族の依頼動画
- お金の学習
- ・硬貨
- ・タブレット端末

生活キ 手伝い・仕事
生活ク 金銭の扱い
算数A 数と計算

扱う教科の
内容は？

2次 教室で買い物学習（4時間）

- ・仮想のお店で買い物学習
- ・店員役とお客役に分かれてやりとりする

どんな教材を準備する？

- 模擬買い物学習
- ・店の看板，エプ
ロン
- ・タブレット端末
- ・レジ籠

生活キ 手伝い・仕事
生活ク 金銭の扱い
国語A 聞くこと・話すこと
国語ア 言葉の特徴や使い方
算数A 数と計算

3次 スーパーマーケットで買い物学習（2時間）

- ・スーパーマーケットで買い物学習（校外学習）
- ・家族に頼まれたものを買う

一人一人の実態に合わせ
て、どんな手立てが必要？

生活キ 手伝い・仕事
生活ク 金銭の扱い
国語A 聞くこと・話すこと
算数A 数と計算

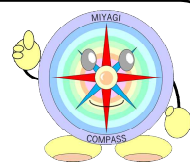
4次 振り返り（1時間）

- ・家族からのお礼動画を見る

- 意欲付け
- ・家族からのお礼
動画

生活ク 金銭の扱い
国語A 聞くこと・話すこと

単元（題材）計画を考える際は、「**授業改善の視点**」（主体的・対話的で深い学び）（p. 2-32～p. 2-34）にある「**授業改善に向けた教師の手立て（例）**」を活用して主な手立てを考えてみてください。



※ここからは「教科別の指導」「各教科等を合わせた指導」に分けず、共通の内容になります。

Step 3 | 単位時間ごとの授業の構想を練る



1 単位時間の授業の構想を練るには、どのようにすればよいですか？

1 単位時間ごとの授業の構想を練る際には、本時において具体的にどのような指導や支援をしようか考えながら、以下の流れで行います。



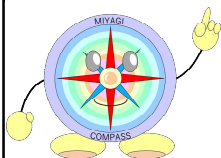
- ① 本時の目標及び評価規準を考える。
- ② 本時の個別の目標及び評価規準を考える。
- ③ 本時の指導過程を考える。
- ④ 本時の具体的な個別の支援を考える。

① 本時の目標及び評価規準を考える。

- ・ Step 2 で考えた単元（題材）の構想（「目標・評価規準設定シート」「単元構想シート」）を基に、「本時の目標及び評価規準」を設定します。教科によっては、1 時間ごとに目標や評価規準を設定する場合があります。数時間単位の小単元（題材）ごとに目標を設定する場合でも、常に児童生徒の学習の様子を見て、以降の授業や指導に生かすことを心掛けます。
- ・ 毎時間、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点について評価することは現実的ではありません。構成した単元（題材）に応じてバランスよく評価します。1 時間の授業で、全ての観点を評価するのではなく、1～2 項目に絞って設定することが多いです。
- ・ 単元（題材）の2 時間目以降は、前時までの学習活動の様子を基に修正することも考えられます。

② 本時の個別の目標及び評価規準を考える。

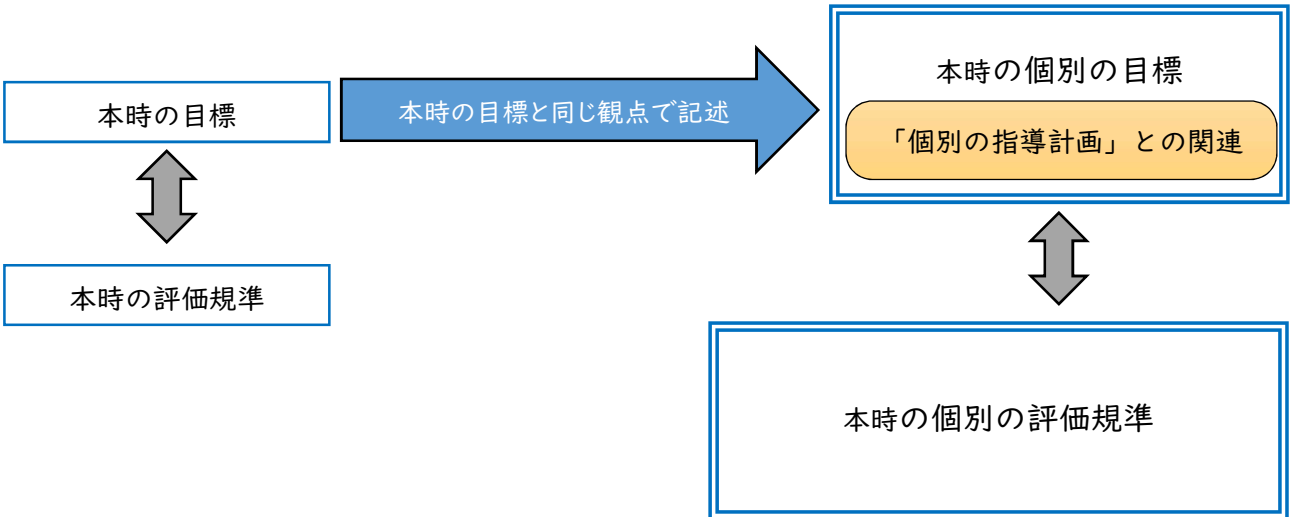
- ・ 「本時の目標」として設定した目標に合わせ、一人一人の実態に合わせて具体的に考えます。
- ・ 「個別の指導計画」の目標を関連させます。
- ・ 特別支援学校、特別支援学級では、その授業の目標が達成できたかどうかは、個々の児童生徒の「個別の目標」の達成度によって決まります。
- ・ 1 単位時間ごとの個々の学びをより丁寧に見ていくことができるように、1 単位時間ごとの「個別の目標」に対する「個別の評価規準」が重要になります。



児童生徒の「個別の指導計画」に設定されている自立活動や各教科等の目標の達成に向けて、「個別の目標」が設定されます。

その際、「1 単位時間ごとの個別目標」は、スモールステップで達成させたい内容を、考えてみるとよいですよ。

○本時の目標と評価規準の関係



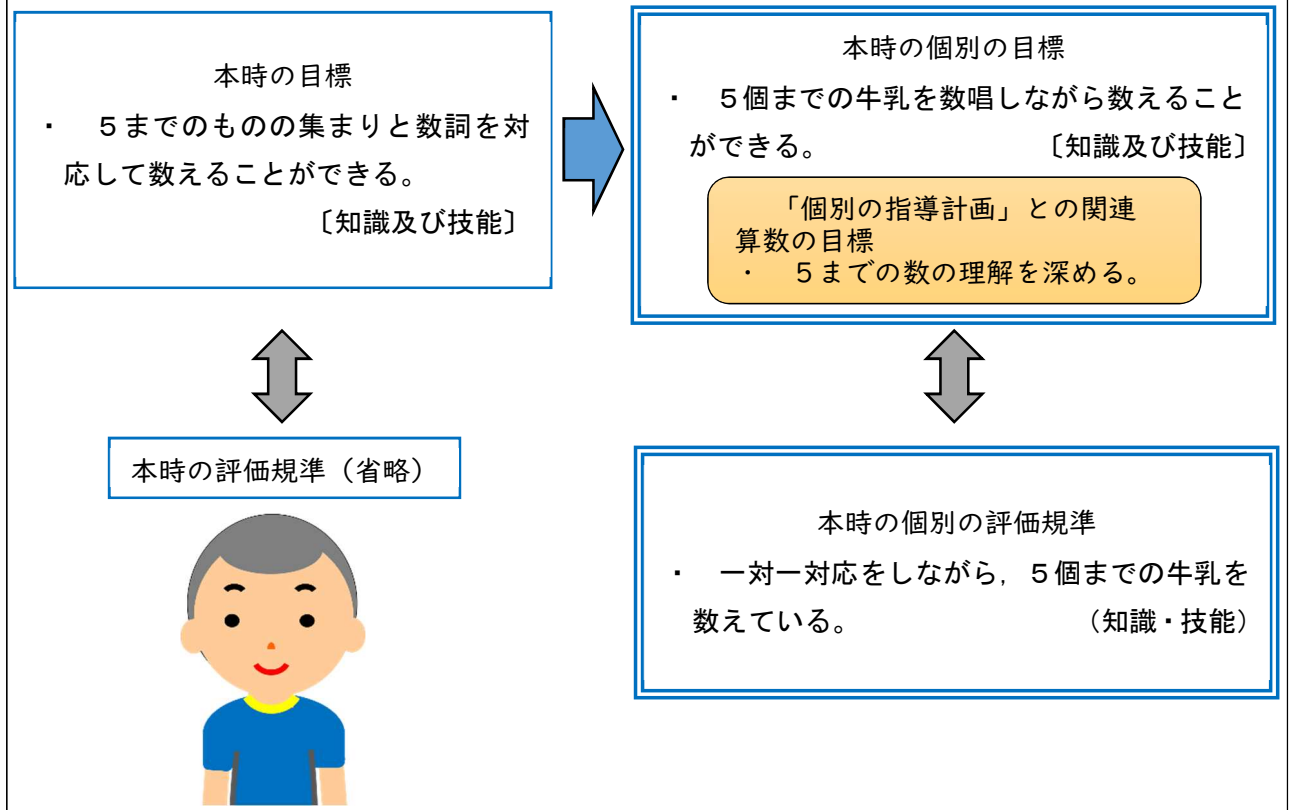
「教科別の指導」では、「個別の目標」に対する「個別の評価規準」は、個別の目標に関して具体的に「何ができれば、目標を達成した姿と言えるか？」を考えて設定します。

まずは、「教科別の指導」について一緒に考えてみましょう。



「教科別の指導」の算数科「かぞえめいじんになろう」第1時の目標と評価規準，指導過程を考えてみました。

例：算数科「かぞえめいじんになろう」



③ 本時の指導過程を考える。

- ・ 略案等に具体的に書き表して、指導の流れ等をイメージしやすくします。

○ 算数科の略案

記入例		〇〇学級 算数科「かぞえめいじんになろう」略案		略案シート	
		日 時 令和〇年〇月〇日〇：〇〇～〇：〇〇			
		場 所 〇〇学級 教室			
		指導者 〇〇 〇〇			
単元（題材）名		かぞえめいじんになろう		1 時間目 / 7 時間扱い	
本時の 目 標		・ 5までのものの集まりと数詞を対応して数えることができる。 [知識及び技能]			
扱う教科の 内容		算数 A 数と計算			
段階	学習活動 ○主な発問 ・ 指示 ◆予想される児童の反応		指導上の留意点		備考（準備物等）
導 入 10 分	1 始めの挨拶をする。		日直に注目するよう促す。		電子黒板 タブレット端末 動画 ストロー
	2 本単元の学習内容を知る。 ・ 動画を見ます。 ◆静かに見ている。 ◆早くやりたくてウズウズしている。		今まで給食の手伝いをしてくれた 6年生からのメッセージ動画を使用し、本単元の課題を提示する。 Aさんの学習に取り組みたい気持ちに共感し、意欲を高める。		
	3 既習事項を振り返る。 ・ 3までのものを数えます。 ◆指さしに合わせて数を数える。 ◆Bさんは、発語はないが、指さしをして数える。		みんなが注目できるように、課題を拡大提示する。 指さしをする児童（Bさん）と数唱をする児童（AさんとCさん）で協力しながら数えることで、児童同士の学び合いを促す。		
	4 本時のめあてを知る。 ぎゅうにゅうをかぞえよう。 ・ 今日のめあてを読みます。 ◆みんなで一緒に声を出して読む。		クラスの人数である5人分を配る課題を提示する（児童3人、担任、支援員分）。 みんなの声に合わせて指さしするようBさんを支援する。		

次は、「**各教科等を合わせた指導**」について一緒に考えてみましょう。
 「各教科等を合わせた指導」では、「個別の目標」が単元（題材）の目標と同様に具体的に設定されています。
 「個別の評価規準」は、目標と同じ内容が設定されることもあります。個別の目標に関して、更に具体的に「何ができれば、目標を達成した姿と言えるか？」を考えて設定する場合がありますよ。



「各教科等を合わせた指導」の生活単元学習「目指せ！お買い物達人！」第7時の目標と評価規準、指導過程を考えてみました。

例：生活単元学習「目指せ！お買い物達人！」

本時の目標

- ・ 決められた品物を選び、必要な金額を用意して買い物をすることができる。
〔知識及び技能〕
- ・ 店員役とお客役に分かれ、買い物のやり取りをすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕



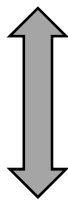
本時の個別の目標

- ・ レジで、買う品物に対して、必要な金額を準備し、支払いをすることができる。
〔知識及び技能〕
- ・ レジで、店員役やお客役と言葉を交わしながらやり取りをすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕

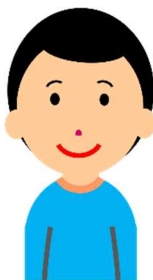
「個別の指導計画」との関連
自立活動の目標

- ・ 気持ちを落ち着けて周囲の人とやり取りができる。
心理的な安定(1)(3)
コミュニケーション(1)(5)

※自立活動が関連する理由は p. 1-10 をご覧ください。



本時の評価規準（省略）



本時の個別の評価規準

- ・ ちょうどの金額を一人で支払っている。
（知識・技能）
- ・ 自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りをしている。
（思考・判断・表現）

- ・ 略案等に具体的に書き表して、指導の流れやT・Tの役割分担などをイメージしやすくします。

記入例

略案シート

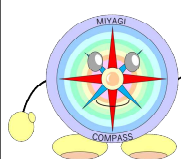
場 所 小学部4年1組 教室

指導者 ○○ ○○ (T I)

○○ ○○ (T 2)

④ 本時の具体的な個別の支援を考える。

- ・ 1 単位時間ごとの授業について、「個別の目標」を達成するための具体的な支援を考えます。



指導過程や個別の支援を考える際は、常に児童生徒の実態を頭に浮かべながら、考えてみましょう。また、「授業改善の視点」(主体的・対話的で深い学び) (p. 2-32～p. 2-34) を参考にしてみてください。

略案に、基本的には決まった形式はありませんが、「みやぎ授業づくりガイド」で用いている「**略案シート**」(p. 2-48)を活用してみてください。

Step 5 授業を振り返る



授業を振り返るポイントは何がありますか？

授業が終了したら、次の授業に向けて、以下の4つの視点で振り返りをしましょう。



視点① この授業で児童生徒の個別の目標は達成できたか？

- 児童生徒の学習状況を、児童生徒の様子（表情、反応、声の大きさ、動作等）から評価します。

[評価の根拠となるもの・材料とするもの]

- 発達段階に応じて、振り返りシートを記入したり、タブレット端末等で質問に答えたりする様子。
(文字を書くことが苦手な児童生徒には、気持ちや表情、到達状況を表すイラストやマークを使用する。)
- 児童生徒が写真や動画を見て、自分の変容に気付いたときの言動。
- 児童生徒が授業の終結部分で発表した、感じたことや考えたことの内容。

- 「教科別の指導」の場合は、『『各教科』における学習評価の進め方例（小学校・中学校高等学校）』（p.2-31）を参考にしてください。
- 「各教科等を合わせた指導」の場合は、単元（題材）の評価と**単元（題材）で扱う教科の評価**をします。

例：小学部 生活単元学習「目指せ！お買い物達人！」 Dさん

単元の個別の目標	扱う教科の実態 (教科名・段階・内容のまとまり)
買い物の手順を理解し、金銭を用いて一人で買い物をすることができる。[知識及び技能]	生活・3・ク金銭の扱い・(イ) 国語・3・A 聞くこと・話すこと・オ
レジで店員と買い物に必要なやり取りを一人ですることができる。[思考力、判断力、表現力等]	算数・3・A 数と計算・イ(イ)㊤
普段関わりの少ない人と関わることの緊張を乗り越え、教師の促しがなくても進んで買い物をしようとする。 「学びに向かう力、人間性等」	生活・2・段階の目標ウ ※自立活動・心理的な安定(1)(3)

↓

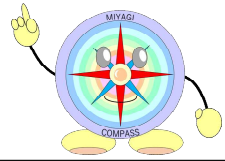
単元の個別の評価規準	扱う教科の個別の評価 (教科名・段階・内容のまとまり・内容)
指定された品物を見付け、かごに入れてレジに持っていき、店員とやり取りしながらお金を支払うことができた。(知識・技能)	生活・3・ク金銭の扱い・(イ) 国語・3・A 聞くこと・話すこと・オ
示された金額を見て、自分で判断しその金額より多いお金を10円玉で払うことができた。(思考・判断・表現)	算数・3・A 数と計算・イ(イ)㊤

練習を重ねることで買い物の仕方を覚え、校外学習では、落ち着いてやり遂げ、無事に終えたときには笑顔が見られた。（主体的に学習に取り組む態度）

生活・2・段階の目標ウ

※自立活動・心理的な安定(1)(3)

「各教科の内容表」（p. 3-25）で確認してみてください。



【留意点】・ 単元の個別の評価では、児童生徒ができたこと、伸びたことを見取っていきます。当然、扱う教科の個別の評価には児童生徒ができたこと、伸びたことを教科の目標及び内容を段階まで示しています。

- ・ 変容が見られなかった場合は、学習の過程や可能性を記録し、次の指導に生かします。
- ・ 「自立活動の指導（p. 1-10）」は、各教科等の指導とも密接な関わりがあり、「各教科等を合わせた指導」の中で行うこともあります。そのため、単元（題材）で自立活動に関する変容が見られた場合、評価として記録します。

視点② 授業者として、実施した授業の良かった点や反省点は何だったか？

- ・ 単元（題材）を通して、児童生徒の変容を客観的に見取ります。
- ・ 授業実践を振り返り、授業に関する計画、内容、方法等の評価をします。

[評価の視点]

- ・ 授業のねらいは達成できたか？
- ・ この授業で児童生徒の「資質・能力」の目標を達成させることができたか？

[評価方法（例）]

- ・ 授業の様子を撮影して振り返る。

授業者自身→自分の話し方、指示の出し方の「くせ」に気付くとよい。

「はい」「うん」などの相づちの打ち方等も確認。

児童生徒に寄り添うときの立ち位置、背後からか、横からか 等

T・T→役割は明確になっていたか、配置や動線はどうだったか 等

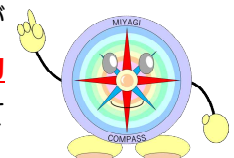
- ・ 授業を参観してもらう（校内研究などで）。
- ・ 授業分析をする。

T・Tなど複数の教員で授業を行っている場合、テーマを絞って話し合う。

視点③ 指導の良かった点は、今後どのような指導に生かすことができるか？

視点④ 指導の反省点を今後に生かすとすれば、どこを改善できるか？

授業改善のためには、具体的な児童生徒の姿や反応を累積して変容を見ながら、次の授業を考えていくことが大切です。**「授業改善の視点」（主体的・対話的で深い学び）**（p. 2-32～p. 2-34）を挙げました。児童生徒の評価に活用してみてください。



参考

「各教科」における学習評価の進め方の例

（小学校、中学校、高等学校）

評価の進め方

留意点

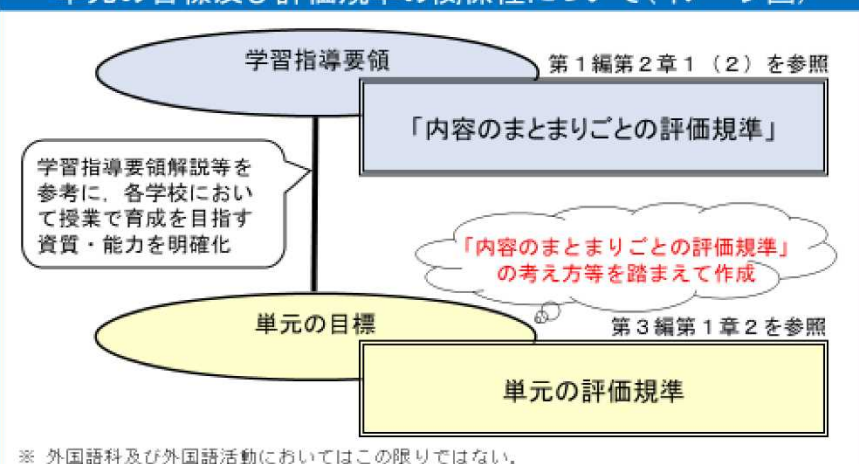
1

単元の目標を
作成する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



※ 外国語科及び外国語活動においてはこの限りではない。

2

単元の評価規準を
作成する

3

「指導と評価の計画」
を作成する

- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

授業を行う

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

4

観点ごとに総括する

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价（A, B, C）を行う。

（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」）

※ 上記「生徒」の記述は、小学校では「児童」

※ 上記「単元」の記述は、「図画工作」、「美術」、「音楽」、「技術・家庭」、「芸術（音楽、美術、工芸）」
の場合では「題材」

授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）

主

主体的な学び
をしている時
の知的障害の
ある児童生徒
の具体の姿
（例）

[学ぶことに興味や関心を持っている姿]

- ・ 教師や友達の活動、提示した物を目で追ったり触ろうとしたりしている。
- ・ 教師や友達の活動をまねたり、一緒に取り組んだりしている。
- ・ 積極的な発言や「なぜ」「知りたい」などの発言が見られる。

[自己のキャリア形成の方向性と関連付けている姿]

- ・ 「もっとしたい」「できるようになりたい」「できるようになった」という思いを表現している。

[見通しを持っている姿]

- ・ 次の活動をイメージした行動をしている。

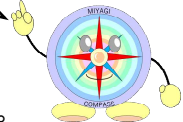
[粘り強く取り組んでいる姿]

- ・ 課題を繰り返し行ったり、粘り強く取り組んだりしている。
- ・ もっと良い方法を探ろうとしたり、解決方法を考えたりしている姿が見られる。

[自己の学習活動を振り返って次につなげる姿]

- ・ 自分の良かったところ、次にやってみたいことを話したり、表現したりしている。

指導目標や評価規準を設定するときの
ヒントにしてください。



[題材の工夫]

- ・ 得意なことから始め、もう少しでできそうなことに挑戦できるようにする。
- ・ 児童生徒の生活経験などから、具体的にイメージできる題材を用意する。

[提示の工夫]

- ・ 授業の導入で、期待を持たせる工夫をする。
- ・ 見え方に配慮した位置や大きさにしたり、タイミングや間、見せ方を工夫したりする。
- ・ 言葉だけでなく、写真や具体物を提示する。

指導方法を考えるときの
ヒントにしてください。



[自己選択・自己決定の場合]

- ・ いくつかのものから、
選択できるような題材にする。

授業改善に向
けた教師の手
立て（例）

[キャリア形成の視点]

- ・ 憧れの仕事、身近な仕事、などに触れる機会を多く設け、その仕事に就くにはどんな力を身に付けたらよいか考えられるようにする。

[見通しを持たせる工夫]

- ・ 授業の導入での見通しが持たせることができるように、授業の内容・順番を視覚化する。
- ・ 授業の最後に振り返りカードなどで、その時間の振り返りと次の目標を関連付けていく。
- ・ 単元（題材）や授業の中で身に付けたい力（めあて・目標）を明確に示し、意識付けする。

[時間の確保]

- ・ 児童生徒の考える時間、活動時間を確保する。

[称賛の工夫]

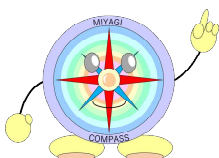
- ・ できたら、称賛を繰り返したり、シールなどで賞賛を可視化したりする。

対話的な学び をしている時 の知的障害の ある児童生徒 の具体の姿 (例)	[子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深めている姿] ・ 友達が話しているところを見たり、聞いたり、うなずいたりしている。 ・ 他の児童生徒の作品に関心を持っている。 ・ 児童生徒同士が話し合ったり、意見の交換をしたりしている。 ・ 話合いで、自分の考えを広げている。 [教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深めている姿] ・ 教職員が話しているところを見たり、言葉を聞いたりしている。 ・ 教職員の質問に答えたり、対話したりしている。 [地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深めている姿] ・ 地域の人や自分に関わりのある人と触れ合ったり、会話したりしている。 [先哲の考え方を手掛かりに考えている姿] ・ 映像や本を通して、先人や作者の思いや考えに触れている。 ・ 映像や本を通して、登場人物の思いや行動に触れている。 ・ 教職員や関わりのある人との対話を通じて、考えている。 [対話を通じ自己の考えを広げ深めている姿] ・ 発語はないが、音や匂い、触覚などの外的な刺激に反応している。 ・ 友達や教職員・地域の人との対話を通じて、自分の考えを広げ深めている。
授業改善に向 けた教師の手 立て（例）	[表現の方法] ・ 考えを音声言語や文字で表現するのが難しい場合は、表情や言葉を表すカードやICTを用いる。 ・ 言葉だけでなく、音や絵等の作品など様々な表現方法を取り入れる。 ・ 感じたことを、拍手の数や動作、ジェスチャーで表現し合う。 [選択の機会の設定] ・ 語彙が少ない場合は、いくつかの言葉を示し、そこから選択できるようにする。 ・ いくつかの選択肢から「みんなですることを決めよう」と選べるようにする。 [感受の仕方] ・ 互いの学ぶ姿や作品が見えるようにする。 ・ 考えや思いを伝え合う活動を取り入れる。 [場の設定] ・ 買い物学習、職場訪問など多くの人と触れ合える機会を設ける。 ・ ゲストティーチャーとして、地域の人と触れ合えるような機会を設ける。 [教材の工夫] ・ 児童生徒の段階に応じて関心を抱きやすい教材を用意する。 ・ 季節や時期に関する先哲の言葉やエピソードなどを紹介する。 [言語化] ・ 発語が難しいときは、教師が児童生徒の考えを代弁したり、言語化したりする。 ・ 微細な変化も取り上げ、言語化する。

深い学びをしている時の知的障害のある児童生徒の具体の姿（例）	[各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせている姿] ・ 学んだことを働かせながら生活の中で生かそうとしている。 ・ 学んだことを生活の中で働かせている。 [知識を相互に関連付けてより深く理解している姿] ・ 学んだことを次の授業や活動に生かしている。 ・ 友達と話し合い、よりよい考えを持つ。 [情報を精査して考えを形成している姿] ・ いくつかの情報を精査して、自分の考えを持つ。 ・ 習得した知識を結び付けて、社会の中で生きて働く力を身に付ける。 [問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かおうとしている姿] ・ 問題や課題の解決策を考える。 ・ 新しい方法を考えている。
授業改善に向けた教師の手立て（例）	[教材の工夫] ・ 学習したことを生活の中で生かせるように、掲示物や用具に工夫をする。 [見方・考え方] ・ 各教科等の見方・考え方を働かせることの学習場面を、計画的に設定する。 [日常生活との関連] ・ 季節や行事の中で学んだことを発揮できる機会を、意図的に設ける。 ・ 児童生徒が日常生活の中で学んだことを生かせたときに、称賛し、意欲を付けていく。 ・ 学んだことを他の教員や家庭と連携して、他教科や日常生活と関連付ける。 [発問の工夫] ・ 学んだことや発展したことに出会ったときは「どうしたらいいかな」と投げ掛ける。 ・ 校内の植物や季節の掲示物などに変化があったときに「なぜかな」「どうしてかな」と投げ掛ける。

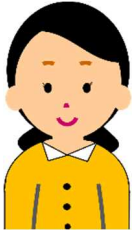
（国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」、

独立行政法人教職員支援機構「アクティブ・ラーニング研修プログラムモデル～主体的・対話的で深い学びの実現のために～」を基に作成



特支小中学学習指導要領解説総則編 p. 8 に「**深い学びの鍵として『見方・考え方』を働かせることが重要になる**」とあります。各教科の見方・考え方は、その教科等ならではの物事を捉える考え方です。児童生徒が学習や人生において、「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが大切です。

知的障害教育の授業づくりについて、「教科別の指導」と「各教科等を合わせた指導」に分けて説明してきましたが、参考になりましたか？



私は、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりが参考になりました。授業づくりでは、目標設定について、もう少し詳しく知りたいです。



私は、授業づくりに関して、評価規準の設定について、もう少し詳しく知りたいと思いました。

目標及び評価規準の設定については、「目標及び評価規準について」（p. 2-36～45）を参考にしてみてください。

その他に、授業づくりの参考となる

- ・ 「教材・教具の準備について」（p. 3-33）
- ・ 「特別支援教育の教材・教具について」（p. 3-34）
- ・ 「特別支援教育のICT活用について」（p. 3-35～p. 3-36）
- ・ 「T・T（チーム・ティーチング）について」（p. 3-37）

についても紹介してあります。

また、授業づくりで活用できる

- ・ 「目標・評価規準設定シート」（p. 2-46）
- ・ 「単元構想シート」（p. 2-47）
- ・ 「略案シート」（p. 2-48）
- ・ 「授業づくりチェックシート」（p. 2-49）

を用意してあります。必要に応じて、授業づくりで役立ててください。

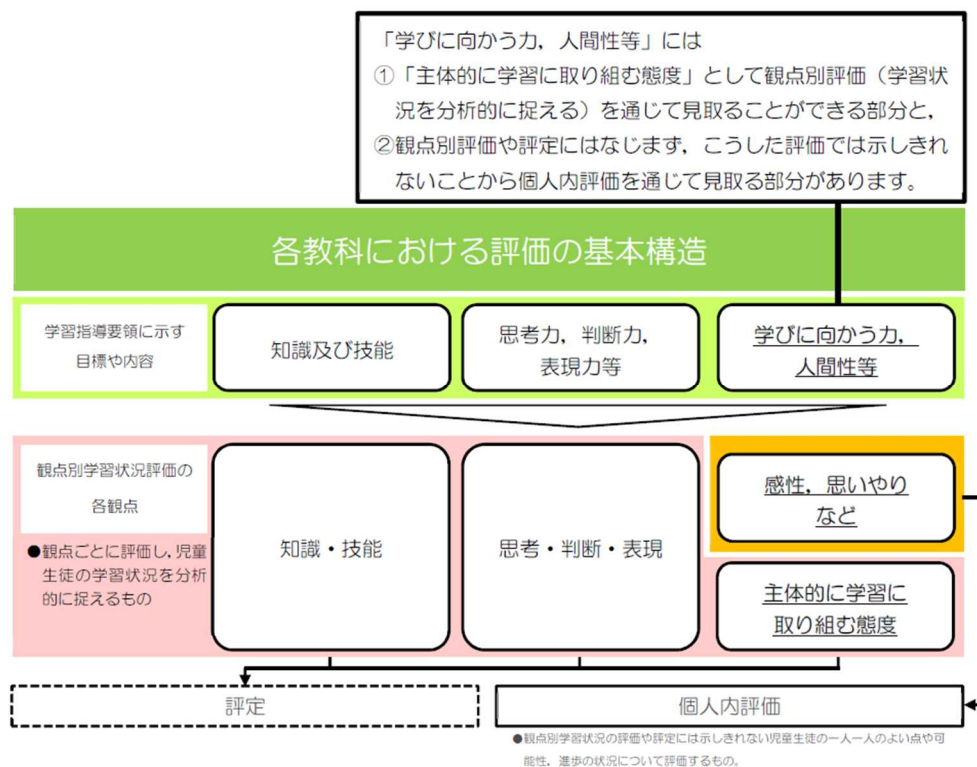


知的障害教育の授業づくりは、奥が深いことが分かりました。子供たちのために、授業づくりを頑張りたいと思います。

各教科の学習評価

学びの連続性の観点から、知的障害者である児童生徒のための各教科の目標や内容について、小学校等と同様に、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理されました。各教科の学習評価についても、小学校等と同様に、観点別学習状況の評価を行います。

ここで、各教科における評価について確認します。



（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」）

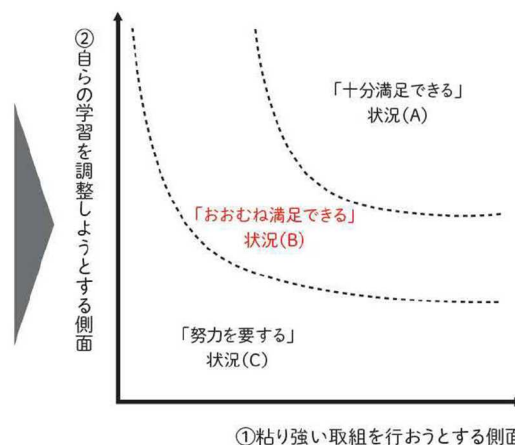
「感性、思いやりなど」は観点別学習状況の評価の観点ではないため、学習評価としては行いません。しかし、知的障害を有する児童生徒においては、自己肯定感等を高めるために大切にしたいポイントと考えます。授業の中で児童生徒の良さを見付け、その都度、称賛するといった評価をすることが必要です。

※観点別学習状況の評価についてはp. 1-18でも紹介しています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」）

目標及び評価規準について

「みやぎ授業づくりガイド」では、目標や評価規準を設定する際、小学校の生活科や総合的な学習の時間の考えを活用することを提案します。理由は、知的障害の学習上の特性を踏まえた指導の考え方である「実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるように指導することが効果的である」という点と親和性があるからです。p. 2-38～p. 2-45を具体的な目標や評価規準を設定する際の参考にしてください。

目標「知識及び技能」、評価規準「知識・技能」の考え方

目標については、資質・能力を踏まえて考えています（p. 1-17）。評価規準については、知識と技能を分けて考え、具体例を提案します。

目標「思考力、判断力、表現力等」、評価規準「思考・判断・表現」の考え方

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第5章第3節4(2)では、「考えるための技法」を活用することを求めています。この「考えるための技法」は「各教科等において、どのような『思考力、判断力、表現力等』を養いたいかということを踏まえつつ、児童の実態に応じて活用を図ることが期待される。」と記されています（中学校編も同様、高等学校編総合的な探究の時間はほぼ同様）。

この考えを基に、目標及び評価規準の設定ポイントを提案します。

目標「学びに向かう力、人間性等」の考え方

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編で記されている「自分自身に関すること」と「他者や社会との関わりに関すること」は、目標設定の視点になると考えます。

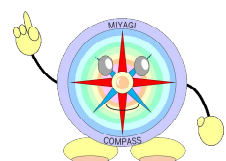
この考えを基に、目標設定の要素を提案します。

評価規準「主体的に学習に取り組む態度」の考え方

特別支援学校でも、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、小学校、中学校、高等学校同様に「粘り強さ」と「学習の調整」の二つの側面から評価することが求められています（p. 2-36下図を参照）。

「みやぎ授業づくりガイド」では、知的障害を有する児童生徒については、「粘り強さ」「学習の調整」に「学習評価に関する参考資料」の小学校生活科で示されている「実感や自信」を加えて考えることにし、具体例を提案します。

「学習評価に関する参考資料」で「学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒の学習評価についても変わるものではない。」と示されています。



目標及び評価規準の設定ポイント

㊦ 知識及び技能

㊦ 知識・技能

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	知識	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習対象などと身に付けてほしい知識 ③ 児童生徒の状態 （具体的な児童生徒の姿「気付いている、分かっている、知っている、理解している」）
	技能	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 身に付けてほしい技能（器用に、素早く、ずっと、いつも、いつでも 等） ③ 児童生徒の行為 （具体的な児童生徒の姿「身に付けている、表している など」）

評価規準設定例（知識）

- 生活 ①遊具で遊ぶ活動において、②滑り台で遊ぶときは、順番があることを③理解している。
（小学部 2段階エ遊び(イ)）
- 国語 ①友達からものを受け取る活動を通して、②「ありがとう」は、感謝の気持ちを表していることに③気付いている。
（小学部 2段階ア言葉の特徴や使い方(ア)）
- 社会 ①地域の安全を守る仕事には、警察や消防署などがあり、②地域の人々と協力していることが③分かっている。
（中学部 1段階ウ地域の安全(ア)⑦）

評価規準設定例（技能）

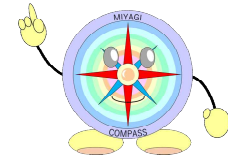
- 国語 ①挨拶の仕方の学習において、②いつも口の大きさに気を付けて、③話している。
（小学部 3段階ア言葉の特徴や使い方(イ)）
- 音楽 ①合奏において、②音楽を感じながら安定して、③ハンドベルを演奏（鳴ら）している。
（小学部 1段階A表現ア音楽遊び(ウ)④）
- 職業 ①情報機器の活用に関する学習において、②ローマ字表を見ながら、③キーボード入力をしている。
（中学部 2段階B情報機器の活用ア）

音楽の技能の評価規準については、小学校の学習指導要領を基に設定する場合、「A表現」の文末は「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択して作成する。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しない。

〔参考〕学習評価に関する参考資料、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

教科別の評価規準について

知識は、
「児童生徒の気付いている（分かっている、知っている）状態」
 を考えます。
 技能は、
「習得した（習得している）知識を使って、何かをしている状態」
 を考えます。



各教科等を合わせた指導

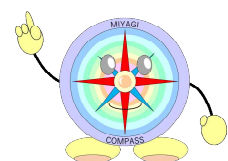
目標の内容に取り入れるポイント		→	評価規準の設定
知識及び技能	① 学習活動，学習場面，学習状況など ② 児童生徒に身に付く「知識及び技能」 （～ができる。分かる。理解する。身に付ける。できるようにする。等）		設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

目標設定例（知識及び技能）

- 日常生活の指導 ①朝の挨拶をする場面において，②相手の目を見て挨拶することができる。
 （小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において，いろいろな紙を使った②遊び方が分かる。
 （小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ①友達や教師，教室などの②新しい環境を理解し，②環境になじむことができる。
 （小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①木工の作業において，②自分の役割を理解するとともに，②道具の使い方を身に付ける。
 （中学部「木工作業」）

各教科等を合わせた指導について

知識面は、
「児童生徒に身に付けてほしい知識（「できる」「分かる」「理解する」）は何か」
 を考えます。
 技能面は、
「児童生徒に身に付けてほしい技能（「器用に～する（できる）」「素早く～する（できる）」「ずっと～する（できる）」「いつも～する（できる）」「いつでも～する（できる）」など）」は何か」
 を考えます。



目標及び評価規準の設定ポイント

㊦ 思考力、判断力、表現力等 ㊦ 思考・判断・表現

第1章

第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	→ 思考・判断・ 表現	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習活動において期待する思考 ③ 「思考・判断・表現」している姿 （具体的な児童の姿）

評価規準設定例（思考・判断・表現）

- 生活 ①校庭の草花を観察する学習において、チューリップとタンポポが花の仲間であるという②同じところを見つけて、③教師や友達に教えている。（小学部 2段階サ生命・自然(ア)）
- 算数 ①身近なものの学習において、自動車や自転車に乗るものであると②関連付けながら、③仲間分けをしている。（小学部 1段階A数量の基礎イ(イ)㊦）
- 保健体育 ①水泳の学習において、ビート板を使いながらバタ足を②試して、どのような呼吸をすればよいかを③教師や友達に話そうとしている。（中学部 1段階D水泳運動イ）

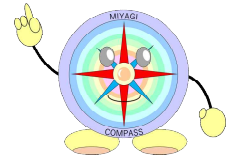
各教科等を合わせた指導

目標の内容に取り入れるポイント	→	評価規準の設定
① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習活動で見られる思考 ③ 児童生徒に身に付けてほしい「思考力、判断力、表現力等」 （～ができる。考える。広げる。できるようにする。等）		設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

目標設定例（思考力、判断力、表現力等）

- 日常生活の指導 ①朝の会に参加することを通し、②一日の活動の順番を知り、③楽しんで参加している。（小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、②紙の感触を感じて、③遊んでいる。（小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ②これまでとの違いを感じて、①友達や教師と③交流することができる。（小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①自分の分担の作業について、②順番を考え、効率よくできるよう③工夫することができる。（中学部「木工作業」）

教科別の指導の評価規準「② 学習活動において期待する思考」と各教科等を合わせた指導の目標「② 学習活動で見られる思考」の部分の表記については、総合的な学習の時間の「考えるための技法」で整理した以下の表を参考にしてください。



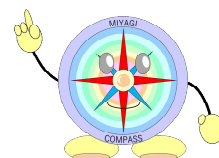
○「② 学習活動において期待する思考」，「② 学習活動で見られる思考」の表記例

考えるための技法		表記例
順序付ける	複数の対象について，ある視点や条件に沿って対象を並び替える。	- 並べて - 順番に並べて - 並び替えて
比較する	複数の対象について，ある視点から共通点や相違点を明らかにする。	- 比べて - 比較して - 違いに気付いて 〇〇を比べながら - 同じところを見つけて - 順番を考えながら
分類する	複数の対象について，ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。	- 特徴でまとめながら - 違いで分けて
関連付ける	- 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。 - ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。	〇〇を例えて - 知っていることで表しながら - 関係付けて - 関係を見付けて - 関連付けながら - 置き換えて - 見立てて
多面的に見る・多角的に見る	対象のもつ複数の性質に着目したり，対象を異なる複数の角度から捉えたりする。	〇〇に着目して 〇〇を見付けて 〇〇を思い起こして 〇〇を感じて 〇〇を気にしながら 〇〇を意識しながら - 見方を変えて - 考え方を変えて - 多角的に考えて
理由付ける (原因や根拠を見付ける)	対象の理由や原因，根拠を見付けたり予想したりする。	〇〇を見付けて - 原因を予想して - 原因を見付けながら

見通す (結果を予想する)	・ 見通しを立てる。物事の結果を予想する。	・ ○○を見通して ・ ○○を思い描きながら ・ ○○を予想しながら ・ ○○を振り返って
具体化する (個別化する, 分解する)	・ 対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり, 対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。	・ 試しながら ・ 実際に確かめながら ・ 調べてやってみたりして ・ 練習しながら ・ 例を示して
抽象化する (一般化する, 統合する)	・ 対象に関する上位概念や法則を挙げたり, 複数の対象を一つにまとめたりする。	・ 考えを知って ・ 考えをまとめて
構造化する	・ 考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。	・ 考えを整理して ・ 工夫して ・ ○○を生かしながら ・ ○○を見直ししながら ・ 問いを見出だして

※ 「考えるための技法」は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編に記載されています（中学校も同様、高等学校は総合的な探究の時間で記載）。「みやぎ授業づくりガイド」ではp. 2-37で触れています。

表記の例を参考に学習活動中の思考（上記）を考え、さらに、どのような姿が見られたらよいのか（下記の例）を考えます。授業改善の視点（p. 2-32～p. 2-34）も活用しながら設定してみてください。



○ 教科別の指導の評価規準「③ 『思考・判断・表現』している姿」と各教科等を合わせた指導の目標「③ 児童生徒に身に付けてほしい『思考力、判断力、表現力等』」の表記例

教科別の指導の評価規準 ③ 「思考・判断・表現」している姿			各教科等を合わせた指導の目標 ③ 児童生徒に身に付けてほしい 「思考力、判断力、表現力等」		
行おうとしている	表している	知らせている	行おうとする	表すことができる	知らせることができる
考えている	表現している	利用している	考える	表現することができる	利用することができる
伝えている	集めている	伝え合っている	伝えることができる	集めることができる	伝え合うことができる
観察している	楽しんでいる	計画を立てている	観察することができる	楽しむことができる	計画を立てることができる
関わっている	遊んでいる	工夫している	関わるることができる	遊ぶことができる	工夫することができる
記録している	交流している	(力を)身に付けている	記録することができる	交流することができる	(力を)身に付けることができる
方法を決めている	捉えている		方法を決めることができる	捉えることができる	

〔参考〕小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、学習評価に関する参考資料、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」)

目標及び評価規準の設定ポイント

㊤ 学びに向かう力，人間性等 ㊤ 主体的に学習に取り組む態度

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	→ 主体的に 学習に取り組む 態度	① 学習活動，学習場面，学習状況など ② 主体的に学習に取り組む態度の具体（「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」） ③ 児童生徒の行為（具体的な児童の姿）

評価規準設定例（主体的に学習に取り組む態度）

- 図画工作 ①貼り絵の活動において，紙をちぎる，貼るなどの活動を②教師のやり方を模倣しながら，
③笑顔を見せて取り組もうとしている。（小学部 1段階）
- 体育 ①シュートゲームの学習において，③順番を守ってボールを②進んで，③投げようとしている。
（小学部 3段階Eボールを使った運動やゲームウ）
- 理科 ①昆虫の育て方の学習において，ザリガニの餌やりや水槽の水替えを②友達と力を合わせて行
い，③学習後もザリガニの世話をしようとしている。（中学部 1段階A生命）

各教科等を合わせた指導

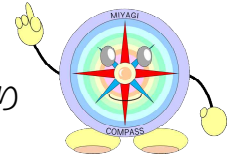
目標の内容に取り入れるポイント	→	評価規準の設定
① 学習活動，学習場面，学習状況など ② 児童生徒に身に付けてほしい「 <u>学びに向かう力，人間性等</u> 」（・「自分自身に関すること，他者や社会との関わりに関すること」，・「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」） （～しようとする。親しむ。豊かにする。等）		設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

目標設定例（学びに向かう力，人間性等）

- 日常生活の指導 ①朝の会に参加することを通し，②一日への希望を持つとともに，②友達と仲良く活動しようとする。（小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において，②友達と一緒に遊ぶことのよさを感じながら，②興味を持って遊ぼうとする。（小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ①進級についての学習を通し，②新しい友達や先生と一緒に生活することのよさを感じながら，②生活しようとする。（小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①木工の作業を通し，②自分が得意なことを知り，これからの生活に希望を持つとともに，②自ら進んで取り組もうとする。（中学部「木工作業」）

教科別の指導の評価規準「②主体的に学習に取り組む態度の具体」と各教科等を合わせた指導の目標「②児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」を設定するときに押さえない「粘り強さ」「学習の調整」「実感や自信」について

- 「粘り強さ」……思いや願いの実現に向かおうとしていること
- 「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること
- 「実感や自信」…意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしようとしたりすることを繰り返し、安定的に行おうとしていること



なお、「実感や自信」は、「学習評価に関する参考資料」において小学校生活科の「学びに向かう力、人間性等」を評価するに当たって踏まえる必要があるとされています。

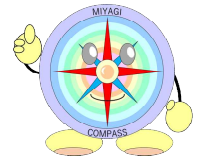
実際の生活に即した学びを行うことの多い特別支援学校（知的障害）、特別支援学級（知的障害）でも同様に考えていくことにします。以下の表を参考にしてください。

○「② 主体的に学習に取り組む態度の具体」と「② 児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」の表記例

粘り強さ	- 二度、三度と繰り返して - 粘り強く繰り返して - 見通しを持って - 目標に向かって - 手順どおりに行って - 計画を確実にやって - 進んで - 友達のしている方に視線を向けて	- 進んで取り組んで - 体で表して - 考えをはっきりと伝えて - 教師と関わりながら - 友達と関わりながら - 様々な人と関わりながら - 自分のよさを生かして
学習の調整	- 気持ちを落ち着けて - 教師の話を聞いて - 自分と友達それぞれのよさを生かして - 友達の話を聞いて - 友達の思いを理解して - 友達の考えを理解して - 教師の支援を受け入れて - 友達の考えを受け入れて - 友達と協力して	- 相手の立場を知って - 自分の考えと友達の考えのよさを生かして - 手本を模倣して - 教師のやり方を模倣して - 友達のやり方を模倣して - 違った考えを参考にして - 新しいことに挑戦して - 自分で考えたことを活用して
実感や自信	- 離席せず友達のいる学習の場において - いつも同じように〇〇しながら（して） - 友達と仲良くしながら	- 誰に対しても変わらず〇〇しながら（して） - 周囲の状況に影響されことなく〇〇しながら（して） - 目標や目的を意識して

〔参考〕学習評価に関する参考資料 小学校生活

知的障害のある児童生徒の実態を踏まえると、将来の自立に向けて「自分や他者、社会」について意識することが大切だと考えます。「学びに向かう力、人間性等」の目標を設定する際は、以下の目標設定要素を参考にしてみてください。



○「② 児童生徒に身に付けてほしい『学びに向かう力、人間性等』」の目標設定の要素

自分自身に関すること	・ 自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする。 ・ 自分の意思で、目標を持って課題の解決に向けて取り組もうとする。 ・ 自己の生き方を考え、夢や希望などを持とうとする。
他者や社会との関わりに関する こと	・ 異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。 ・ 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けて取り組もうとする。 ・ 進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする。

学年 組 教科等：
学級

目標・評価規準
設定シート

単元（題材）名

時間扱い

期 間

～

場 所

児童生徒の 実態	
目 標 ※ 年間指導 計画の目標 から児童生 徒の実態に 応じて、適 宜修正	〔知識及び技能〕 〔思考力、判断力、表現力等〕 「学びに向かう力、人間性等」
扱う教科の 内容	
評価規準	（知識・技能） （思考・判断・表現） （主体的に学習に取り組む態度）

学年 組 教科等：
学級

単元構想シート

単元（題材）名

時間扱い

期 間

～

場 所

〔知識及び技能〕

目 標

〔思考力、判断力、表現力等〕

「学びに向かう力、人間性等」

メインの
学習活動

おおまかな活動の流れ

主な手立て

扱う教科の
内容

（知識・技能）

評価
規準

（思考・判断・表現）

（主体的に学習に取り組む態度）

○学部 ○年○組（○○学校，○○学級） ○○○ 略案

略案シート

日 時 令和○年○月○日 0:00~0:00

場 所 ○学部○年○組 教室

指導者 ○○ ○○（T1）

○○ ○○（T2）

第1章

第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

単元（題材）名	○時間目／○時間扱い		
本時の 目標			
扱う教科の 内容			
段階	学習活動	指導上の留意点	備考（準備物等）
導入 ○分			
展開 ○分			
終結 ○分			
本時の 評価規準			

「育成を目指す資質・能力」を踏まえた

授業づくりチェックシート

授業づくりについて、Stepごとにチェックしてみましょう。

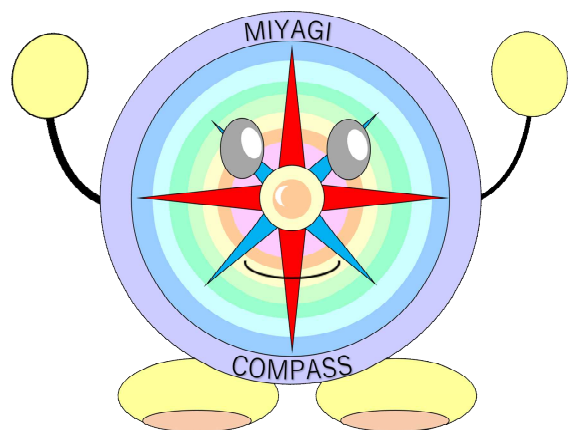
日 付		
学年（学年部）		
単元（題材）名		
チェック項目		チェック
Step 0 事前に確認する		
①	年間指導計画を基に、扱う教科の目標及び内容を確認している。	
Step 1 実態を把握する		
②	個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。	
③	単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心，発達段階，生活経験を的確に捉えている。	
Step 2 単元の構想を練る		
④	学習指導要領の目標及び内容から、単元（題材）を通して、身に付けさせたい「育成を目指す資質・能力」を具体的に考えている。	
⑤	単元（題材）を通して、「育成を目指す資質・能力」に対する到達点を具体的に押さえた評価規準を作成している。	
⑥	扱う教科の目標及び内容を踏まえ、単元計画と指導内容を考えている。	
Step 3 1 単位時間の構想を練る		
⑦	個別の実態は、できること・できそうなことに注目し、時間ごとの指導につながる観点で具体的に押さえている。	
⑧	個別の目標は、どのような力を身に付けさせたいかが分かるよう具体的になっている。	
⑨	個別の目標を達成するための具体的な手立てを考えている。	
Step 4 授業を実践する		
⑩	「育成を目指す資質・能力」が身に付くかどうかを、常に意識しながら授業を行っている。	
⑪	知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導を行っている。	
⑫	発問が吟味されており、教師の動きやT・T間の役割等が決まっている。	
Step 5 授業を振り返る		
⑬	児童生徒一人一人の個別の目標を達成している。	
⑭	「主体的・対話的で深い学び」の視点から、指導目標や指導方法の設定などの授業づくりを行い、その結果を授業改善に結び付けている。	

第 3 章

④んみしよう！

明日からの授業

(資料編)

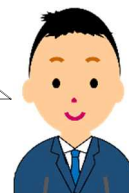


1 学習指導案をつくってみよう



学習指導案をつくらうと思うのですが、特別支援学校、特別支援学級の学習指導案の特徴について知りたいので、教えてください。

特別支援学校、特別支援学級の学習指導案は、一人一人の児童生徒の実態から始まり、一人一人の児童生徒の個別目標や支援が、具体的に分かりやすく記載されます。また、T・Tの連携の方法なども示されますよ。



○ 小・中学校等との学習指導案の違い

	特別支援学校、特別支援学級の 学習指導案	小・中学校の通常の学級の 学習指導案
児童生徒への働き掛け	- 児童生徒全体だけでなく、<u>一人一人の児童生徒</u>への指導や支援も記入する。 <u>一人一人の児童生徒</u>の個別の目標の達成に近づくための、必要な指導や支援を記述する。	- 主に児童生徒全体への指導や支援を記入する。 - 習熟状況に合わせ、その段階ごとの児童生徒の学習を促進させる手立てを記入する。 - 評価規準の項目に、努力を要する状況(C)の児童生徒への手立てを記述することがある。
単元（題材）について	- 始めに「<u>児童生徒観</u>」から書き始める。 ① <u>児童生徒観</u> ② 単元（題材）観 ③ 指導観 「個別の指導計画」に留意しながら、<u>児童生徒観→単元（題材）観→指導観</u>の順に書く（「〇〇な児童生徒だから、△△な内容を、□□のような指導や支援で」と書くことで指導が具体化される）。	- 始めに「<u>単元（題材）観</u>」から書き始める。 ① <u>単元（題材）観</u> ② 児童生徒観 ③ 指導観 - 学年（生活年齢）に応じた指導計画に基づく授業を行うので、単元（題材）観から書き始める。
目標・評価	- 児童生徒の集団全体だけでなく、<u>一人一人の児童生徒</u>の目標・評価も細かく記述する。 - ただし、<u>自立活動</u>においては、三つの柱から整理されていないため、個別の指導計画に基づき、<u>6区分27項目</u>との関連を押さえて記述する。	主に児童生徒の集団全体の目標・評価を記述する。



特別支援学校、特別支援学級では、学習指導案の形式や盛り込む内容などに細かな工夫や配慮が示してあるので、分かりやすいですね。



学習指導案には、略案と細案がありますよね。その違いについて詳しく教えてください。

略案は、授業の大まかな流れを押さえる設計図です。

細案は、授業全体が構造化されている緻密な設計図です。

学習指導案の略案・細案共に、基本的には決まった様式はありません。ただし、各市町村や各学校などで様式が決められていたり、初任者研修等で示されたりする場合があるので、参考にしてみるとよいですよ。

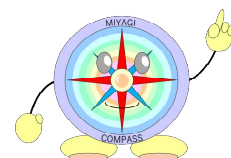


○学習指導案の形式の違い

	特 徴	活用場面（例）
略案	- 細案の「本時の計画」の項目（本時のねらい、本時の指導過程など）のみ明記している。 - TⅠ（授業を中心に考える教師）が基本的に作成し、T・T間で授業の共通理解を図ることができる。 - A4版1枚程度でまとめることが多い。	- 本時の授業の構成を考えるとき。 - 本時の指導記録を累積するとき。 - 本時の授業改善等に役立てるとき。 - 授業研究会などで、授業者の意図を分かりやすく示すとき。 - 参観日等で、保護者に授業を見てもらうとき。
細案	単元（題材）名、単元（題材）設定の理由、単元（題材）の目標、単元（題材）の指導計画、評価規準、本時の指導など、一単元全ての項目について、詳細に明記している。	- 児童生徒や単元（題材）、授業の捉え方、考え方をまとめ、授業研究会等で授業を提供するとき。 - 単元（題材）全体の授業改善等に役立てるとき。 - 校内研究や研修会、学校訪問指導などで関係者から授業に対する助言を得るとき。

略案づくりのポイントは、児童生徒の実態を的確に把握し、授業のねらいを明確にすることです。「できるようになって欲しいことは？」「どうすれば、みんなで楽しく活動できるかな？」というような、児童生徒への思いやアイデアを形にしましょう。

細案を書くと、目の前にいる児童生徒のことをじっくり丁寧に考えながら授業づくりをすることができるので、児童生徒のより良い成長と教員の専門性向上が期待できます。



日々の授業づくりと同様に学習指導案づくりでも、児童生徒の実態を踏まえることが、大切なポイントなのですね。



学習指導案づくりを始めるに当たって、参考にできる資料等は何かありませんか？

学習指導案の項目に沿って、学習指導案づくりに必要な視点をまとめた「**学習指導案づくりの20の視点**」（p. 3-4）がありますよ。
学習指導案を作成していて、確認したいことや自信のない部分が出てきたときに、必要なところを活用してみてください。また、学習指導案をより良くしたいときの視点としても活用できますよ。



「**学習指導案づくりの20の視点**」（p. 3-4）があれば、各視点をチェックしながら、学習指導案づくりができますね。慣れるまでは、いつでも見られるように、手元に置いておこうと思います。

他には、

学習指導案例（教科別の指導「算数科」） → p. 3-5～p. 3-10

学習指導案例（各教科等を合わせた指導「生活単元学習」） → p. 3-11～p. 3-18

学習指導案様式例（教科別の指導）【解説ナビ】 → p. 3-19～p. 3-21

学習指導案様式例（各教科等を合わせた指導）【解説ナビ】 → p. 3-22～p. 3-24

があるので、参考にしてみてください。

ただし、これらの例に、授業づくりのStepを全て盛り込んではいません。Stepで授業づくりをしますが、そこから必要なことを学習指導案に表していきます。



学習指導案様式例【解説ナビ】を参考に学習指導案をつくってみようと思います。学習指導案様式例は、どこでダウンロードできますか？

学習指導案様式例（教科別の指導）

学習指導案様式例（各教科等を合わせた指導）

は、宮城県総合教育センターのホームページからダウンロードできますよ。



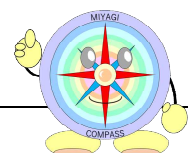
宮城県総合教育センター

<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/>



ありがとうございました。
早速、学習指導案づくりを頑張ってみたいと思います。

学習指導案づくりの20の視点



学習指導案の項目	視点の内容
単元（題材）名	視点① 活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。
単元（題材）設定の理由	
・児童（生徒）観	視点② 個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。 視点③ 単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心、発達段階、生活経験を分かりやすく書いている。
・単元（題材）観	視点④ 単元（題材）を通して、児童生徒に <u>どのような力を身に付けさせたいか</u> に着目している。 視点⑤ <u>学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。</u>
・指導観	視点⑥ 児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。 例：単元構成の工夫、教材・教具の工夫、学習形態の工夫、評価方法の工夫
単元（題材）の目標 単元（題材）の個別の目標	視点⑦ <u>「育成を目指す資質・能力」</u> が明確である。
単元（題材）の評価規準 単元（題材）の個別の評価規準	視点⑧ <u>「育成を目指す資質・能力」</u> に対する到達状況が具体的である。
単元（題材）の指導と 評価の計画・評価方法	視点⑨ 単元（題材）の目標を達成するための、評価の計画が明確に位置付けられている。 視点⑩ <u>扱う教科の内容</u> が明確に示されている。（主に各教科等を合わせた指導の場合）
本時の指導	
・本時の目標	視点⑪ 「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。
・本時の指導に当たって	（ 視点⑥ 児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。）
・本時における個別の実態と 目標及び評価規準	視点⑫ 個別の実態は、できること・できそうなことに注目し、本時の指導につながる観点で具体的である。 視点⑬ 個別の目標は、 <u>どのような力を身に付けさせたいか</u> が具体的である。 視点⑭ 個別の目標を達成するための手立てが具体的である。
・指導過程	視点⑮ 教師の動きやT・T間の役割が明確である。 視点⑯ 授業全体の流れが分かり、中心的な学習活動が明確である。 視点⑰ <u>「育成を目指す資質・能力」</u> が身に付くために、 <u>「主体的・対話的で深い学び」</u> の視点で指導や支援を考えている。
・本時の評価	視点⑱ 「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。
・準備物	視点⑲ 教材・教具の工夫や使い方が具体的である。
・場の設定	視点⑳ 図や写真を用いて、イメージしやすいように示されている。

※学習指導案の様式に合わせて、必要に応じてご活用ください。

学習指導案例（教科別の指導）

知的障害学級 1年1組 算数科 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日〇:〇〇~〇:〇〇

場 所 〇〇学級教室

指導者 〇〇 〇〇

1 単元名「かぞえめいじんになろう」（さんすう☆☆(1) 文部科学省）

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態〔1年1組・3名〕

本学級は、1年生の3名で構成されている。集中できる時間は限られているが、興味のある学習には基本的に座って参加できる。A児はダウン症で、発語があり、友達と関わるのが好きである。B児は、明確な発語はないが、担任の二語文程度の簡単な指示は理解できている。C児は、主たる障害が知的障害でASDも有しており、少々多動な面が見られる。

算数科に関する実態としては、A児とB児は、具体物を3まで数えられるが、集合数の理解が難しい。また、感覚的に「多少（大小）」の判別ができるが、数の比較は難しい（2段階）。C児は、具体物を20までであれば、ものの数を数え間違えずに手際よく数えたり比べたりできる（3段階）。

(2) 単元観

本単元は、学習指導要領「A数と計算」の、以下の目標・内容を受けて設定している。

A数と計算 2段階 目標

ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。

A数と計算 2段階 内容

ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

〔知識及び技能〕

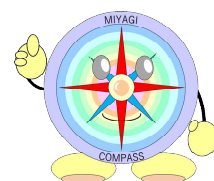
(ア) ⑥ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(イ) ⑦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。

本単元では、10までの数の数え方や表し方などについて学習する。児童はこれまで、5までの一対一対応の簡単な学習を行ってきた。これらの学習が、音などの見えないものを数えたり、縄跳びを跳ぶ回数（動き）を数えたりする学習につながっていく。

これらを受け、本単元では、10までの数を数える活動を通して、身の回りのものを数えたり操作したりする等、日常生活で活用しようとする態度を育てることができる単元である。

学習指導案づくりの
20の視点

- ①活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。
- ②個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。
- ③単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心、発達段階、生活経験を分かりやすく書いている。
- ④単元（題材）を通して、児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかに着目している。
- ⑤学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。

(3) 指導観

指導に当たっては、実際の生活場面に即した課題として、学級での当番活動である給食の牛乳を配る場面を想定した。導入場面では、単元のゴールを最初に示し、主体的に学習に参加できるようにする。また、単位時間ごとにゴールを確認し、目的意識を常に持たせるようにしたい。数を数える活動では、実物を用いて互いの数える様子を見たり、教師が媒介しながら一緒に確認したりするなど、児童同士の学び合いを促し、数唱や集合数の理解を深めたい。また、その日の頑張りやできたことを、「数え名人カード」にシールを貼って賞賛し、児童の自信や主体的に取り組む意欲を高めたい。最後の振り返りでは、学習した内容を発表することにより、自分の取組を想起し、それに伴う気持ちを表現する力を養うことで、数量への関心につなげたい。さらに、10まで数えられるようになったことを家でもやってみようとするなど、日常生活に生かすことができるのではないかと考え、本単元を設定した。

3 単元の見標

(1) ものの集まりや数詞と対立した数字の意味が理解できる。

〔知識及び技能〕

(2) 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) ものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
牛乳やストローの集まり、それぞれの数詞と対立した数字が分かっている。 (Aア(ア)㊦)	牛乳とストローの関係において、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活の場面に応じて考えている。 (Aア(イ)㊦)	牛乳やストローを数える活動において、ものの集まりや数詞に関心を持ち、生活や学習に活用しようとしている。

(2) 単元の指導計画（7時間扱い 本時1／7）

時 間	主たる学習活動	評価規準			評価方法
		知・技	思・判・表	主	
1 時	・牛乳を数える（5まで） ・既習事項の振り返り（3まで）	・			行動観察
2	・牛乳とストローを数える（5まで）	・	・		行動観察 発表
3	・牛乳とストローを数える（5まで）	○	○		行動観察 発表
4	・牛乳にストローを組にして置く				
5	・牛乳とストローを数える（10まで）	○		・	行動観察 発表
6	・牛乳にストローを組にして置く				

㊦児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

㊦「育成を目指す資質・能力」が明確である。

㊦「育成を目指す資質・能力」に対する到達点が具体的である。

㊦単元（題材）の目標を達成するための、評価の計画が明確に位置付けられている。

7	・実際の給食準備の場面を利用して、牛乳にストローを組にして置く	・	○	○	行動観察 発表
---	---------------------------------	---	---	---	------------

※ ○：記録に残す評価 ・：指導に生かす評価

5 単元の個別の目標

	知識及び技能	思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
A 児	5までのものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	5までの数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	5までのものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。
B 児	5までのものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	5まで数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	5までのものの集まりや数詞に関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方のよさを感じながら、興味を持って学ぼうとする。
C 児	数える対象を5ずつのまとまりで数えることができる。	5ずつの数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。	5ずつの数のまとまりに関心を持ち、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方の良さを感じながら、興味を持って学ぼうとする。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・5までのものの集まりと数詞を対応して数えることができる。

〔知識及び技能〕

(2) 本時の指導に当たって

本時の指導に当たっては、以下の点を工夫しながら進めていく。

- ・実際の生活場面に即した課題の提示
- ・導入での既習事項の確認
- ・具体物を使用した学習活動
- ・ICTの活用（学習課題の拡大提示、振り返りの映像）

⑪「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

(3) 児童の実態と個別の目標及び評価規準

	児童の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A 児	・一対一対応を覚え始め、3までの数であれば、正しく数えることができる。	・5個までの牛乳を数唱しながら数えることができる。	・教師と一緒に、指さしをしながら数えることを繰り返す。	・一対一対応をしながら、5個までの牛乳を数えている。
B 児	・3までのマッティングはできているが、それ以上を数えることは難しい。 ・友達と関わることでより教師との関わりを好む。	・教師が数える言葉に合わせて、指さししながら5個までの牛乳を数えることができる。	・牛乳をかごに入れる（数える）ときは、一人で行うよう促す。 ・かごに入った牛乳を数えるときは、教師と一緒に指さしをして行う。	・4と5を数えるときも、指がずれずに数えている。
C 児	・20までのものの数を正しく数えることができる。 ・具体物が変わっても、正確に数えることができる。	・10を5と5のまとまりとして捉えることができる。	・5のまとまりに気附かせるために、かごに入った牛乳を5個ずつに分け、並列に並べるようにする。 ・解決する場面で、最初に行わせ、復習や個別の課題に取り組むことができるようにする。	・5のまとまりを作り、数詞と対応している。

(4) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問 ・指示 ◆予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
導入 10分	1 始めの挨拶をする。 2 本単元の学習内容を知る。 ・動画を見ます。 ◆静かに見ている。 ◆早くやりたくてウズウズしている。	日直に注目するよう促す。 今まで給食の手伝いをしてくれた6年生からのメッセージ動画を使用し、本単元の課題を提示する。 A児の学習に取り組むたい気持ちに共感し、意欲を高める。	

⑫個別の実態は、できるところ・できそうなことに注目し、本時の指導につながる観点で具体的である。

⑬個別の目標は、どのような力を身に付けさせたかが具体的である。

⑭個別の目標を達成するための手立てが具体的である。

⑮教師の動きやT・T間の役割が明確である。

	3 既習事項を振り返る。 ・ 3までのものを数えます。 ◆指さしに合わせて数を数える。 ◆B児は、発語はないが、指さしをして数える。 4 本時のめあてを知る。 ぎゅうにゅうをかぞえよう。 ・ 今日のめあてを読みます。 ◆みんなで一緒に声を出して読む。	みんなが注目できるように、課題を拡大提示する。 指さしをする児童（B児）と数唱をする児童（A児とC児）で協力しながら数えることで、児童同士の学び合いを促す。 クラスの人数である5人分を配る課題を提示する（児童3人、担任、支援員分）。 みんなの声に合わせて指さしするようB児を支援する。		⑩授業全体の流れが分かり、中心的な学習活動が明確である。
展開 20分	5 牛乳を数える。 ・ 4個の牛乳を数えます。 ①4の数を知る。 ②指さしで数える。 ③4個の牛乳をトレイに置く ◆C児のまねをして、数えることができる。 ・ 5個の牛乳を数えます。 ①5の数を知る。 ②指さしで数える。 ③5個の牛乳をトレイに置く ◆指さしがずれる。	最初に、C児にやって見せるよう促す。 牛乳が置きやすいようトレイに線と10までの数字を書いておく。その際、2列に分けて線を引き、5のまとまりが意識できるようにする。また、提示する以外の数字は隠しておく。 C児には、かごに入っている牛乳を10個数えさせる。そして、トレイ2枚にそれぞれ5個ずつ置くよう促す。その後、牛乳を数えながら机の上に取り出させ、数える練習をさせる。C児が終了後、他の児童に数える練習をさせる。 指さしがずれた場合は、教師と一緒に確認をする。 活動の様子をタブレット端末で撮影し、振り返りで活用できるようにする。	・ 5個の牛乳を数え、ものの集まりと数詞が対応していることが分かっている。 〔知・技〕	⑪「<u>育成を目指す資質・能力</u>」が身に付くために、「<u>主体的・対話的で深い学び</u>」の視点で指導や支援を考えている。
終結	6 本時の学習を振り返る。 ・ 風船の数を数えます。 ◆牛乳と同じように風船を数える。	みんなが注目できるように、課題を拡大提示する。 「数え名人カード」にシールを貼って賞賛する。		

10分	7 今日の頑張りを共有する。 ○自分や友達の頑張ったことやできたことを発表しよう。 ◆映像を見ながら、友達の頑張りを賞賛する。 8 次時の学習を知る。 ○次回は、牛乳とストローを数えます。 9 終わりの挨拶をする。	ICTを活用して、友達の頑張りを互いに見合う。 自分から話せそうにならない場合は、教師のインタビュー形式で児童の思いを引き出す。 B児へは、絵カードを用いて、自分の思いを発表できるよう支援する。 牛乳とストローの実物を見せながら説明をする。 日直に注目するよう促す。 (給食時の牛乳を数える様子を動画に記録し、次時の導入で生かすようにする。)	
-----	--	--	--

⑱教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

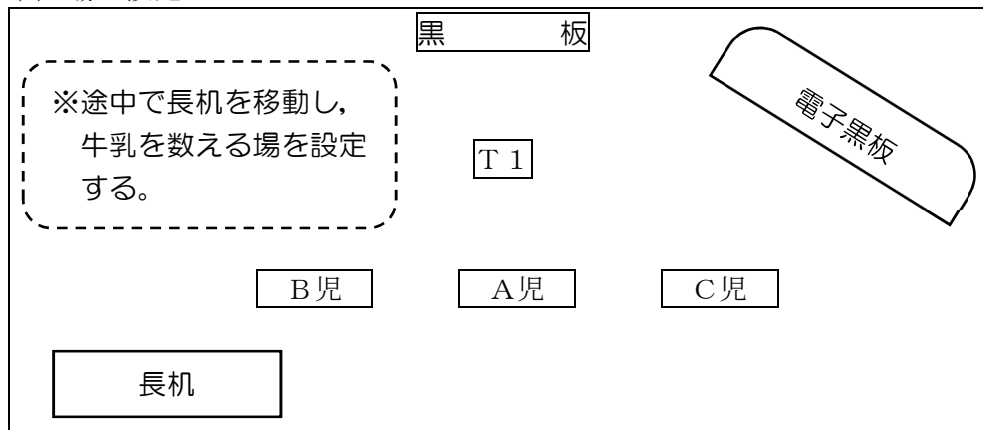
(5) 本時の評価規準

- ・5個の牛乳を数え、ものの集まりと数詞が対応していることが分かっている。(知識・技能)

(6) 準備物

- ・教師：牛乳（空）、ストロー、トレイ、数字カード、シール、電子黒板、タブレット端末
- ・児童：給食着、数え名人カード、絵カード

(7) 場の設定



⑱「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。

⑲教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

⑳図や写真を用いて、イメージしやすいように示されている。

学習指導案例（各教科等を合わせた指導）

小学部 4年1組 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日〇：〇〇～〇：〇〇

場 所 小学部4年1組 教室

指導者 〇〇 〇〇（T1）

〇〇 〇〇（T2）

1 単元名「目指せ！お買い物達人！」

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態〔4年1組・4名〕

本学級は、4年生の4名で構成されている。3名がASDを有しており、日常的なことをいろいろと話せる児童がいる一方、自発的な発語の少ない児童もあり、コミュニケーションや認知等の発達の状況は多様である。

金銭に関する実態としては、ほとんどの児童が、同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。しかし、指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせて用意することや、提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意することなどが課題である。

児童はこれまでの学習の中で、近くのコンビニエンスストアで好きなジュースやお菓子を買う経験をしてきた。買い物をする活動には、大変意欲的に取り組むことができ、お金を大切に扱う態度も身に付いてきている。家庭で買い物をする際の様子を保護者に聞いてみると、スーパーマーケットでの買い物については、一人でレジに並んで店員とやり取りをしながら支払いができる児童がいる一方、一人での買い物は難しいが、保護者が付き添えばかいものができる児童もいるため、児童がスーパーマーケットでの買い物に自信を持って取り組めるよう、経験を積み重ねる必要がある。

(2) 単元観

本単元は、児童にとって身近な活動である買い物について学習するに当たり、特別支援学校小学部学習指導要領の生活、算数、国語の、以下の内容を受けて設定している。

小学部 生活 2段階 内容

〔知識及び技能〕

キ 手伝い・仕事(イ)簡単な手伝いや仕事について知ること。

ク 金銭の扱い(イ)金銭の扱い方などを知ること。

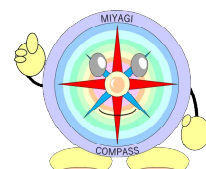
〔思考力、判断力、表現力等〕

ク 金銭の扱い(ア)身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。

小学部 算数 2段階 内容

〔知識及び技能〕

A 数と計算 ア(ア)㊦ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。

学習指導案づくりの
20の視点

①活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。

②個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。

③単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心、発達段階、生活経験を分かりやすく書いている。

④単元（題材）を通して、児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかに着目している。

⑤学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 数と計算 ア(イ)⑦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすこと。

小学部 国語 2段階 内容

〔知識及び技能〕

ア 言葉の特徴や使い方(イ)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 聞くこと・話すこと イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。

買い物をするためには、商品名を読んだり、店員とのやり取りをしたりする必要がある（国語）。また、支払いの際には、お金の計算（算数）や金銭の扱い（生活）も大切になる。特に、家族に頼まれたものを買う（生活）ということへの、児童の興味・関心は高い。金銭を用いた買い物は、児童の将来の社会参加と自立的な生活を考えた上でも、重要度の高い活動であると考えられる。

そこで、本単元では、①金銭を扱うこと、②家族に頼まれたものを選んで購入すること、③店員とのやり取りの仕方などの学習を行うこと、を設定し、自分の力で買い物ができることを目指していきたい。

(3) 指導観

指導に当たって、「家族に頼まれたものを買う物に行く」という活動を取り入れることで、自分で買い物ができた達成感と自己有用感を味わえるようにしたい。児童全員が見通しを持ちながら活動に参加できるように、ICT機器を活用し、写真を見たり手順をフラッシュカードで確認したりする。また、教師が見本となる行動を実際にやって見せることで、活動のイメージ化を図る。さらに、実際にスーパーマーケットへ行く前に、教室をスーパーマーケットに見立てて模擬買い物学習を体験させ、自信を持って買い物ができるようにしたい。そして、今後予定されている校外学習やお楽しみ会での買い物学習に生かしたい。これらの学習を通して、児童が様々な生活場面においても、自信を持って主体的に活動に取り組めるようになることを期待している。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

3 単元の目標

(1) 買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができる。

〔知識及び技能〕

(2) 店員と買い物に必要なやり取りをすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 買い物を通して、人と関わることのよさに気づき、手順に沿って、自分なりの方法で買い物をしようとする。

「学びに向かう力、人間性等」

⑦「育成を目指す資質・能力」が明確である。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をしている。	店員と買い物に必要なやり取りをしている。	手順に沿って、自分なりの方法で買い物をしようとしている。

※扱う教科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（生活）金銭の扱い方などを理解している。 （算数）複数の硬貨を組み合わせて、金額を用意している。 （国語）平仮名で書かれている商品名を読んでいる。	（生活）金銭の大切さや必要性について気付いている。 （国語）簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をしている。	（生活）教師に支援を求めながら買い物をしようとしている。 （算数）金銭の価値に親しみ、買い物に必要な金銭処理をしようとしている。

5 単元の指導計画（10 時間扱い 本時 4 / 10）

次	小単元名	時数	学習活動	扱う教科の内容
1	お買い物の計画を立てよう！	3	・買い物の目的を知る。 ・買い物に必要な学習を行う。	生活 キ手伝い・仕事 生活 ク金銭の扱い 算数 A数と計算
2	教室スーパーでお買い物チャレンジ！	4 (本時4/4)	・仮想のお店で、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習を行う。	生活 キ手伝い・仕事 生活 ク金銭の扱い 国語 A聞くこと・話すこと 国語 ア言葉の特徴や使い方 算数 A数と計算
3	レッツお買い物！	2	・実際のスーパーマーケットに行き、買い物をする。	生活 キ手伝い・仕事 生活 ク金銭の扱い 国語 A聞くこと・話すこと 算数 A数と計算
4	お買い物達人になるために！	1	・前時の買い物学習を振り返る。	生活 ク金銭の扱い 国語 A聞くこと・話すこと

6 単元の個別の目標

	単元の個別の目標	扱う教科の実態
D 児	買い物の流れが分かり、レジで店員とやり取りをしながら、自分一人で買い物をすることができる。	生活 3段階 ク 金銭の扱い 国語 2段階 A 聞くこと・話すこと 国語 2段階 ア 言葉の特徴や使い方 算数 3段階 A 数と計算
E 児	買い物の流れが分かり、レジで店員とやり取りをしながら、少ない支援で買い物をすることができる。	生活 3段階 ク 金銭の扱い 国語 2段階 A 聞くこと・話すこと 国語 2段階 ア 言葉の特徴や使い方 算数 2段階 A 数と計算

⑧「育成を目指す資質・能力」に対する到達点が具体的である。

⑩扱う教科の内容が明確に示されている。

⑩扱う教科の内容が明確に示されている。

F 児	買い物に必要な店員とのやり取りを覚え、教師と一緒に買い物をすることができる。	生活 2段階 ク 金銭の扱い 国語 2段階 A 聞くこと・話すこと 国語 2段階 ア 言葉の特徴や使い方 算数 2段階 A 数と計算
G 児	買い物の見通しを持ち、教師の支援を受け入れながら、教師と一緒に買い物をすることができる。	生活 1段階 ク 金銭の扱い 国語 2段階 A 聞くこと・話すこと 国語 2段階 ア 言葉の特徴や使い方 算数 1段階 A 数と計算

7 本時の計画

(1) 小単元名「教室スーパーでお買い物チャレンジ！」

①活動がイメージしやすく、主体的に取り組みたくなる表現である。

(2) 本時の目標

・決められた品物を選び、必要な金額を用意して買い物をすることができる。

〔知識及び技能〕

・店員役とお客役に分かれ、買い物のやり取りをすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

⑪「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。

(3) 本時の指導に当たって

次時のスーパーマーケットへ買い物学習に行く前に、教室をスーパーマーケットに見立てて模擬買い物学習を繰り返し体験させることで、自信を持って買い物ができるようにしたい。

本時では、レジ打ちの際にタブレット端末のアプリケーションを活用する。このアプリケーションはレジ打ちの機能を実際のお金とお金の画像をマッチングしながら実行できるため、支払いの仕組みや金種の理解を促すとともに、実際の買い物場面を想起しやすく、買い物遊びそのものを楽しみやすい。

学習のまとめとして、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習を行い、値段を見て同じ金額を出す活動や児童同士で金額が合っているかを確認合う活動を取り入れていく。その際、実際の硬貨を用意して行うことで、金銭を大切に扱うことについても学習していく。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

(4) 児童の実態と個別の目標及び評価

	児童の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
D 児	①慣れた店では、店員と言葉を交わしながらやり取りできるようになってきた。 ②買い物の手順が分かり、品物を買うことができる。	①レジで、店員役やお客役と言葉を交わしながらやり取りすることができる。 ②レジで、品物の値段に応じて支払いをすることができる。	①ペアで協力するよう声掛けをする。 ②不安な様子が見られたときは、写真の硬貨とマッチングするよう促す。	①自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りをしている。 ②ちょうどの額を一人で支払っている。

⑫個別の実態は、できること・できそうなことに注目し、本時の指導につながる観点で具体的である。

⑬個別の目標は、[どのよう](#)[な力を身に付けさせたいか](#)が具体的である。

⑭個別の目標を達成するための手立てが具体的である。

E 児	①練習では落ち着いてできるが、本番になると緊張して手順を抜かしたり間違えたりすることがある。 ②金種の弁別はできるが、何百円単位のお金を読むことが難しい。	①一つ一つの手順を丁寧に確認しながらやり取りすることができる。 ②レジで、品物の値段に応じた金額やおつりを用意することができる。	①手順表で次の行動を確認するように促す。 ②実物の硬貨を1枚ずつ写真と確認しながらマッチングするよう声を掛ける。	①次の行動を確認しながら、丁寧にやり取りしている。 ②写真の硬貨と実物をマッチングさせながら正しく支払いの用意をしている。
F 児	①品物を選ぶことはできるが、レジに並ぶことについては誘導が必要である。 ②身近な教師と簡単な日常会話をすることができる。	①品物を選んだ後に、自らレジに行くことができる。 ②レジで、店員役やお客役と身振りなどのやり取りをすることができる。	①手順表で次の行動を確認するように促す。 ②緊張や不安を感じて活動が停滞した際には、適宜説明し直したり、落ち着くよう声を掛けたりする。	①次の行動を確認しながら、自分からレジに行っている。 ②品物やお金の受け渡しの場面で、相手に視線を向けながら行っている。
G 児	①品物の近くまで行けば、品物に手を伸ばすことがある。 ②発語は少ないが、自分の要求を教師の手を取って伝えることができる。	①品物コーナーで、自分で品物を選ぶことができる。 ②教師と一緒に、レジでのやり取りをすることができる。	①選べないでいるときは、タブレット端末で選ぶ品物を手元で見せる。 ②教師がそばにしているようにし、適宜教師のまねをするよう促す。	①品物コーナーで、品物をよく見て、自分から手を伸ばしている。 ②品物の受け渡しの場面で、教師のまねをし、相手に対して発声したり頭を下げる仕草を見せたりしている。

(5) 指導過程（別紙1）

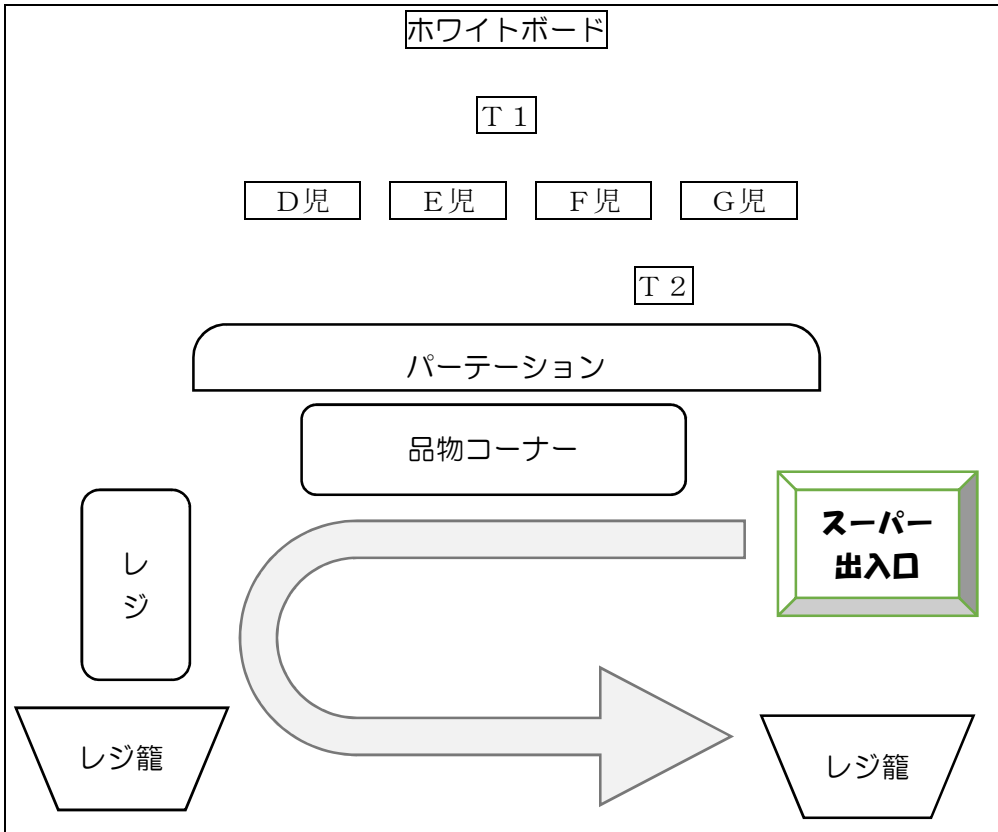
(6) 本時の評価規準

- ・決められた品物を選び，必要な金額を用意して買い物をしている。
(知識・技能)
- ・店員とお客役に分かれ，買い物の手順に応じたやり取りをしている。
(思考・判断・表現)

(7) 準備物

- ・教師：P C，プロジェクター，タブレット端末，学習カレンダー，
学習計画表，顔写真カード，硬貨，品物，レジ籠，店員エプロン，
レシート，バーコードリーダー，手順表，気持ちカード
- ・児童：財布，エコバッグ

(8) 場の設定



⑱「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。

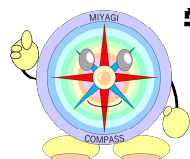
⑲教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

⑳図や写真を用いて，イメージしやすいように示されている。

(5) 指導過程 (別紙1) ※関連する主な教科：生活 キ手伝い・仕事、ク金銭の扱い、国語 A聞くこと・話すこと、ア言葉の特徴や使い方、算数 A数と計算

段階	学習活動	指導上の留意点 (・→児童の活動 ○→教師の働き掛け ☆→評価)				準備物
		D児	E児	F児	G児	
導入 5分	1 始めのあいさつ	○日直はみんなを注目させるよう促す。 ・日直が挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	○日直に注目するように促す (T2)。 ・日直の合図に合わせて挨拶をする。	
	2 本時の学習を知る 「教室スーパーでお買い物チャレンジ!」	・活動の流れを確認する。	・活動の流れを確認する。	・活動の流れを確認する。 ○学習計画表に着目させる (T2)。	・活動の流れを確認する。 ○学習計画表に着目させる (T2)。	学習カレンダー 学習計画表
展開 30分	3 お買い物チャレンジ ①動画や表を見て役割内容を確認する。 ②店員と客役を決める。 ③役割を交代する。	○買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。 ・店員の準備をする。	○買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。 ・店員の準備をする。	○動画に注目するように促す (T2)。 ・何を買うか確認する。	○動画に注目するように促す (T2)。 ・何を買うか確認する。	タブレット端末 プロジェクター 顔写真カード 品物 レジかご 硬貨 レシート バーコードリーダー 店員エプロン 手順表 エコバッグ
	〈店員A役〉 ①「いらっしゃいませ」を言う。 ②店員Bから受け取った商品と同じ画像を押す(タブレット端末)。 ③預かったお金を打ち込む(タブレット端末)。 ④おつりを用意する。 ⑤レシートとおつりを渡す。 ⑥「ありがとうございました」を言う。	〈店員A役〉 ○ペアで協力するよう声掛けをする。 ☆自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りすることができたか。	〈店員B役〉 ○適宜、手順表を見るよう促したり、活動をやり直しさせたりする。 ☆手順表で次の行動を確認しながら、丁寧にやり取りすることができたか。	〈お客役〉 ○商品を選んだ後に、手順表で次の行動を確認させる (T2)。 ☆手順表で次の行動を確認しながら、自分からレジに行くことができたか。	〈お客役〉 ○選べないでいるときは、タブレット端末で選ぶ品物を手元で見せる。(T2) ☆品物コーナーで、品物をよく見て、自分から手を伸ばす様子が見られたか。	
	〈店員B役〉 ①「いらっしゃいませ」を言う。 ②商品にバーコードリーダーを当て、一つずつ店員Aに渡す。 ③商品をエコバッグに入れて客に渡す。 ④「ありがとうございました」を言う。	・何を買うか確認する。 〈お客役〉 ○不安な様子が見られたときは、実物の硬貨と写真の硬貨をマッチングするよう促す (T2)。 ☆ちよほどの額を一人で支払うことができたか。	・何を買うか確認する。 〈お客役〉 ○実物の硬貨と写真の硬貨を1枚ずつ写真と確認しながらマッチングするよう声を掛ける (T2)。 ☆実物の硬貨と写真の硬貨をマッチングさせながら正しく用意することができたか。	・店員の準備をする。 〈店員A役〉 ○緊張や不安を感じて活動が停滞した際には、適宜、説明し直したり、落ち着くよう声を掛けたりする。 ☆品物やお金の受け渡しの場面で、相手に視線を向けながら行うことができたか。	・店員の準備をする。 〈店員B役〉 ○教師がそばにいるようにし、適宜、教師のまねをするよう促す。 ☆品物の受け渡しの場面で、教師のまねをして、相手に対して発声したり頭を下げる仕草を見せたりすることができたか。	
	〈お客役 (2名)〉 ①店に入り、レジかごを持つ。 ②商品を選んでかごに入れて、レジに出す。 ③お金を支払う。 ④商品とレシート、おつりを受け取る。 ⑤店を出る。					

終 結 10 分	4 本時の振り返り ①写真で学習を振り返る。 ②感想を発表する。 ③一人一人の頑張った点や良かった点を共有する。	○友達の頑張りににも気付けるよう働き掛ける。 ・自分の頑張ったことを発表する。 ○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。	○友達の頑張りににも気付けるよう働き掛ける。 ・自分の頑張ったことを発表する。 ○インタビュー形式で、発表を促す。 ○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。	○写真に注目するように促す（T2）。 ・自分の頑張ったことを発表する。 ○安心して発表できるよう、教師が近くで対応する（T2）。 ○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。	○写真に注目するように促す（T2）。 ・気持ちカードで頑張ったことを発表する。 ○気持ちカードを活用し、二択で気持ちを確認する（T2）。 ○買い物ができたことを称賛し、共に喜び合えるよう言葉を添える。	気持ちカード
	5 次時の予定の確認	・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする。	・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする。	・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする（T2）。	・次時は、実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ、次回への期待を高められるようにする（T2）。	学習カレンダー
	6 終わりのあいさつ	○日直はみんなを注目させるよう促す。 ・日直が挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	○日直に注目するように促す（T2）。 ・日直の合図に合わせて挨拶をする。	



学習指導案づくりの20の視点

- ⑮教師の動きやT・T間の役割が明確である。
- ⑯授業全体の流れが分かり、中心的な学習活動が明確である。
- ⑰「育成を目指す資質・能力」が身に付くために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で指導や支援を考えている。

学習指導案様式例（教科別の指導）【解説ナビ】

〇〇学級（学級名） 〇〇科 学習指導案

- ・特別支援学校の場合、「〇学部〇年〇組〇〇〇」と記入します。

日 時 令和〇年〇月〇日 〇：〇〇～〇：〇〇

場 所 〇〇学級教室

指導者 〇〇 〇〇

- 1 単元（題材）名「〇〇〇〇〇〇」
- ・児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。

2 単元（題材）設定の理由

- (1) 児童（生徒）の実態〔〇年〇組・〇名〕

- ・単元（題材）に関わる児童生徒の実態や興味・関心等について記入します。
- ・「〇〇な実態だから、△△を課題に考えている」というように、学習集団の実態と課題を整理して記入します。
- ・個の実態には、教科の実態や現在の課題等を記入します。

このような実態で、この
ような良い点や課題があ
る児童生徒たちなので、

- (2) 単元（題材）観

本単元（題材）は、学習指導要領「〇〇〇〇〇」の、以下の目標・内容を受けて設定している。

〇〇〇〇〇 〇段階 目標

※ここに目標を記入する。

- ・単元（題材）に関する、学習指導要領の
目標及び内容を転記します。

〇〇〇〇〇 〇段階 内容

※ここに内容を記入する。

このような意義のある単
元（題材）を設定し、

本単元（題材）では、・・・・・・

- ・単元（題材）の特徴を記入します。
- ・単元（題材）に対する考え方や、なぜその教材を扱うのかという意義や価値を記入します。
- ・国語科については、小学校・中学校に準ずる教育課程で行う場合のみ、「取り上げる言語活動」を記入します。

- (3) 指導観

- ・児童生徒の実態、単元（題材）観を基に、目標達成のためにどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
- ・教材・教具の工夫、教師の協力体制（T・T）、学習環境について記入します。

目標を達成するために、
このような指導・支援を
工夫していきます。

3 単元（題材）の目標

- (1) ……できる。〔知識及び技能〕
- (2) ……できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) ……しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
- ・学習指導要領で示された目標及び内容を参考に設定します。
 - ・「育成を目指す資質・能力」を明確にして記入します。

4 単元（題材）の指導と評価の計画

(1) 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
……している。	……している。	……しようとしている。
「3 単元（題材）の目標」に対して、児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。		

(2) 単元（題材）の指導計画（○時間扱い 本時○／○）

次	小単元（題材）名	時数	学習活動	評価規準			評価方法
				知・技	思・判・表	主	
1	- 目標達成のために、単元（題材）全体の主な学習活動や指導の流れが明確になるよう簡潔に記入します。 - 評価規準には、次時に向けて「指導に生かす評価」と、単元（題材）の学習の評価として活用する「記録に残す評価」があり、分けて記入します。 - 単元（題材）の中に評価の観点を位置付けることで、指導の重点を意識することができます。 - 評価の計画の考え方は、教科によって異なります。（本例は算数科）			・			行動観察
2				○	・		行動観察
3				○	○	・	ワークシート
4				・	○	○	行動観察 発表

※ ○：記録に残す評価 ・：指導に生かす評価

5 単元（題材）の個別の目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
A 児	- 単元（題材）の個別の目標は、「3 単元（題材）の目標」を基に、「個別の指導計画」との関連を意識しながら設定します。 - 単元（題材）を通して「身に付けさせたい資質・能力」を具体化した「単元（題材）の個別の目標」を設定します。		
B 児			
C 児			

6 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・「4 単元（題材）の指導と評価の計画」と整合性を……できる。〔知識及び技能〕
- ・図りながら、本時で育成を目指す資質・能力を考え、……できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・目標を設定します。……しようとする。「学びに向かう力、人間性等」
- ・「3 単元（題材）の目標」を基に、集団全体の目標を具体的に記入します。

(2) 本時の指導に当たって

- ・本時の目標達成のために、本時の指導でどのような学習活動や指導の工夫や支援をするのかを具体的に記入します。
- ・教材・教具の工夫、学習環境等について記入します。

(3) 児童（生徒）の実態と個別の目標及び評価規準

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A 児	・実態を書く際には、できるだけ否定的な表現は避け、<u>どういう支援があればできるのかを記入</u>します。	・本時の個別の目標は、「(2) 本時の目標」を基に<u>育成を目指す資質・能力</u>を記入します。その際、「個別の指導計画」を基に自立活動の指導との関連を意識しながら設定します。	・手立ては、<u>個々の実態を踏まえ、具体的に記入</u>します。	・評価規準は、個別の目標に対して、<u>児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入</u>します。
B 児				
C 児				

(4) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問 ・指示 ◆予想される児童（生徒）の反応	指導上の留意点	評価
導入 ○分	・「学習活動」は、学級で行う大まかな活動を記入します。 ・「指導上の留意点」は、児童生徒の具体的な活動や教師が行う指導・支援を記入します。 ・授業の流れ、児童生徒や教師の動きが分かるように記入します。 ・どの学習場面において、どのような方法で児童生徒の学習状況を評価するのかを明確に示します。		
展開 ○分			
終結 ○分			

(5) 本時の評価規準

- ・ ……「(1) 本時の目標」で育成を目指す資質・能力に沿って、本時の学習活動を踏まえ、具体的に記入します。
- ・ ……している。（知識・技能）
- ・ ……している。（思考・判断・表現）
- ・ ……しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

(6) 準備物

- ・教師：
 - ・教師、児童生徒が準備するものを具体的に記入します。
- ・児童（生徒）：

(7) その他

- ・本時の学習活動に必要な、「場の設定」や「板書計画」等を必要に応じて記入します。
- ・児童生徒や教師の位置、教材・教具の位置、環境整備の工夫等が分かるように記入します。

学習指導案様式例（各教科等を合わせた指導）【解説ナビ】

〇〇学校 〇学部 〇年〇組 〇〇〇 学習指導案

- ・特別支援学級の場合、「〇学級（学級名）〇〇科」と記入します。

日 時 令和〇年〇月〇日 〇：〇〇～〇：〇〇

場 所 〇学部〇年〇組 教室

指導者 〇〇 〇〇（T1）

〇〇 〇〇（T2）

1 単元（題材）名「〇〇〇〇〇〇」

- ・児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。

2 単元（題材）設定の理由

(1) 児童（生徒）の実態〔〇年〇組・〇名〕

- ・単元（題材）に関わる児童生徒の実態や興味・関心等について記入します。
- ・「〇〇な実態だから、△△を課題に考えている」というように、学習集団の実態と課題を整理して記入します。
- ・扱う各教科等の実態や現在の課題だけでなく、良い点等も記入します。

このような実態で、この
ような良い点や課題があ
る児童生徒たちなので、

(2) 単元（題材）観

本単元（題材）は、〇〇を学習するに当たり、特別支援学校〇学部学習指導要領〇〇科、〇〇科…の、以下の内容を受けて設定している。

〇学部 〇〇科 〇段階 内容

※ここに内容を記入する。

〇学部 〇〇科 〇段階 内容

- ・単元（題材）で扱う、各教科の学習指導要領の内容を転記します。

本単元（題材）では、……………

- ・単元（題材）の特徴を記入します。
- ・単元（題材）に対する考え方や、なぜその教材を扱うのかという意義や価値を記入します。
- ・「各教科等を合わせた指導」の場合は、設定した単元（題材）で扱う教科等についても記入することで、教科の学習を意識することができます。

このような意義のある
単元（題材）を設定し、

(3) 指導観

- ・児童生徒の実態、単元（題材）観を基に、目標達成のためにどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
- ・教材・教具の工夫、教師の協力体制（T・T）、学習環境について記入します。

目標を達成するために、
このような指導・支援を
工夫していきます。

3 単元（題材）の目標

- （1）……………できる。〔知識及び技能〕
 - （2）……………できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
 - （3）……………しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
- ・年間指導計画に示された目標及び内容を参考に設定します。
 - ・「育成を目指す資質・能力」を具体化して記入します。

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
……………している。	……………している。	……………しようとしている。
・「3 単元（題材）の目標」に対して、児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。		

※扱う教科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（教科名）……………している。	（教科名）……………している。	（教科名）……………しようとしている。
（教科名）……………している。	（教科名）……………している。	（教科名）……………しようとしている。

- ・「※扱う教科の評価規準」を考えておくことで、扱う教科の個別の評価を行う際の参考となります。

5 単元（題材）の指導計画（○時間扱い 本時○／○）

次	小単元（題材）名	時数	学習活動	扱う教科の内容
1				
2			- 目標達成のために、単元（題材）全体の主な学習活動や指導の流れが明確になるよう簡潔に記入します。 - 扱う教科の内容を意識することで、その時間で児童生徒にどんな力を身に付けさせたいかを考えることができます。 - 扱う教科の内容の欄は、「生活 キ手伝い・仕事」などと記入します。内容のまとまりを記入し、段階は記入しません。	
3				
4				

6 単元（題材）の個別の目標

	単元（題材）の個別の目標	扱う教科の実態
A 児		
B 児	- 単元（題材）で扱う内容に関する児童生徒の実態と個別の目標を記入します。 「3 単元（題材）の目標」を基に、単元（題材）を通して「身に付けさせたい資質・能力」を具体化した「単元（題材）の個別の目標」を設定します。 - 扱う教科の実態には、段階まで記入します。 - 扱う教科の実態を踏まえ、「単元（題材）の個別の目標」を記入します。	
C 児		

7 本時の計画

(1) 小単元（題材）名「○○○○」

・児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。

(2) 本時の目標

- ・……できる。〔知識及び技能〕
- ・……できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・「3 単元（題材）の目標」を基に、各教科等を合わせた指導の目標を具体的に記入します。
- ・……しようとする。「学びに向かう力、人間性等」

(3) 本時の指導に当たって

- ・本時の目標達成のために、本時の指導でどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
- ・教材・教具の工夫、教師の支援体制（T・T等）、学習環境の工夫等について記入します。

(4) 児童（生徒）の実態と個別の目標及び評価規準

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A 児	実態を書く際には、できるだけ否定的な表現は避け、<u>どのような支援があればできるのか</u>を記入します。	本時の個別の目標は、「(2) 本時の目標」を基に<u>育成を目指す資質・能力</u>を記入します。その際、「個別の指導計画」を基に自立活動の指導との関連を意識しながら設定します。	手立ては、<u>個々の実態を踏まえ、具体的に</u>記入します。	評価規準は、個別の目標に対して、<u>児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に</u>記入します。
B 児				
C 児				

(5) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点 (・→児童生徒の活動　○→教師の働き掛け　☆→評価)			準備物																										
		A児	B児	C児																											
導入 ○分	「学習活動」は、学級で行う大まかな活動を記入します。 「指導上の留意点」は、児童生徒の具体的な活動や教師が行う指導・支援を記入します。 - 授業の流れ、児童生徒や教師の動きが分かるように記入します。 - T・Tの場合は、各教師の役割や児童生徒への関わり方を分かるように記入します。 - どの学習場面において、どのような方法で児童生徒の学習状況を評価するのかを明確に示します。																														
展開 ○分	指導過程の書き方は様々あるので、目的に応じて使い分けます。 (本例は、個別の支援が分かりやすい指導過程) ○グループごとの支援が分かりやすい指導過程の例 <table><tr><td>学習活動</td><td>Aグループ (A児, B児)</td><td>Bグループ (C児, D児)</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> ○教材・教具等の指導の工夫が分かりやすい指導過程の例 <table><tr><td rowspan="2">学習活動</td><td colspan="2">作業内容と指導上の留意点</td><td rowspan="2">教材・教具等</td></tr><tr><td>○○作業チーム A児, B児</td><td>△△作業チーム C児, D児</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> ○教師の動きが分かりやすい指導過程の例 <table><tr><td>学習活動</td><td>T 1</td><td>T 2</td><td>T 3</td><td>T 4</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>					学習活動	Aグループ (A児, B児)	Bグループ (C児, D児)				学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等	○○作業チーム A児, B児	△△作業チーム C児, D児					学習活動	T 1	T 2	T 3	T 4					
学習活動	Aグループ (A児, B児)	Bグループ (C児, D児)																													
学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等																												
	○○作業チーム A児, B児	△△作業チーム C児, D児																													
学習活動	T 1	T 2	T 3	T 4																											
終結 ○分																															

(6) 本時の評価規準

- ・ ……「(2) 本時の目標」で育成を目指す資質・能力に沿って、本時の学習活動を踏まえ、具体的に記入します。
- ・ ……している。(知識・技能)
- ・ ……している。(思考・判断・表現)
- ・ ……しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(7) 準備物

- ・ 教師：
- ・ 児童（生徒）：

(8) その他

- ・ 本時の学習活動に必要な、「場の設定」や「板書計画」等を必要に応じて記入します。
- ・ 児童生徒や教師の位置、教材・教具の位置、環境整備の工夫等が分かるように記入します。

2 年間指導計画を見直そう

(1) 各教科の内容表

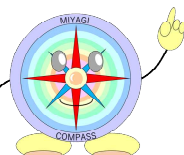
各教科の目標及び内容を調べることができるのが「各教科の内容表」です。「教科別の指導」や「各教科等を合わせた指導」において、単元で身に付けてほしい資質・能力を確認したいときや年間指導計画を作成するときに活用できます。

○使い方

使い方は2種類あります。ファイルを開き、「はじめにお読みください」のタブをクリックします。以下の画面が表示されます。下の囲み部分が使い方の説明になります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月 告示)										
2	特別支援学校 高等部学習指導要領(平成31年2月 告示)										
3											
4											
5											
6	各教科で指導する内容										
7	が、どの資質・能力に										
8	当たるか確認できます。										
9	知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校										
10	各教科の内容表										
11											
12											
13											
14	特別支援学級でも活用できます。										
15	※各教科等の教育課程の編成を、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等で行う場合										
16	○ 使用上の留意点										
17	1 小学部は 緑色 , 中学部は 黄色 , 高等部は 橙色 のタブになっています。										
18	2 「〇〇部内容一覧」には、各教科の内容のまとまりを一覧にして示しています。										
19	3 「〇〇部詳細内容」には、各教科の内容が掲載されています。										
20	【使い方1】										
21	「〇〇部内容一覧」の段階(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ), 段階がないものは内容のまとまり, そのものをクリックする。→ 「〇〇部詳細内容」の該当の部分が表示される。→ 詳細な内容を確認する。										
22	【使い方2】										
23	「〇〇部詳細内容」内のオートフィルター機能を使って絞り込み, 詳細な内容を確認する。										
24	※ それぞれのシートは保護されており, 変更ができないようになっています。(校閲→シート保護の解除で, 変更可能です。)										
25											
26											

はじめにお読みください 小学部内容一覧 小学部詳細内容 中学部内容一覧 中学部詳細内容 高等部内容



各教科の内容表のファイルは、

<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/>にあります。ダウンロードしてご活用ください。



(2) 指導内容確認表

「指導内容確認表」は、指導する学習活動と扱う教科等を確認したり、各教科の内容が満遍なく行われているかを確認したりする際に活用できます。

○使い方

使い方は3種類あります。ファイルを開き、「はじめにお読みください」のタブをクリックします。以下の画面が表示されます。下の囲み部分が使い方の説明になります。

特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月 告示)

知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校

指導内容確認表（小学部）

特別支援学級でも活用できます。
※各教科等の教育課程の編成を、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等で行う場合

○ 使用上の留意点

- 生活科のタブに単元名を入力しておきます。
- 各教科等のタブを選択します。
- 単元で行う指導内容を選びます。(重点指導事項は◎, 関連する指導事項は○)

【使い方1】
教科のタブを選択 → オートフィルタ機能を使い、単元等の指導事項を絞り込む。→ 指導内容を確認する。

【使い方2】
教育課程全体のタブを選択 → オートフィルタ機能を使い、単元等の指導事項を絞り込む。→ 指導内容を確認する。

【使い方3】
チェックした教科の項目がいくつあるかを知りたい場合は、右の欄の◎, ○の数で確認する。

はじめにお読みください | 生活 | 国語 | 算数 | 音楽 | 図画工作 | 体育 | 外国語活動 | 教育課程全体

指導内容確認表のファイルは、
<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/>
にあります。ダウンロードしてご活用ください。

第3章

3-27

第3章 ③ んみしよう！明日からの授業（資料編）

第1章

第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD
	小学部 ○学年部 指導内容確認表（生活科） ・学習する単元等を入力します。…生活科のみ ・重点指導事項に◎を入力します。 1 関連する指導事項に○を入力します。			日常生活の指導	遊びの指導	生活単元の学習	特別活動等	各教科等	○（関連する指導事項）の数 ◎（重点指導事項）の数																					
1				朝の会・帰りの会	着替え	排せつ	給食	手洗い・歯みがき	さわって遊ぶうた	さわって遊ぶうた	運動大好き	音楽大好き	みんな友達Ⅰ	みんな友達Ⅱ	夏を楽しもう	遠足に行こう	学習発表会	動物園に行こう	お楽しみ会をしよう	一年のまとめをしよう	季節を見つけてよう	学級制作	係活動							
2	教科	項目1	項目2																											
3	生活	ア 基本的な生活習慣	食事、用便、寝起き、生活、身の回りの整理、身なり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4		イ 安全	危険防止、交通安全、避難訓練、防災					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5		ウ 日課・予定	日課・予定	◎												◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
6		エ 遊び	いろいろな遊び、遊具の後片付け					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
7		オ 人との関わり	自分自身と家族、身近な人との関わり、電話や来客の取次、気持ちを伝える応対	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
8		カ 役割	集団の参加や集団内での役割、地域の行事への参加、共同での作業と役割分担	◎	◎	◎										◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
9		キ 手伝い・仕事	手伝い、整理整頓、戸締り、清掃、後片付け					◎								◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
10		ク 金銭の扱い	金銭の扱い														◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
3	国語	知識及び技能	ア 言葉の働き	◎		◎																								
4		知識及び技能	イ 我が国の言語文化（3段階はウ）					◎																						
5		知識及び技能	イ 情報の扱い方																											
6		思考力、判断力、表現力等	ア 話し言葉で表現（1段階）、事例を思い浮かべる（2段階）、話の大意を捉える（3段階）	◎				◎																						
7		思考力、判断力、表現力等	イ 話し掛けに注目する、応じて答える（1段階）、指示等に応じて行動する（2段階）	◎																										
8		思考力、判断力、表現力等	ウ 身振りや音声で表す（1段階）、伝えたいことを考える（2段階、3段階はイ）	◎				◎																						
9		思考力、判断力、表現力等	エ 発見したことなどのありさまや自分の気持ちなどについて思いをいったり、考えたりすること（3段階）	◎																										
10		思考力、判断力、表現力等	エ 挨拶、表現（2段階）、挨拶、電話の受け答え（3段階）	◎				◎																						
11		思考力、判断力、表現力等	オ 発音や声の大きさに気を付ける	◎																										
12		思考力、判断力、表現力等	カ 思いや考えを伝えたり、受け止めたりする	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		思考力、判断力、表現力等	ア 伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること（3段階）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							

教科の入力が終わると、「教育課程全体」のタブに全教科の入力が反映されます。

・教科の内容項目がバランスよく行われているか点検できます。

3 その1 チェックした教科の指導内容がいくつあるかを知りたい場合は、右の欄にある◎、○の数を確認します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD
	小学部 ○学年部 指導内容確認表（生活科） ・学習する単元等を入力します。…生活科のみ ・重点指導事項に◎を入力します。 1 ・関連する指導事項に○を入力します。			日常生活の指導	遊びの指導				生活単元の学習												特別活動	各教科等	◎（重点指導事項）の数	○（関連する指導事項）の数						
1				朝の会・帰りの会	着替え	排せつ	給食	手洗い・歯みがき	さわって遊ぶうた	さわって遊ぶうた	運動大好き	音楽大好き	みんな友達Ⅰ	みんな友達Ⅱ	夏を楽しもう	遠足に行こう	学習発表会	動物園に行こう	お楽しみ会をしよう	一年のまとめをしよう	季節を見つけてよう	学級制作	係活動							
2	教科	項目 1	項目 2																											
3	生活	ア 基本的な生活習慣	食事、用便、寝起き、生活、身の回りの整理、身なり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4		イ 安全	危険防止、交通安全、避難訓練、防災					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5		ウ 日課・予定	日課・予定	◎												◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
6		エ 遊び	いろいろな遊び、遊具の後片付け					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
7		オ 人との関わり	自分自身と家族、身近な人との関わり、電話や来客の取次、気持ちを伝える応対	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

3 その2 単元等で実施されている教科の指導内容を確認したい場合は、下図□内の☑をクリックし、◎、○にチェックを入れ、確認します。

小学部 ○学年部 指導内容確認表（生活科） ・学習する単元等を入力します。…生活科のみ ・重点指導事項に◎を入力します。 1 関連する指導事項に○を入力します。				日常生活の指導																									
2	教科	項目1	項目2	朝の会・帰りの会	着替え	排せつ	給食	手洗い・歯みがき																					
3	生活	ア 基本的な生活習慣	食事、用便、寝起き、生活、身の回りの整理、身なり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
7		オ 人との関わり	自分自身と家族、身近な人との関わり、電話や来客の取次、気持ちを伝える応対	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
8		カ 役割	集団の参加や集団内での役割、地域の行事への参加、共同での作業と役割分担	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

(3) 年間指導計画の一例

〇〇支援学校 小学部中学年 生活単元学習 年間指導計画

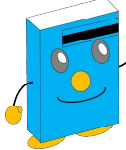
単元名 時期 時数	目標 知→〔知識及び技能〕, 思→〔思考力・判断力・表現力等〕, 学→「学びに向かう力・人間性等」	主な学習活動	扱う教科の内容
みんな友達 4～5月 10時間	知 中学年部の教師や友達を知る。 知 用具の使い方を覚え、制作活動に取り組むことができる。 思 教師や友達との関わりの中で、自分の思いを持ったり、伝えたりすることができる。 学 新しい教師や友達との関わりを通して、自分のよさに気づき、一緒に活動を楽しもうとする。	・自己紹介、学級紹介 ・顔合わせの会 ・ゲーム ・みんなで一つの制作活動 ・歌遊び、ダンス	生活 エ遊び オ人との関わり ケきまり 国語 A 聞くこと・話すこと B 書くこと 図工 A 表現 B 鑑賞 音楽 A 表現
目指せ！お買い物達人！ 5月 10時間	知 買い物の手順を理解して、金銭を用いてお店で買い物をすることができる。 思 買い物に必要なやり取りを店員とすることができる。 学 買い物を通して、人と関わるよさに気づき、手順に沿って、自分なりの方法で買い物をしようとする。	・お金の計算 ・商品名を読む ・模擬買い物学習 ・スーパーマーケットで買い物	生活 キ手伝い・仕事 ク金銭の扱い 国語 A 聞くこと・話すこと 言葉の特徴や使い方 算数 A 数と計算
ゲームを楽しもう 5～6月 7時間	知 目的に応じた遊び方や活動の仕方が分かる。 思 目標を目指したり、友達と競ったりしながら、教師や友達と楽しくゲームに取り組むことができる。 学 様々なゲームの楽しさに気づき、ルールやマナーを守って活動しようとする。	・集団行動、戸外歩行 ・戸外の遊具遊び ・かけっこ ・リレーゲーム ・集合ゲーム ・学級旗作成	生活 エ遊び オ人との関わり ケきまり 体育 C 走・跳の運動遊び 図工 A 表現 B 鑑賞
みんなで校外学習に行こう 6月 8時間	知 いつ、どこで、何をすることが分かる。 思 遊びたい遊具を選んだり、自分の思いを伝えたりして、施設内の活動を楽しむことができる。 学 教師や友達と関わり合いながら、マナーやルールを守って活動に取り組もうとする。 学 校外での活動において、友達と関わって活動しようとしたり、自分の興味・関心の幅を広げようとしたりする。	・オリエンテーション （日時、場所、活動内容、 約束、荷物等の確認） ・しおり作成 ・買い物学習 ・振り返り	生活 ウ日課・予定 ケきまり コ社会の仕組みと公 共施設 国語 B 書くこと C 読むこと 算数 A 数と計算

3 もっと知識を広げよう

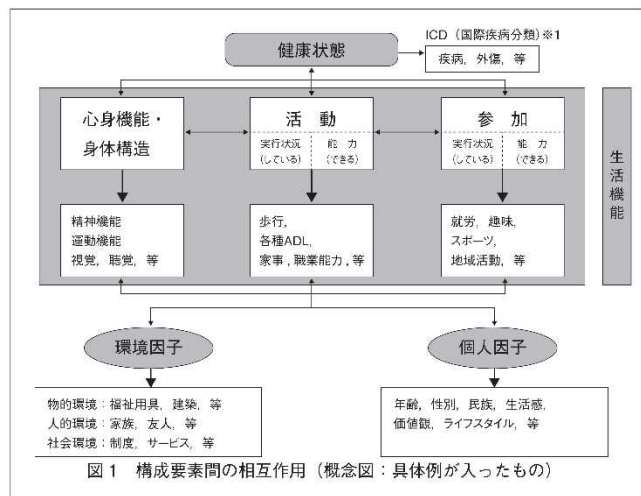
ICFについて

「ICF」とは、平成13年にWHOの総会で採択された「国際生活機能分類（ICF：International Classification of Functioning, Disability and Health）」のことです。

ICFでは、人間の生活機能は「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の三つの要素で構成されており、それらの生活機能に支障がある状態を「障害」と捉えている。そして、生活機能と障害の状態は、健康状態や環境因子等と相互に影響し合うものと説明され、構成要素間の相互関係については、図1のように示されている。



（特支学習指導要領解説自立活動編 第2章2(1)）



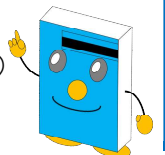
（出典）厚生労働省大臣官房統計情報部編「生活機能分類の活用に向けて」

※1 ICD（国際疾病分類）は、疾病や外傷等について国際的に記録や比較を行うためにWHO（世界保健機関）が作成したものである。ICDが病気や外傷を詳しく分類するものであるのに対し、ICFはそうした病気等の状態にある人の精神機能や運動機能、歩行や家事等の活動、就労や趣味等への参加の状態を環境因子等のかかわりにおいて把握するものである。

「自立活動の指導をICFの考え方を念頭に置いて紹介した事例」

下肢にまひがあり、移動が困難な児童が、地域のある場所に外出ができるようにする指導を例に考えてみる。まず、実態把握においては、本人のまひの状態や移動の困難にだけ目を向けるのではなく、移動手段の活用、周囲の環境の把握、コミュニケーションの状況などについて、実際に行っている状況や可能性を詳細に把握する。そして、このような生活機能と障害に加えて、本人の外出に対する意欲、習慣等や地域のバリアフリー環境、周囲の人の意識等を明らかにし、生活機能と障害に個人因子や環境因子がどのように関連しているのか検討する。このように実態を把握した上で、児童の自立を目指す観点から指導目標を設定する。次に、指導目標を達成するために必要な指導内容を多面的な視点から検討するのであるが、その際、学習指導要領等示された区分や項目を踏まえることが重要である。すなわち、移動を円滑に行う観点からだけでなく、心理的な安定、環境の把握、コミュニケーションなど様々な観点を踏まえて具体的な指導内容を設定し、実際の指導に当たることが求められるのである。ICFの考え方を踏まえるということは、障害による学習上又は生活上の困難を的確に捉えるとともに、幼児児童生徒が現在行っていることや、指導をすればできること環境を整えればできることなどに一層目を向けるようになることを意味していると言えよう。

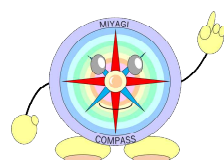
（特支学習指導要領解説自立活動編 第2章2(2)）



ユニバーサルデザインについて

「ユニバーサルデザイン」については、障害者の権利に関する条約第2条定義において「調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう。ユニバーサルデザインは、特定の障害者の集団のための補装具が必要な場合には、これを排除するものではない。」と記されています。

「ユニバーサルデザインを意識した授業」とは、特別な教育的支援が必要な児童生徒だけではなく、全ての児童生徒にとって「分かる・できる授業」を行うことです。



○交流学級での「ユニバーサルデザインを意識した授業」

教師が行う手立て（例）	ねらい
1回に1つの指示にする。	確実にを行うため一つ一つ確認できるようにする。
指示の際、写真や動画を提示するなど視覚化を工夫する。 黒板に取り組む学習活動を掲示する。 準備物や手順をカードに書いておき、それを見せながら伝える。	見通しを持たせる。
説明の後、説明した内容のカードを掲示しておく。 意図的に座席を配置する。（モデルとなる児童生徒、困ったときに関わりやすい児童生徒を近くにする等） 教師や友達のすることを手本として、活動を行わせる。	指示の聞き逃しがあった場合に確認できるようにする。
個別に学習に取り組んでいる時間には、こまめに机間指導をして、学習を支援する。	自分で取り組むことができるようにする。
ペアやグループで話し合いをさせる。	理解を促す。

○教室や交流学級以外の場所での「ユニバーサルデザインを意識した授業」

教師が行う手立て（例）	ねらい
体育館や校庭等で整列するときに、並ぶ位置に印を付ける。	自分の場所を明確にする。
その場所での活動予定を書き、見せる。	見通しを持たせる。
教材を写真に撮り、その場所に貼る。	自分で探しやすい、片付けやすいようにする。

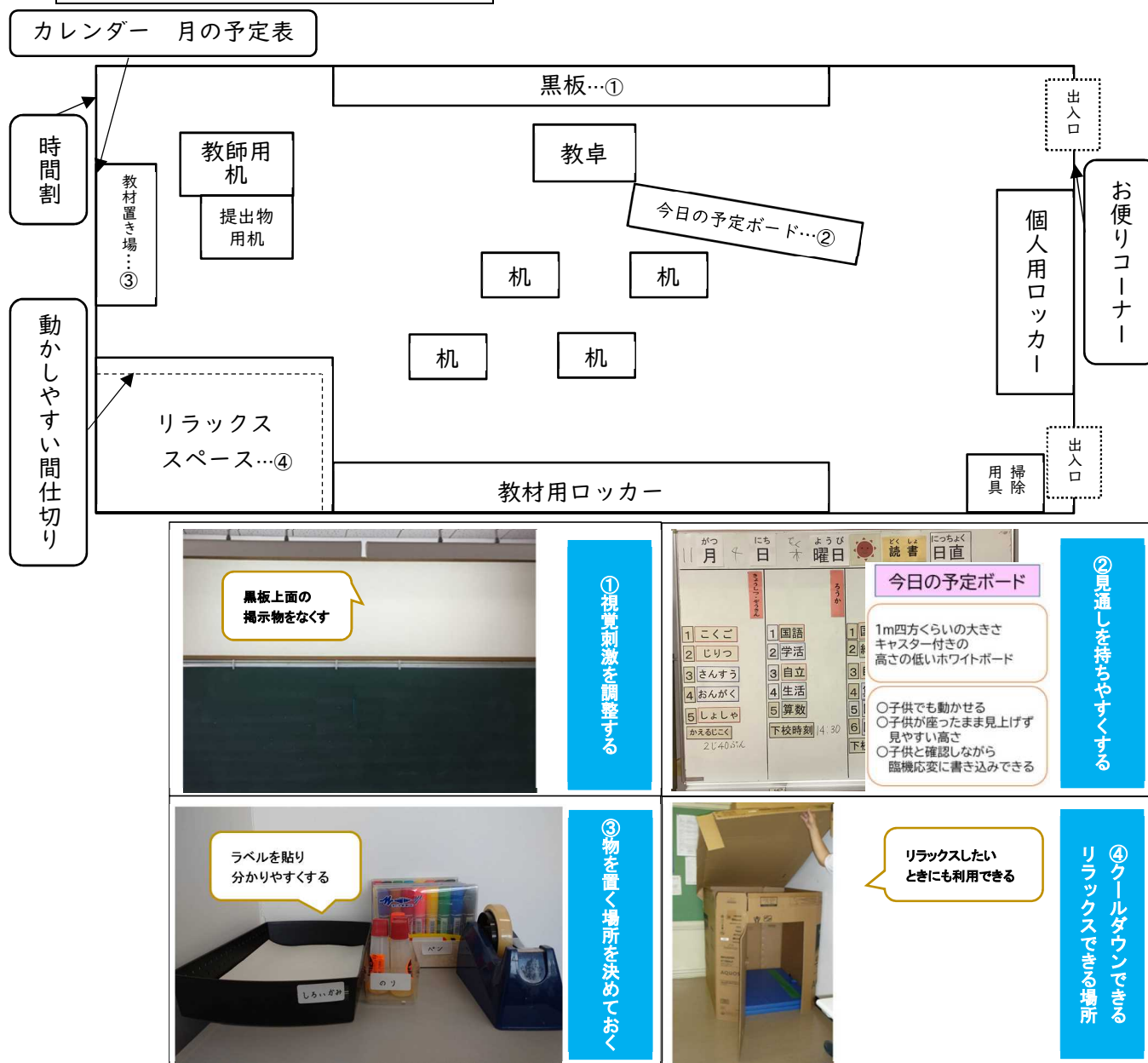
教室環境の整備について

教室環境の整備のポイントは、児童生徒一人一人の障害の状況などに応じ、安全で、落ち着いて過ごすことのできる環境整備を心掛けることです。

○教室環境の整備ポイント

- 1 過ごしやすい整えられた環境
- 2 見通しを持って生活しやすい環境
- 3 自主的、自発的に行動しやすい環境
- 4 安全、安心、落ち着いて過ごせる環境

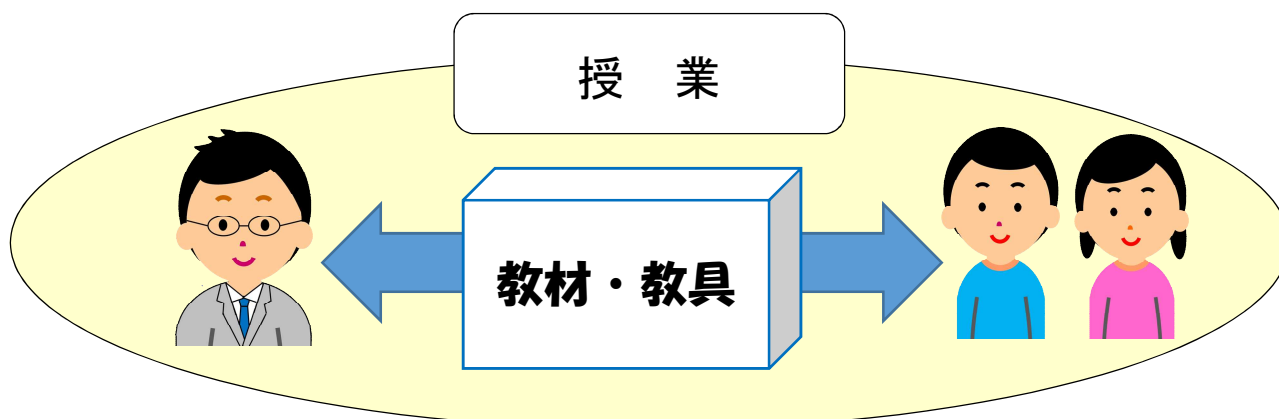
教室内の配置例とチェックポイント



（宮城県総合教育センター「eラーニングシステム 特別支援学級の教室環境」）を基に作成

教材・教具の準備について

○教師と児童生徒、教材・教具の関係イメージ



特別支援教育の授業を行う際、教材・教具の工夫が欠かせません。教師が教材・教具を介して、児童生徒との学習ややり取りを行うことで、児童生徒の反応や自発的な行動が見られたり、児童生徒の学習意欲や集中力を高めたりすることができます。また、児童生徒の学習のつまずきを解消する側面もあります。

○教材・教具の種類

- ・ 特別支援教育に関する市販の教材・教具
- ・ インターネット等を活用し、ダウンロードできる教材・教具
- ・ 個々のニーズに応じた自作の教材・教具 等

※ 活動場所、関わる人、活用する用具・道具等も教材・教具と考えられます。

○教材・教具の準備から改善までの流れ

実態把握

- ・ 児童生徒の姿を思い浮かべ、どんな教材・教具が必要かイメージを持つ。

教材・教具の作成

- ・ 実態把握を基に、教材・教具の工夫や作成を行う。

効果的な活用場面を検討

- ・ 授業の流れをイメージし、児童生徒の反応を予想しながら効果的な活用場面を考える。

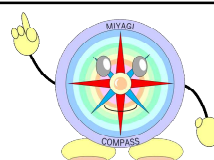
情報の共有

- ・ 一緒に授業を行う教員と相談しながら、効果的に活用できるよう情報の共有を行う。

反省と改善

- ・ 児童生徒の反応を振り返り、反省を基に改善をする。

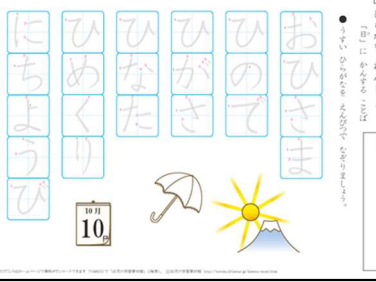
効果的な教材・教具を準備するためには、児童生徒をよく知ること（実態把握）が大切です。



特別支援教育の教材・教具について

特別支援教育では、個別の目標や指導内容が設定されます。そこで、一人一人の実態に応じた教材・教具の工夫が必要となります。

○特別支援教育の教材・教具（例）

学習カレンダー  単元（題材）を通した学習の予定を確認することで、見通しを持って学習に取り組むことができます。	学習カード（なぞり書き）  個別の課題に応じて作成し、ラミネート加工を施すことで、繰り返し使用することができます。	エアートランポリン  コンプレッサーで空気を送りながら、跳ねるだけでなく、座位や臥位等、好きな姿勢でフワフワした揺れを体感できます。
タイムタイマー・タイマー  時間を視覚化することで、「始まり」と「終わり」を意識させることができます。	学習教材（色の弁別）  色の弁別や形のマッチング等、児童の実態に応じた課題を学習することができます。	今日の予定ボード  予定や活動の順序等を視覚化することで、見通しを持たせることができ、自発的な行動を促します。



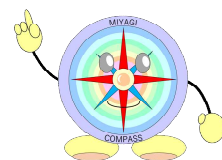
参考：独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所
「特別支援教育教材ポータルサイト」

<http://kyozai.nise.go.jp/>



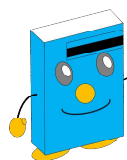
一人一人の実態を踏まえ、個別の教材・教具を準備しましょう。教材・教具を自作するときは、安全面にも留意して作成しましょう。



特別支援教育のICT活用について

ことばや文字、数などの学習にICTを活用して、言語や認知の発達を促したり教科指導の効果を高めたりすることが考えられます。

また、言語や認知、運動機能の障害による学習上又は生活上の困難を補うためにICTを活用して、機能を代替することが考えられます。



学習指導要領では、特別支援教育におけるICTの活用について、各教科の指導計画作成に当たっての配慮事項として、**障害種ごとにコンピュータ等のICTの有効活用に関する規定**を示し、指導方法の工夫を行うことや、指導の効果を高めることを求めています。

ICTを活用する視点Ⅰ

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするため

- ・ 情報活用能力は、各教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力です。

『視覚情報を見やすくする』〈タブレット端末〉



タブレット端末のカメラ機能を活用することで、板書事項、小さいもの、動いているもの等を写真や動画で撮影し、一時停止したり拡大したりしながら手でじっくり確認できます。

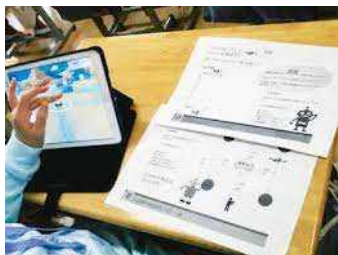
『拡大提示』〈電子黒板・大型テレビ・スクリーン〉



大きな画面に映写することで、児童生徒の視線が大きな画面に集まり、全体で情報を共有できたり、話し合い活動が円滑になったりすることが期待できます。

『発表することを分かりやすくまとめる』

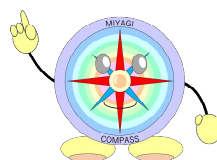
〈プレゼンテーションソフト〉



プレゼンテーションソフトを活用することで、時系列で物事を整理したり、伝えたいことを明確にしたりすることができます。

特に大切なことは、児童生徒の実態や指導目標、指導環境に合わせて、ICTを一つの学習の手段や道具として有効活用することです。そして「何のために、誰のためにICTを使うのか？」を考えながら活用していく必要があります。

令和2年度より、小学校のみならず特別支援学校の小学部においてもプログラミング教育に取り組むことになりました。プログラミング教育は、プログラミングのよさに着目し、日々の学習活動の中で各教科等の目標を達成することがねらいとなります。



ICTを活用する視点2

障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため

- ・ 特別な支援が必要な児童生徒に対する指導内容・方法の1つで、自立活動の目標にもなります。授業において、**個々の実態に応じて対応**します。

知的障害（理解や意思疎通が困難）

『読み書きを段階的に学ぶ』〈学習ソフト〉



知的障害のある児童生徒に対しては、生活に活用できる言語能力や数的処理能力の育成を促すための学習ソフトの活用が考えられます。双方向性が高く、楽しく機器とやり取りしながら学習が円滑に進められるよう工夫された学習ソフトや入力機器があります。

『写真やシンボル等で自分の意思を伝える』

〈コミュニケーション支援アプリ〉



発語による意思表示が困難な児童生徒でも、あらかじめ用意した写真やシンボル等から自分が伝えたいことを選択すると、音声と組み合わせて意思の表出ができます。

発達障害（様々な学びにくさ）→自閉スペクトラム症，注意欠陥多動性障害，学習障害

『覚えることの困難さを補う』

〈タブレット端末のリマインダー機能〉



リマインダー機能を活用することで、覚えておくべき内容を表示したり、適切なタイミングで音や振動を鳴らして内容を知らせたりできます。

『予定や活動内容の順番等を視覚化』

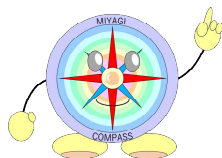
〈スケジュール管理アプリ〉



タブレット等で予定や活動内容，作業手順等を提示することで，児童生徒が見通しを持つことができます。写真等を用いたスケジュールの作成が簡単にでき，状況に応じてすぐに活用できます。

（文部科学省「特別支援教育におけるICTの活用」）を基に作成

理解や意思表示を支援するために，ICT機器の活用は有効です。ICT機器の活用は，社会的自立のための「合理的配慮（p. 1-14）」の一つになる可能性があります。



ICT機器は便利ですが，使うこと自体が目的にならないように注意しましょう。そのためにも，児童生徒の障害の特性に応じたICT機器や補助具の活用をよく検討し，授業のねらいや指導目標が達成できるようにしましょう。

T・T（ティーム・ティーチング）について

特別支援学校（知的障害）では、小学校や中学校以上に児童生徒一人一人の実態に応じた指導が必要です。T・Tとは、児童生徒の個に応じたきめ細やかな指導を効果的に行う支援体制です。

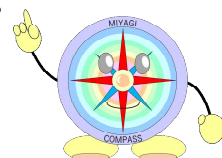
T・Tの形式パターンの特徴と教員の役割分担（T：教員，C：児童生徒）

	①全体支援型 T1が全体の授業を進める。 T2は集団全体を見ながら、支援が必要な児童生徒を中心に支援する。また、必要に応じて学習課題と一緒に取り組んだり、活動の補助をしたりするなど、課題や場面に応じた支援を行うことができる。
	②個別支援型 T1が全体の授業を進める。 T2は特定の児童生徒の支援を担当する。全体の授業のねらいに沿って、担当の児童生徒が同じ学習活動を行うだけでなく、特別な課題を設けることもできる。 ※ 特別支援学級の児童生徒が、交流学級で学習を行う際は、このパターンで支援することが多い。
	③グループ支援型 T1とT2は、各グループを担当し、小集団で学習を進める。 同じ教室で行うと、お互いの内容や進度を確認しながら進めることができる。別教室などで行うと、学習や活動内容に幅を持たせることができる。 例：制作活動で、教員が取り組む課題ごとに指導し、細やかに支援する。 例：実態に応じて設定された小集団で、個別の課題をさせる。
	④演示型 T1とT2が、交互に指導することで、児童生徒に分かりやすい演示を見せることができる。 例：国語の授業で、T1とT2が児童生徒の前で寸劇を演じて見せる。
	⑤補助型 T2がT1を補助して指導することで、児童生徒の興味・関心を引き出す演示等を見せることができる。 例：音楽の授業で、T2がピアノ伴奏を弾く。

T・Tを有効に進めるには、教員一人一人の持ち味を最大限に生かし、授業に対する共通理解を図った上で、各自の役割をしっかりと果たすことが大切です。

学年や学部での合同授業などは、教員や児童生徒の人数、指導内容等の違いでT・Tの形式パターンが変わります。授業を行う前には必ず「どのT・Tの形式パターン？」「誰がどの児童生徒を担当？」「どのような働き掛け？」など共通理解を図っておきましょう。

小学校や中学校の特別支援学級では、支援員が配置されていることがあります。支援員の業務内容についてもしっかりと把握し、適切な支援体制ができるようにしましょう。



みやぎ授業づくりガイド 活用の仕方

「みやぎ授業づくりガイド」を、より活用しやすく、そして実際の授業づくりにつなげるために、活用の仕方を作成しました。それぞれの先生方の悩みや疑問、やりたいことを見付けて参照してください。

「引用・参考」は、公所の通知、報告、著作物等から引用又は参考にした部分です。「提案」は、本研究グループからの提案です。「提案」を参考にして、よりよい実践につなげてほしいと思います。

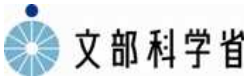
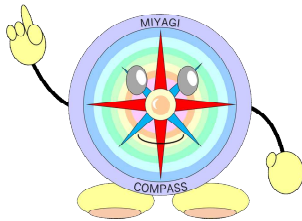
○授業づくりの前に

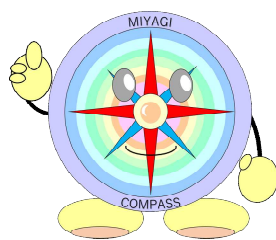
知りたい項目	内 容	適用	ページ
知的障害について	Q 知的障害とは？	引用・参考	1- 1
	Q 知的障害のある児童生徒の学習上の特性とは？	引用・参考	1- 2
週時程について (通常の教育、他の 障害種と比較して)	Q 特別支援学校(知的障害)における各教科等の教育課程とは？	引用・参考	1- 3
	Q 特別支援学級(知的障害)における各教科等の教育課程とは？	引用・参考	1- 4
	Q 連続性のある「多様な学びの場」とは？	引用・参考	1- 5
	Q 特別支援学校(知的障害)の各教科の目標及び内容の段階とは？	引用・参考	1- 6
各教科等を合わせた 指導について	Q 各教科等を合わせた指導とは？	引用・参考	1- 8
	Q 日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習とは？	引用・参考	1- 9
	Q 特別支援学校(知的障害)における各教科等の教育課程とは？	引用・参考	1- 3
	Q 特別支援学級(知的障害)における各教科等の教育課程とは？	引用・参考	1- 4
	Q 連続性のある「多様な学びの場」とは？	引用・参考	1- 5
	Q 特別支援学校(知的障害)の各教科の目標及び内容の段階とは？	引用・参考	1- 6
自立活動に ついて	Q 自立活動の指導とは？	引用・参考	1-10
	・ I C F について	引用・参考	3-30
	Q 個別の教育支援計画とは？	引用・参考	1-12
	Q 個別の指導計画とは？	引用・参考	1-13
	Q 特別支援学校(知的障害)における各教科等の教育課程とは？	引用・参考	1- 3
	Q 特別支援学級(知的障害)における各教科等の教育課程とは？	引用・参考	1- 4
個別の教育支援計画、 個別の指導計画に ついて	Q 個別の教育支援計画とは？	引用・参考	1-12
	Q 個別の指導計画とは？	引用・参考	1-13
	Q 自立活動の指導とは？	引用・参考	1-10
	Q 学校における合理的配慮とは？	引用・参考	1-14
	Q 学校における基礎的環境整備とは？	引用・参考	1-16
授業づくりの 考え方 (通常の教育、他の 障害種と比較して)	授業の構成図	提案	2- 3, 2- 7, 2-16
	・ 学習指導案の違い	提案	3- 1
	・ 学習指導案形式の違い(略案, 細案)	提案	3- 2
	・ 学習指導案づくりの20の視点	提案	3- 4
	・ 学習指導案例(教科別の指導) 小学校 特別支援学級(知的障害)「算数」	提案	3- 5
	・ 学習指導案例(各教科等を合わせた指導) 特別支援学校(知的障害) 小学部「生活単元学習」	提案	3-11
	・ T・T (ティーム・ティーチング) について	提案	3-37

○授業づくりのときに

知りたい項目	内 容	適用	ページ
授業づくりの流れ	授業づくりの S t e p	提案	2- 4
実態把握と 活動内容	授業の構成図	提案	2- 3, 2- 7, 2-16
	事前に確認する	提案	2- 8, 2-17
	実態を把握する	提案	2- 9, 2-18
	Q 個別の教育支援計画とは？	引用・参考	1-12
	Q 個別の指導計画とは？	引用・参考	1-13
目標の設定	Q 育成を目指す資質・能力とは？	引用・参考	1-17
	各教科の学習評価	提案	2-36
	Q 主体的・対話的で深い学びとは？	引用・参考	1-19
	授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）	提案	2-32
	単元（題材）の目標を考える	提案	2-10, 2-19
	本時（題材）の目標及び評価規準を考える	提案	2-24
	単元（題材）の個別の目標を考える	提案	2-13, 2-22
	本時の個別の目標及び評価規準を考える	提案	2-24
	目標及び評価規準について	提案	2-37
	目標及び評価規準の設定ポイント 知識及び技能	提案	2-38
	目標及び評価規準の設定ポイント 思考力、判断力、表現力等	提案	2-40
	目標及び評価規準の設定ポイント 学びに向かう力、人間性等	提案	2-43
学習評価	Q 学習評価とは？	引用・参考	1-18
	各教科の学習評価	提案	2-36
	Q 主体的・対話的で深い学びとは？	引用・参考	1-19
	授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）	提案	2-32
	単元（題材）の評価規準を考える	提案	2-11, 2-20
	本時の目標及び評価規準を考える	提案	2-24
	単元（題材）の個別の評価規準を考える	提案	2-13, 2-22
	本時の個別の目標及び評価規準を考える	提案	2-24
	目標及び評価規準の設定ポイント 知識・技能	提案	2-38
	目標及び評価規準の設定ポイント 思考・判断・表現	提案	2-40
	目標及び評価規準の設定ポイント 主体的に学習に取り組む態度	提案	2-43
活動内容	授業改善の視点（主体的・対話的で深い学び）	提案	2-32
	単元（題材）計画を考える	提案	2-14, 2-23
	本時の指導過程を考える	提案	2-26, 2-28
	・ユニバーサルデザインについて	提案	3-31
	・教室環境の整備について	提案	3-32
教材・教具	・教材・教具の準備について	提案	3-33
	・特別支援教育の教材・教具について	提案	3-34
	・特別支援教育の I C T 活用について	提案	3-35

参考になるWebサイト

文部科学省  https://www.mext.go.jp/  学習指導要領，中央教育審議会答申など	独立行政法人 国立特別支援教育 総合研究所  https://www.nise.go.jp/nc/  特別支援に関する資料，講義動画など
独立行政法人 国立教育政策研究所  https://www.nier.go.jp/  指導資料，事例集など	独立行政法人 教職員支援機構  https://www.nits.go.jp/  研修動画，研修テキストなど
宮城県教育委員会  https://www.pref.miyagi.jp/site/kyouiku/index.html  本県の教育施策，統計資料など	二次元バーコードを読み取るとWeb サイトが閲覧できます。 
宮城県総合教育センター  https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/  実践事例や資料，学習指導案など	https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/kenkyutop.html  長期研修の研究成果や報告書，資料など



宮城県総合教育センター

令和３年度 専門研究 特別支援教育研究グループ

みやぎ授業づくりガイド

発行年月 令和４年３月

編集 宮城県総合教育センター

住所 名取市美田園２丁目１番４号

電話 ０２２－７８４－３５４１